

2022年度 年報

Annual Report 2022



大阪大学国際教育交流センター

Center for International Education and Exchange, Osaka University

巻 頭 言

大阪大学国際教育交流センター長

有 川 友 子

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け始めた2020年から3年目となり、コロナの影響はつづきましたが、オンラインでの各種活動実績を踏まえ、オンラインと対面と様々な活動を行いました。また次第に留学生の受入と派遣も戻り、2022年度後半は多くの対面での活動が復活してきました。その一方で2022年春のロシア侵攻に伴うウクライナ戦争の影響を受ける中、本学の支援プログラムの一環として、本センターにおいてもウクライナ学生の支援を行ってきました。

さて、本年度のトピックスとして、「1. 日本語学習支援体制の強化」「2. 部局別のCIEE利用データに基づく部局長等との面談」「3. CIEE研究協議会シリーズ—多文化交流の最前線」「4. 英語による幼児教育インターンシップの企画・実施」「5. 国際交流基金関西国際センターとの連携による日本語教育プログラム」「6. オンライン交流会「大阪大学×上海交通大学」」「7. 大阪大学におけるウクライナからの学生・研究者支援（CIEEの取り組み）」、「8. 交換留学派遣・受け入れ学生交流会」、以上8件につきまして報告しております。その後、各プログラムや活動について詳細に報告しております。

尚、大阪大学の外国人留学生数は2022年5月1日現在で2,591名となりました。コロナ以前に既に来日していた大多数の留学生、コロナ禍オンラインにて海外から国際教育交流センターの各種プログラムに参加していた留学生も、入国が可能となると、順次来日し、各種の活動を対面で行うことが可能となりました。

最後になりますが、これからもグローバルイニシアティブ機構など関係部署と連携しつつ、国際教育交流センターは留学生中心の部局として、積極的に貢献してまいります。

大阪大学国際教育交流センター
2022年度 年報

目 次

巻 頭 言	1
I. 本年度のトピックス	4
1. 日本語学習支援体制の強化	4
2. 部局別のCIEE利用データに基づく部局長等との面談	6
3. CIEE研究協議会シリーズ ― 多文化交流の最前線	7
4. 英語による幼児教育インターンシップの企画・実施	8
5. 国際交流基金関西国際センターとの連携による日本語教育プログラム	9
6. オンライン交流会「大阪大学×上海交通大学」	10
7. 大阪大学におけるウクライナからの学生・研究者支援（CIEEの取り組み）	11
8. 交換留学派遣・受け入れ学生交流会	12
II. 現 況	13
1. 教員、非常勤講師、特任事務職員等	13
2. 今年度の動き	14
III. 留学生対象日本語プログラム	15
1. 日本語集中コース	16
2. 留学生日本語選択コース	22
3. 全学共通教育	24
4. 国際交流科目	26
5. 学際融合教育科目	27
6. その他	28
IV. 国際教養・専門複合型プログラム	31
1. 行事	32
2. 2022年度春夏学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	33
3. 2022年度秋冬学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	37
4. OUSSEP学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数	41
5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み	41
6. OUSSEP学生対象国際交流科目「インターンシップ実習」	47
V. 授業料徴収型『超短期』プログラム	48
1. 『超短期』プログラム	48
2. 『学外連携実習』ExPERT	49
3. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』J-ShIP （国際交流基金関西国際センターとの連携による日本語教育プログラム）	49
4. Faculty-led プログラム UMOS	50

VI. 留学生支援	52
1. 生活・就学支援	52
2. 地域との連携	59
3. 留学生に対するキャリア支援	61
VII. 海外派遣留学支援	67
1. 短期語学研修プログラム	67
2. 海外留学オリエンテーション	68
3. 大学間交換留学者数	69
4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション	71
5. 海外留学相談	71
6. 英語学習支援プログラム Project HELP !	73
VIII. サポートオフィスの活動	76
1. 査証（ビザ）関連手続きの支援	76
2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援	77
3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催	77
4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催	78
5. ホームページの管理運営	78
6. 各種印刷物の改訂版作成・配布	79
IX. 大学院・学部教育	80
1. 授業担当	80
2. 研究指導	86
3. 研究指導学生学位論文	88
4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ	89
X. その他の活動	90
1. 各種行事	90
2. 海外出張・海外研修	91
3. 出版物・印刷物等（2022年5月から2023年4月まで）	92
4. 来訪者対応	92
5. 研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語	92
6. にほんごテーブル	93
7. CIEE研究会	94
XI. 教員個人データ	96
資料編	
資料1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2022年度 留学生日本語プログラム 時間割	125
資料2 2022年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数（実人数）一覧	129
資料3-1 国際交流科目授業時間割（令和4年春・夏学期）	131
資料3-2 国際交流科目授業時間割（令和4年秋・冬学期）	132
資料4 日本語授業についてのアンケート	133
資料5 国際交流科目 授業評価アンケート（質問票）	135
資料6 国際交流科目 授業アンケート（結果）	140

I. 本年度のトピックス

1. 日本語学習支援体制の強化

【OUマルチリンガルプラザでの対面活動開始・吹田分室開設】

OUマルチリンガルプラザ（以下、プラザ）は、大阪大学で専攻語として学べる 25 言語の自律的な言語学習を支援することを目的としたセルフアクセスラーニングセンター（SALC）で、言語学習に関するリソースの紹介、言語学習に関連したイベントやワークショップ、会話練習、レポートや論文等に対して添削や助言を行うチュータリング、言語学習アドバイジング等を実施している。プラザの実施主体はマルチリンガル教育センターであるが、国際教育交流センター（以下、CIEE）は準備段階から企画に関与し、日本語学習支援の部分を担当している。2022 年度の新しい動きとしては、大阪大学の活動基準が緩和され、2020 年 4 月のプラザ開設後初めて対面での活動を実施できる状況になったことと、吹田キャンパス IC ホール 2 階に分室がオープンしたことが挙げられる。

対面での活動が開始されたことにより、「施設の前を通りかかって知った」「クラスメイトから聞いた」といったきっかけで施設に来る学習者が増えた。また、実際の活動が見学できる状況が生まれ、アドバイジングセッションを利用した学習者がチュータリングに興味を持つ、会話練習に参加した学習者がプラザの他の活動にも参加する等、プラザの提供する複数のサービスが有機的に繋がるようになった。ただし、対面の活動が可能になっても、対面とオンラインが選択できるようにして、キャンパスが異なる学習者や対面活動に抵抗のある学習者にも参加の機会を提供するよう配慮した。

2022 年 4 月に開設された OU マルチリンガルプラザ吹田分室は、CIEE が吹田キャンパス IC ホールで提供している留学生対象の日本語授業と関連させ、日本語の学習支援を中心的な業務としている。吹田では理系の大学院生や研究員の日本語学習ニーズが高いが、研究活動が忙しいため日本語学習活動には予約不要の方が参加しやすいという声があり、予約不要でグループでの会話ができる OMPIC サロン（以下、サロン）を定期的に開催した。サロンでは開催日ごとに「日本で行きたい場所」「日本の生活で知りたいこと」「日本でしたいこと」といった大まかなトピックを決め、グループでの自由会話をを行った。日本語で少し話



写真 1 吹田分室の入口



写真 2 サロンの様子

せるようになったレベルの理系の大学院生・研究者の参加が多く、友達同士で誘い合ったり、研究活動の合間を縫って参加したりする姿が見られた。

【学習/学修支援、多言語・多文化交流促進に関する情報共有・意見交換会の開催】

学内には、CIEE 以外にも言語学習支援や多言語・多文化の交流促進に取り組む部局が多数ある。また、CIEE 内でも、日本語教育研究チームが担当する日本語学習支援に加え、短期プログラム開発研究チームが留学を希望する日本人学生と英語が堪能な留学生をマッチングし、英語学習をサポートする活動（Project HELPI）や、アドバイジング研究チームのサポートの下、学生サークル（国際交流団体 B.S.P.（Brothers and Sisters Program）と大阪大学留学生会（Osaka University International Student Association: OUISA））が企画するイベントや交流活動等、様々な取り組みが行われている。これまで、これらの取り組みについては、各部局に了解を得て OU 日本語ひろばおよび OU マルチリンガルプラザ HP にリンクを貼り、情報提供を行ってきた。しかし、近接する趣旨で行われている複数の活動が重複する曜日・日時で行われており参加者の利用機会が限られてしまう、それぞれが個別に企画・実施されており横のつながりが限定的である等の課題があった。そこで 2022 年度には、現場担当者レベルでの情報共有・意見交換を促進してこれらの課題に対処することを目的とする「学習・学修支援、多言語・多文化交流促進に関する情報共有・意見交換会（以下、意見交換会）」を CIEE 主催で 2 回開催した。

第 1 回は 2022 年 12 月 23 日に対面にて開催され、豊中・吹田・箕面の 3 キャンパスから 9 部局が参加し、各部局の取り組みの概要紹介と意見交換を行った。第 2 回は 2023 年 2 月 14 日にオンラインで開催され、7 部局が参加し、各取り組みの広報方法ならびに 2023 年度の活動予定についての情報共有と意見交換を行った。参加者からは「各取り組みの様子がわかり、参考になった」「横のつながりができてありがたい」等の感想があった。2023 年度以降も年 2 回程度のペースで意見交換会を実施するとともに、オンラインツールを用いた日常的な情報共有・意見交換を継続させる予定である。



写真 3 第 1 回意見交換会の様子

2. 部局別のCIEE利用データに基づく部局長等との面談

本年度、国際教育交流センターは新たな試みとして学部・研究科等の訪問（以下、部局訪問と略す）を行なった。その目的は、学内共同教育研究施設である当センターの活動を全学的に周知するとともに、各部局や研究科による当センターの利用の現状を共有し、情報交換を行うことで、各部局や研究科との連携を継続・強化することである。

部局訪問の日程および訪問先だが、まず第一弾を2022年12月に実施し、年間のべ50名以上のCIEE利用のある9つの学部・研究科を訪問した（法学、基礎工学、文学、工学、医学、経済学、理学、外国語学、人間科学）。その後、2023年3月には、生命機能研究科および人文学研究科を訪問した。その他の独立研究科や研究所、センター等については、2023年度以降に訪問する予定である。

部局訪問の当日は、学部・研究科側からは主に研究科長、副研究科長、国際交流員会メンバー、国際教育交流センター教授会メンバーら（2～5名）が出席し、CIEEからは教員2名（場合により国際部職員1名も参加）が出席した。

なお部局訪問に先立ち、部局や研究科ごとのCIEE利用状況を取りまとめた。具体的には、各種日本語プログラムや国際交流科目の履修状況をはじめ、就職対策支援講座、海外短期研修、海外留学相談、OUマルチリンガルプラザ、ProjectHELP!などの利用者数（2019-2021年度）が含まれる。また部局や研究科ごとの個別データのない項目（IRIS・分室利用、ホストファミリープログラム、スクールビジットプログラム、就職相談）については、全体データとしてまとめた。なお部局訪問の当日には上記の部局データに加え、2021年度に作成したCIEE可視化資料等を持参し、これらのデータを紹介しながら学部・研究科長らと情報交換を行なった。

部局訪問では、部局や研究科ごとに様々な要望やコメント、提案が寄せられた。いくつか例を挙げると、留学生向け日本語プログラムの内容や対象者についての要望、英語で就職活動を行う留学生のニーズ、海外派遣に参加する学生のネットワーク構築についてなどである。またCIEEの取り組みについて、各部局の教職員も十分には理解できていないので、教職員向けFDを希望する声もあった。

教職員向けFDについては、要望に応じて、法学部・法学研究科・高等司法研究科向けに実施することとなった。2023年2月9日（木）に豊中キャンパスの豊中総合学館で実施された（15:00-16:00）。当日は、CIEE教員4名が出席し、留学生の架空事例を参加者らがグループで議論したのち、CIEEによる日本語プログラムやCIEE全体の取り組みを紹介した。またFD後には、オンラインアンケートを実施し、留学生受け入れの現状や、日本語プログラムのニーズなどについての調査を行なった。

さらに部局訪問により寄せられた要望やコメントについては、回答を一覧として取りまとめて訪問部局へ送付するとともに、教授会でも簡単に説明をした（2023年3月24日（金））。また今回把握することのできた全学的なニーズに関しては、来年度以降、CIEEの新たな活動として可能な範囲で反映できるよう検討していく予定である。

3. CIEE 研究協議会シリーズ— 多文化交流の最前線

(1) 国立大学法人留学生指導研究協議会

日時：2023 年 2 月 3 日(金)

場所：ハイブリッド形式（銀杏会館・ZOOM）

標記協議会は国立大学法人に所属する留学生指導担当教職員を対象に毎年開催されている。今年度の本協議会は主題:「持続可能な留学生教育と支援の在り方— 変化する環境と体制の中での可能性—」で対面およびZOOMによるハイブリッド形式で開催された。(ZOOMは第一部のみ) まず、文部科学省高等教育局学生・留学生課より「留学生交流に係る最新状況と令和5年度関連予算案について」説明があった。その後4つの分科会(「A. 教員と職員の協働と学内のネットワーク」「B. 留学生と社会の接続(就職関連、その他プログラム)」「C. 研究者等や家族を含めたトータルな支援の可能性」「D. 留学生の相談・支援を担当する教職員へのサポートの在り方」)に分かれてディスカッションを実施した。分科会での討議及び全体討論を通して、留学生への多様な支援について協議が行われた。開催要領は以下の通り。(出席者:101名、学内:21名・学外:130名、対面:44名・オンライン:57名)

挨拶(13:00-13:10)

I. 留学生受入れに関する施策(13:10-14:00)「留学生交流に係る最新状況と令和5年度関連予算案について」

II. 分科会(14:00-15:30)「持続可能な留学生教育と支援の在り方— 変化する環境と体制の中での可能性—」

A. 教員と職員の協働と学内のネットワーク

B. 留学生と社会の接続(就職関連、その他プログラム)

C. 研究者等や家族を含めたトータルな支援の可能性

D. 留学生の相談・支援を担当する教職員へのサポートの在り方

III. 各分科会からの報告と全体討論(15:30-16:20)

閉会の挨拶(16:20-16:30)

情報交換会(16:40-17:30)

(2) 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

例年、大阪大学各国・地域留学生会の活動とそれぞれの文化について学ぶとともに、参加者と一緒にボランティアとの懇談会を通して意見交換を行い、ネットワークのさらなる充実に資することを目的として実施している。昨年度に引き続き、今年度もコロナウィルス感染拡大のため中止となった。

(3) 第15回専門日本語教育研究協議会

日時：2023 年 2 月 15 日(水) 13:30-17:00

場所：大阪大学コンベンションセンターMOホール

「学部初年次から大学院博士課程までの学習・研究活動に必要な日本語ライティング教育実践の諸相」と

題した第15回の協議会では、多様な在学段階の学生を対象として、教員は、必要な日本語のライティング教育をどのように行ってきたのか、また、それぞれの困難点をどう克服してきたのか等について、具体的な実践例を共有して議論を行った。その際に、学部・大学院横断的、専門分野横断的といった、より広い視野に立って、種々の教育実践を振り返り、今後を展望した。講演者として、立命館大学教授の大島弥生先生からは、「論文の読解から作成に向けて気づきを促す―留学生・大学生のための練習と教材かのアイデア―」、大阪大学教授の堀一成先生からは、「科学分野を主とする高校から大学院まで一貫した日本語ライティング教育」との各々のテーマでご講演をいただいた。国際教育交流センターからも、短い報告を行った。フロアからの質問を含め、活発な全体討論が展開された。詳細については以下のURLを参照。（参加者38名、学内20名）

https://ciee.osaka-u.ac.jp/research_development/japanese_council/



4. 英語による幼児教育インターンシップの企画・実施

2021年度より国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）の学生を対象とした国際交流科目として「インターンシップ実習」を設定している。学外受入機関で、職場見学、職業トレーニングおよび業務補助活動を行うことで、自分がどのような仕事に向いているかを理解し自分自身について新たな発見をすること、自分の経験を活かしてより将来を具体化すること、インターンシップ先の地域についての知識と理解を深めること、日本で働くために必要なコミュニケーション能力を高めること、日本で働くための知識やスキルを身につけることなどをめざしている。

2022年度秋冬学期からは株式会社キンダーキッズが新たな受け入れ先となり、「インターンシップ実習コース3」（英語教育コース）が開始された。株式会社キンダーキッズの関西統括本部は大阪市北区に位置しており、大阪府内では、大阪本校、豊中校、茨木彩都校、ミリカ（吹田校）、高槻校など、計11校の英語保育園「キンダーキッズインターナショナルスクール」を運営している。キンダーキッズインターナショナルスクールでは卒園までに読み書きを含めて「ネイティブの小学校2年生レベルの英語力をつける」ことを目標としており、テーマ学習をはじめ、遠足や音楽などのアクティビティを交えた実践的な学習を通し、英語を習得する。

水曜日（コース3-B）と木曜日（コース3-C）の2つのコースの募集を行ったところ、計5名（水曜日：3名、木曜日：2名）の応募があった。学生の来日前に受入機関と短期プログラム開発研究チームの教員による合同でオンライン面談を行い、5名とも受け入れることとなった。インターンシップ実習に参加するOUSSEP学生は、本学でのオリエンテーションと受入機関でのオリエンテーションを経て、キンダーキッズインターナショナルスクールの各校に分かれて幼児の英語教育・学習のサポートなどに従事した。ウィークリーレポートや最終プレゼンテーション、最終レポートからは、それぞれの学生が子どもたちや教員とのコミュニケーションを通じて、学外に出ることではか得られない経験をしており、そこから自身のキャリアについて考えていたことがうかがえた。

5. 国際交流基金関西国際センターとの連携による日本語教育プログラム

日本学生支援機構によって「Short-stay 型奨学金」が創設されたのに伴い、2011 年秋学期から運用を開始した J-ShIP であるが、11 年目となる 2022 年度に至って大きく運用形態を変換することになった。

創設当時からの J-ShIP の運営実態について概述する。

そもそもは秋学期の前半 2/3（10 週間）と後半 1/3（5 週間）を組み合わせた日本語集中プログラムとして始まり、2012 年度以降は UCEAP（カリフォルニア大学）のサマースクール対応プログラムとして夏期に 8 週間のプログラムを追加した。2013 年度には参加者数が思わしくなかった秋期の 10 週間プログラムの運用を停止して、米国夏期休暇期間中の 8 週間、1 月頃で豪州夏期休暇期間にあたる 4-5 週間の、協定校対象サマープログラムとして資源を集中させて運用してきた（近藤 2012）。その後は一貫して短プロチームによる旗艦サマープログラムとして育成をしてきたものである。

サマースクールであるため、本来的には大学の教育資源が余剰となる時期にしか運営できない制約がある。しかし海外協定校等と本学の休暇期間が合致しているわけでもなく、休暇期間中の学生を日本に誘致するためには、教室を含む本学における教育資源配分の工夫が欠かせない。

そのため短プロチームでは「学生数に比べ教室にゆとりのある旧大阪外大の箕面キャンパス」と「箕面周辺の学生アパート」を組み合わせることで、J-ShIP に興味を持つ海外大学のニーズに应运えてきた。そして UCEAP による認定サマースクールのひとつとして、夏だけでも毎年 50 名内外の学生を UC から受け入れるまでに成長させてきている。ただし 2020 年から 2022 年夏にかけては新型コロナウイルスによる渡航中止の影響を受け、プログラム運営がストップされるに至った。そしてその期間中の 2021 年 4 月には箕面キャンパスが移転した。それに伴い、箕面の学舎は小さいながらもスペースにゆとりのあるキャンパス型校舎から、駅近ながら狭隘な敷地にビル、という都市型キャンパスに生まれ変わってしまう。同時に旧箕面キャンパスは閉鎖されたため、従来の方針の下では協定校等のスケジュールにあわせて本学の授業期間中にプログラムを実施するのは不可能になっている。

その一方、コロナ後の実留学再開を見越して何らかの手を打たなければ、折角育ててきた J-ShIP の芽が萎む。2022 年度前半には様々な可能性を求め、以下の様な可能性を検討してきた。

- (1) 各部局の空き教室を探しながら学内で実施
- (2) 公民館・塾教室昼使用など「大学近辺に教室」を求める
- (3) その他

上記の中でも (1) 以外であれば、学外機関との連携および教室使用料が必要になる。そして様々な検討の結果としては「(3) その他」が選択された。具体的には北摂の大学キャンパスからは遠いものの、和泉に位置する国際交流基金関西国際センターとの連携に活路を見出すことがベストであると判断するに至った。

関西国際空港近くに立地する当該センターは、宿泊室 130 室以上を備えた近代的な宿泊研修施設である。また言うまでもないが、国際交流基金は日本語教育について日本を先導してきた。また教材についても充実したラインナップを備えるとともに、コロナ禍で実受け入れがストップしている間でも、オンライン化も含め、教材の内容も質も一層高めてきていた。様々なコネクションで情報を集めた結果、基金側は利用率の向上を願っているなど、様々な意味で本学との間に Win-Win の関係を構築することが出来る事情が判ってきた。

本学としての教育コンテンツの十分な吟味や、学生交流の機会創出を含む運営上の協力などによって、「新たな形態の J-ShIP」として運営が出来ると判断できた。それらの思惑も一致した結果、国際交流基金関

西国際と本学国際教育交流の両センター間で協定を締結、2022年度冬期に運営をはじめ、まず最初に豪州や韓国から19名の受け入れを実現させた。

なお、両センター間の協定にはJ-ShIPで好評を得てきた「ホームステイ」についても対応可能な条文が含まれている。基金のセンターは宿泊研修施設であることから、本来的に無理である事項だが、UCEAP等からの高い要望にも十分に應えるために無理にお願いをした結果である。また冬期の豪州・韓国向けには暫定的に旧J-ShIPを対象とした「JAcc」という科目名で運営をされたのだが、基金が有する教材や教育コンテンツを前提とした「JF」科目も2023年度からは整備されることになり、今後は教育面でも万全の受け入れが調った。

両機関の結果として、本学で整備され、既に定評も十分な運用実績もある日本語教育基盤「OUスタンダード」に加えて、J-ShIPを切っ掛けとした連携によって基金が設けた「JFスタンダード」という新たなリソースを得たとも言える。そもそもは教室や宿舍の融通・確保から始まった連携ではあるが、今後とも様々な方向で連携を深め、豊かな日本語教育環境が整備される切っ掛けになることを願いたい。

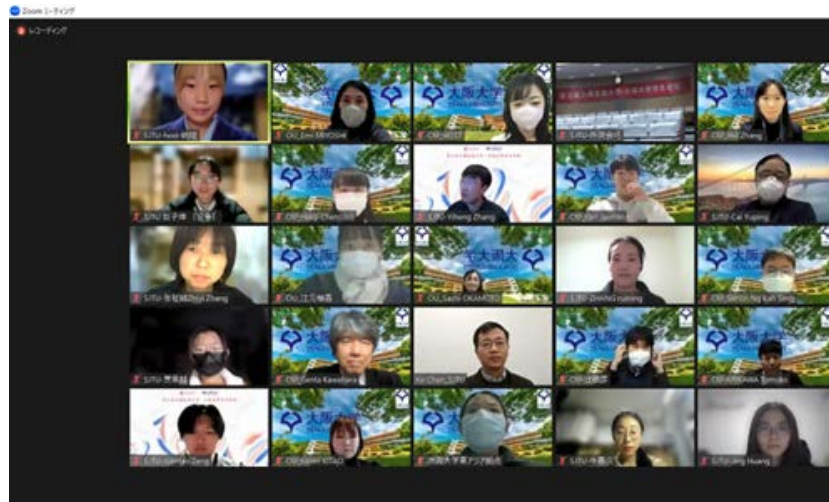
近藤佐知彦（2012）SSプログラムJ-ShIPの一年目：新コンセプト超短期 日本語プログラムへの挑戦 多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集、16 p.97-p.106

6. オンライン交流会「大阪大学×上海交通大学」

上海交通大学は、大阪大学のグローバルナレッジパートナーであり、1995年以降、両大学の間では、毎年学術交流セミナーが開催されてきた。この学術交流セミナーは主に研究者間の交流を目的としたものだが、今年度は初めての試みとして、学生間交流イベントを開催する運びとなった。

大阪大学側では、GI機構および国際教育交流センターの教職員に加え、学生交流団体であるB. S. P.のメンバーが中心となってイベントの企画を行った。コロナ禍のため、当日までの打ち合わせも含めて全てのプロセスがオンラインで行われた。両大学による初めての顔合わせは2022年8月下旬だったが、その後、12月中旬までの本イベントに向け、リハーサルを含めた準備のために学生を中心としたオンラインミーティングが複数回行われた。オンラインによるやりとりに加え、11月には新型コロナウイルス蔓延により上海交通大学側がロックダウンされるなどのトラブルに見舞われたが、その後のミーティングでは、ロックダウン中の状況などが上海側の学生や教職員から共有され、大阪大学の学生や教職員にとっても非常に良い学びの機会となった。

そして、2022年12月14日（水）の17：30から、「大阪大学×上海交通大学交流会」がオンラインで開催された。当日は、両大学の学生や教職員68名が参加した。両大学の代表の学生による挨拶ののち、各大学の学生が交代で学生生活や文化交流など様々なテーマについてのプレゼンテーションを行った。また事前に作成した動画も紹介された。それぞれの大学における学生の1日の様子や、留学中の生活、お互いの国についてのインタビューなど、いずれも工夫を凝らした内容のものだった。その後、ブレイクアウトルームに分かれてグループディスカッションが行われた。学生間で様々な観点からの意見交換が行われ、日中の文化や学生生活について知ることのできる有意義な時間となった。



7. 大阪大学におけるウクライナからの学生・研究者支援（CIEEの取り組み）

国際教育交流センターでは「大阪大学におけるウクライナからの学生・研究者支援」の方針^{*}に基づき、令和4年度にウクライナの学生2名を受け入れ、教育と支援を行った。

具体的には、ウクライナ学生支援プログラム及びその担当として受入れ委員会を立ち上げ、国際部国際学生交流課と緊密に連携しながら対応した。また、戦争状態という大変な状況にある母国から日本に留学するウクライナ学生に対する教育と支援において必要な配慮などについて、キャンパスライフ健康支援相談センターへ事前に相談し、対応する教職員や学生へのアドバイスをいただいた。更に、本学学生の中からウクライナ学生をサポートするチューターを雇用し、キャンパスライフ健康支援相談センターからのアドバイスを含めて、担当の委員から事前にオリエンテーションを行った。

来日時期が異なったウクライナ学生それぞれと来日前からコンタクトを取り、勉学や生活のニーズを把握し、まずは安心して来日できるようにサポートを行った。

来日後は、担当の委員が各学生と個別に定期的なホームルーム（ミーティング）を行っている（7月末の来日以降、初めの1ヶ月は週に1回、その後は2～3週間に1度の頻度で実施しており、2023年3月現在も継続）。各学生個人の事情や状況、日本語学習、将来計画などについて丁寧に聴きながら、大学として可能なサポートを行うとともに、各種のアドバイスを継続して行っている。

来日時期により、1名の学生に対しては、大学の正規授業が開始するまでの8月から9月にかけて、対面とオンラインを併用し計15回の日本語個人レッスンを実施した。正規授業開始後の来日となった1名に対しては、11月から2月にかけて週に2回、TF（Teaching Fellow）による日本語学習のサポートを行った。

チューターについては、来日直後は3か月、2～3名体制で、各ウクライナ学生のサポートを行う体制とした。上記期間終了後は、各学生のニーズにあわせて学生によるサポートを継続した。また担当委員によるチューターに対するオンラインミーティングも定期的に行い、留学生の状況をチューターから確認して今後の方針を定めるとともに、チューターに対するケアやサポートも行った。

国際教育交流センターでは全学の留学生を対象とした教育とサポートを行っているが、今回のウクライナ学生のように、戦争状態にある母国から留学するという、多くの留学生とは全く異なる背景と状況に置かれた留学生を組織として受け入れたのは初めてのことであった。令和5年3月の時点において、戦争は続

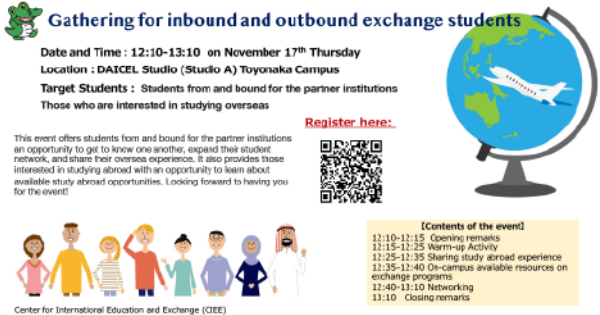
き大変厳しい状況は続いているが、ウクライナの学生それぞれが、大変困難な中にありながら真摯に勉強に励み、将来に向けて努力を続けている。国際教育交流センターは令和5年度もウクライナ学生への教育と支援を続けていく予定である。

*「大阪大学におけるウクライナからの学生・研究者支援について」<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2022/04/22002>
(参照日 2023 年 3 月 31 日)

8. 交換留学派遣・受け入れ学生交流会

令和4年度より協定校から本学で学んでいる交換留学生、海外の協定校で学び帰国した大阪大学の学生、これから留学をする学生、交換留学に興味のある学生を対象に交流会を実施した。留学生より大阪大学の日本人学生と知り合う機会がない、海外へ留学をした学生からは本学で学ぶ留学生とネットワークを広げたい、これから留学する学生からはすでに留学をした先輩から話を聞きたいというような声があり、このような機会を設けることとなった。

令和4年度は11月17日（木曜日）のお昼の時間を活用し、豊中キャンパスのダイセルスタジオで、交換留学派遣・受け入れ学生交流会を実施した。63名の交換留学生、留学をし帰国した大阪大学の学生、来年から留学をする学生、交換留学に興味のある学生が本交流会に参加し、共に海外の大学での学びや経験を共有し、学生ネットワークを広げることができた。本交流会は学期ごとに一度今後も実施し、学生同士の交流の機会を提供していく予定である。



Gathering for inbound and outbound exchange students

Date and Time: 12:10-13:10 on November 17th Thursday
Location: DAICEL Studio (Studio A) Toyonaka Campus
Target Students: Students from and bound for the partner institutions
 Those who are interested in studying overseas

Register here:



[Contents of the event]
 12:10-12:15 Opening remarks
 12:15-12:25 Warm-up Activity
 12:25-12:35 Sharing study abroad experience
 12:35-12:40 On-campus available resources on exchange programs
 12:40-13:10 Networking
 13:10 Closing remarks

Center for International Education and Exchange (CIEE)
 Email: goabroad@ciece.osaka-u.ac.jp



交換留学派遣・受け入れ学生交流会
 交換留学に興味のある学生さん是非ご参加ください！

日時: 令和4年11月17日（木曜日）12:10-13:10
場所: 豊中キャンパスDAICEL Studio (Studio A)

参加対象者: 交換留学に興味のある学生、これから留学する学生、交換留学を終え帰国した学生、協定校から派遣され現在大阪大学で学んでいる留学生

事前参加登録はこちら



「海外の協定校からの留学生とお友達になりたい！」
 「海外の協定校の情報が欲しい！」
 「交換留学をした先輩から留学経験談を聞きたい！」
 「交換留学に興味がある仲間を募りたい！」
 「留学の準備を進めるには学内でどんなリソースがあるのか知りたい！」
 そんな方はぜひご参加ください！」

【交流会の流れ】
 12:10-12:15 開会挨拶
 12:15-12:25 Warm-up アクティビティ
 12:25-12:35 留学生と留学経験者から一言
 12:35-12:40 留学に関する学内リソースの共有
 12:40-13:10 交流会
 13:10 終わりの挨拶

国際教育交流センター企画プログラム開発研究チーム
 Email: goabroad@ciece.osaka-u.ac.jp



交流会の当日の様子

Ⅱ. 現 況

※国際教育交流センターの運営形態と組織については、<https://ciee.osaka-u.ac.jp/about/organization/#>をご参照ください。

1. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※2022年4月現在を基本とする。

センター長		有川 友子 (Ph.D、Education)
交流アドバイジング	教授	有川 友子
研究チーム	准教授	岡本 紗知 (Ph.D、Microbiology)
	准教授	魚崎 典子 (特任、博士 (工学))
短期プログラム開発	教授	近藤 佐知彦 (Ph.D、Social Science)
研究チーム	准教授	石倉 佑季子 (博士 (人間科学))
日本語教育研究	教授・副センター長	村岡 貴子 (博士 (言語文化学))
チーム	教授	義永 美央子 (博士 (言語文化学))
	准教授	大谷 晋也 (修士 (言語文化学))
	准教授	難波 康治 (教育学修士)
	准教授	西村 謙一 (法学修士)
	准教授	中俣 尚己 (博士 (言語文化学))
	講師	韓 喜善 (特任、博士 (言語文化学))
	講師	福良 直子 (博士 (言語文化学))
	助教	瀬井 陽子 (特任、修士 (文学))
兼任教員	留学生	東条 佳奈 (助教、人文学研究科)
	専門教育教員	安元 佐織 (講師、人間科学研究科)
		EL BALTI BELIGH (准教授、法学研究科)
		勝又 壮太郎 (准教授、経済学研究科)
		香門 悠里 (講師、理学研究科)
		藤田 清士 (教授、工学研究科)
		寺井 智之 (講師、工学研究科)
		中橋 真穂 (助教、工学研究科)
		堀 さやか (助教、工学研究科)
		森川 耕輔 (講師、基礎工学研究科)
非常勤講師		伊藤 創、YUN HYEUN、上田 安希子、浦木 貴和、遠藤 知佐、岡崎 洋三、 岡田 亜矢子、小原 俊彦、蔭山 拓、住吉 秀紀、竹内 茜、寺尾 彰二、 畑中 香乃、花井 理香、半田 佳奈子、藤澤 好恵、宮崎 さとみ、矢部 正人、 山崎 深雪、山田 真知子

招へい教員	三森 八重子
	中野 遼子
	渡邊 泰久
招へい研究員	花井 理香
特任事務職員	三好 絵美（留学生交流情報室）
	豊野 由紀子（短期チーム）
	渡邊 由美子（短期チーム）
	北野 智恵（サポートオフィス）
事務補佐員	垣塚 保子（短期チーム）
	柏原 美佐緒（短期チーム）
	吉田 恵（短期チーム）
	山下 結加（サポートオフィス）
	勝矢 智子（日本語教育チーム）
	高森 洋志子（日本語教育チーム）
留学生交流情報室 スタッフ	大野 奈苗（2022 年 12 月 31 日まで）、網 ひとみ（2023 年 1 月 31 日まで）、
	村田 いづみ、岸邊 典子、山岸 美穂、木場 まり（2023 年 1 月 1 日から）、
	宮島 一葉（2023 年 1 月 1 日から）

2. 今年度の動き

2021 年度をもって退職した西口光一教授の後任として、4 月に中俣尚己准教授が着任した。

同じく 2021 年度をもって東北大学に異動となった中野遼子特任助教の後任として、5 月に林貴哉特任助教が着任した。

韓喜善特任講師は、本年 3 月末をもってセンターから転出し、4 月からは大阪樟蔭女子大学学芸学部为准教授に着任する。

林貴哉特任助教は、本年 3 月末をもってセンターから転出し、4 月からは武庫川女子大学文学部の講師に着任する。

Ⅲ. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記の表1に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施/提供している。学生の多様な日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心に提供するプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100 レベル）から、日本語能力試験N1 相当以上の超上級レベル（700 レベル）まで7段階のレベルを設定している。表1の1～5の各プログラムの時間割、および、選択コースの履修登録状況は、巻末記載の資料1、資料2に示している。

表1 全学の留学生を対象とした日本語プログラムの概要

対象留学生		プログラム名	レベル
大学院生・研究生	国費大使館推薦	1. 留学生日本語集中コース	100 ～ 300
	全学	2. 留学生日本語選択コース	100 ～ 700
	全学	3. 学際融合教育科目*	600 ～ 700
学部留学生	一般正規生	4. 全学共通教育：第2外国語/国際教養*	700
	学部英語コース	4'. : 第1外国語*	100 ～ 600
短期留学生		5. 国際交流科目（日本語）*	100 ～ 600

*単位あり正規科目

2022（令和4）年度の春～夏学期・秋～冬学期の履修者合計は667名（図1）で、昨年度（578名）と比べて89名増え、15%増となった。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染防止への対応はなされていたものの、昨年度も一昨年度（521名）と比較して10%増であったことから、着実に留学生の新規来日は増加を続けていると言え、履修者数はコロナ前の2019（令和元）年度の水準に近づいている。履修

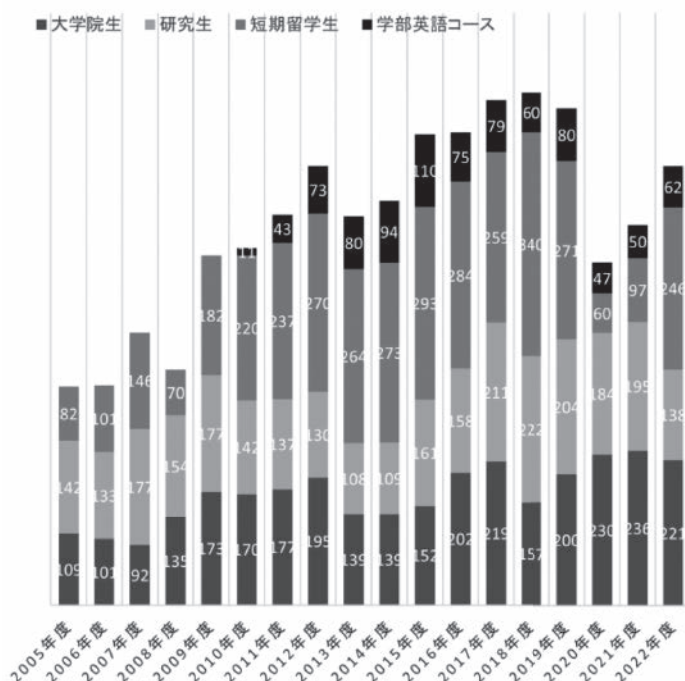


図1 年度別・身分別の履修者数の推移
（学部一般正規生（上表の4）を除く）

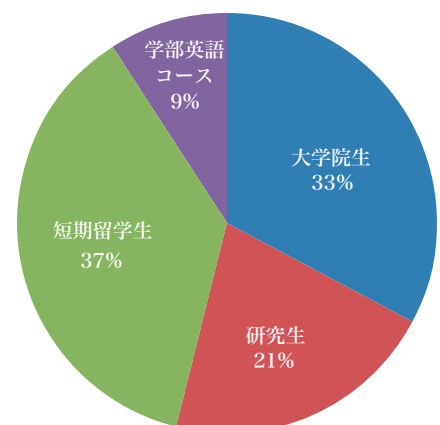


図2 2022年度履修者の身分別分布

者身分別の分布は、短期留学生（37%）と大学院生（33%）の割合が高く、その二者で7割を占める（図2）。アフターコロナの時代には、種々の短期プログラムによる学生のモビリティの活発化が予想される。さらに、2022（令和4）年度の秋冬学期からは、学期当初より、多くの授業科目で対面授業が実施されるようになっているが、オンラインリソース活用の試みも広がっている。

1. 日本語集中コース

日本語集中コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語予備教育生（以下、学生）の大部分は、文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。

なお、国費留学生の中には、他大学の大学院に進学予定の学生も数名いるが、大阪大学は近畿圏における他大学に進学するこれらの留学生を広く受け入れている。

学生は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100・IJ200・IJ300の3クラスに分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについて視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションと質疑応答が行えるようになることである。学期末には修了発表会を実施し、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。この修了発表会には学生の研究指導教員を招待する他、発表準備の過程を随時指導教員に報告し、集中的な日本語学習と研究活動との接続に配慮している。また、大学での研究活動遂行に適した日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした開発教材を授業で活用し、さらに改善を重ねている。

なお、56期に関しては、2020年度来の新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により学生の渡日時期が不統一であったため、原則として時差対応を行いつつメディア授業を実施し、学生の来日状況に応じて一部対面授業や個別対応を行った。

(1) IJ100

① 概要

100クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。例年は、授業時間数は1週間当たり13コマで、うち2コマを漢字と語彙のクラスにあてている。100クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

本年度は、56期は学期途中までグループ別にオンラインで7コマと5コマ、学期途中から対面で13コマという授業体制で、57期は学期当初から対面で授業を実施した。

② 時間割

第56期・第57期 日本語集中コースIJ100 クラス時間割（令和4年度）

第56期（4月・5月 Aグループ：アジア・オセアニア・南米 ※オンライン）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 9:00-9:45 ※45分	コミュニケーション 行動 IJ100A				
2時間目 10:30-12:00		コミュニケーション 行動 IJ100A	チュートリアル IJ100A	コミュニケーション 行動 IJ100A	
3時間目 12:10-13:40		コミュニケーション 行動 IJ100A		コミュニケーション 行動 IJ100A	コミュニケーション 行動 IJ100A

第56期（4月・5月 Bグループ：アジア・中東・アフリカ ※オンライン）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
3時間目 13:30-15:00			コミュニケーション 行動 IJ100B		チュートリアル IJ100B
4時間目 15:10-16:40			コミュニケーション 行動 IJ100B		コミュニケーション 行動 IJ100B
5時間目 17:00-17:45 ※45分	コミュニケーション 行動 IJ100B				

第56期（6月～A・Bグループ合同 ※対面）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20	コミュニケーション 行動				
2時間目 10:30-12:00	コミュニケーション 行動		チュートリアル		チュートリアル
3時間目 13:30-15:00	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動
4時間目 15:10-16:40		コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動

第57期（対面）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30-12:00	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	チュートリアル		
3時間目 13:30-15:00	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	
4時間目 15:10-16:40	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動
5時間目 16:50～18:20					コミュニケーション 行動

(2) IJ200

① 概要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は基本的には1週間当たり12コマ（11コマの200クラス専用授業とチュートリアル1コマおよび選択必修の漢字・語彙クラス）で構成されている。56期は5月までは時差別に2グループ、6コマずつでオンライン授業として構成され、6月からはグループ合同で12コマ対面授業を実施した。57期は対面で1クラス12コマを実施した。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「200クラス日本語（コミュニケーション行動）（IJ200）」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。

② 時間割

第56期・第57期日本語集中コースIJ200 クラス時間割（令和4年度）

第56期（4月・5月 Aグループ：アジア・南米 ※オンライン）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 8:50-10:20	漢字と語彙 JK201 または JK202 (Aグループ)	コミュニケーション 行動 (Aグループ)	読解 (Aグループ)	コミュニケーション 行動 (Aグループ)	コミュニケーション 行動 (Aグループ)
3時間目 10:30-12:00	専門日本語プレゼン テーション基礎 (Aグループ)				

※漢字と語彙：JK201 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

第56期（4月・5月 Bグループ：アフリカ・ヨーロッパ ※オンライン）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
3時間目 13:30-15:00			読解 (Bグループ)		コミュニケーション 行動 (Bグループ)
4時間目 15:10-16:40	専門日本語プレゼン テーション基礎 (Bグループ)	コミュニケーション 行動 (Bグループ)	漢字 (Bグループ)	コミュニケーション 行動 (Bグループ)	

第56期（6月～A・Bグループ合同 ※対面）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 JK201 または JK202			読解	
3時間目 13:30-15:00	専門日本語プレゼン テーション基礎	コミュニケーション 行動	チュートリアル	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動
4時間目 15:10-16:40	専門日本語プレゼン テーション基礎	コミュニケーション 行動	読解	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動

※漢字と語彙：JK201 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

第 57 期（対面）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20	漢字と語彙 JK201				
2 時間目 10：30-12：00	専門日本語プレゼン テーション基礎	コミュニケーション 行動	チュートリアル	読解	コミュニケーション 行動
3 時間目 13：30-15：00	専門日本語プレゼン テーション基礎	コミュニケーション 行動	読解	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動
4 時間目 15：10-16：40				コミュニケーション 行動	

(3) IJ300

① 概要

300 クラスは、日本語を 1～2 年、約 200～300 時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は 1 週間当たり 9 コマで、「コミュニケーション行動」7 コマ、「漢字と語彙」1 コマ、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1 コマで構成されている。授業では、現代社会に関するいくつかのトピックおよび日本語学習者に関するストーリーを取り扱い、読解、聴解、ディスカッション、エッセイの作成を通じて中級レベルの日本語技能の習得を目指す。「漢字と語彙」では語彙を学習する。56 期は、学生の多くが渡日できない期間が続いたことからリモートで授業を行ったものの、学生の出身地域の時差はさほど大きくなかったため、従来の時間割通りに授業を実施できた。57 期も、学期当初はリモートで授業を実施したが、学生がすべて渡日した 11 月から対面での授業を行った。

② 時間割

第 56 期・第 57 期 日本語集中コース IJ300 クラス時間割（令和 4 年度）

第 56 期（オンライン）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20				漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2 時間目 10：30-12：00	漢字と語彙 漢字系 JK302		コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	
12：00-13：30 昼休み					
3 時間目 13：30-15：00	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	チュートリアル
4 時間目 15：10-16：40		コミュニケーション 行動			

※漢字と語彙：JK301 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK302 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

第 57 期（10 月中はオンライン、11 月以降は対面）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8：50-10：20				漢字と語彙 非漢字系 301	
2 時間目 10：30-12：00	漢字と語彙 漢字系 JK302		コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	
3 時間目 13：30-15：00	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	チュートリアル
4 時間目 15：10-16：40		コミュニケーション 行動			

○コーディネータ

福良直子、中俣尚己（IJ100 クラス）、村岡貴子（全体・IJ200 クラス）、西村謙一（IJ300 クラス）

○学生数と身分別内訳

クラス別人数

	IJ100	IJ200	IJ300	計
第 56 期	13	10	7	30
第 57 期	13	5	5	23
合計	26	15	12	53

身分別人数

	大使館推薦※1	教員研修※2	学内応募※3	計
第 56 期	22	0	8	30
第 57 期	12	4	7	23
合計	34	4	15	53

※1 大使館推薦クラス別内訳

	IJ100	IJ200	IJ300	計
第 56 期	12	6	4	22
第 57 期	8	2	2	12
合計	20	8	6	34

※2 教員研修クラス別内訳

	IJ100	IJ200	IJ300	計
第 56 期	0	0	0	0
第 57 期	2	1	1	4
合計	2	1	1	4

※3 学内応募クラス別内訳

	IJ100	IJ200	IJ300	計
第 56 期	1	4	3	8
第 57 期	3	2	2	7
合計	4	6	5	15

教員研修生を除く、大使館推薦の配置（進学）先別内訳

	IJ100		IJ200		IJ300		計
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	
第 56 期	7	5	4	2	4	0	22
第 57 期	4	4	0	2	2	0	12
合計	11	9	4	4	6	0	34

○学生の出身国と配置（進学）先一覧

学生の出身国

国名	第 56 期	第 57 期
アルゼンチン	1	
アンゴラ	1	
インドネシア	2	4
ウズベキスタン		2
エジプト	1	
エチオピア	2	
エルサルバドル	1	1
カザフスタン		1
カンボジア	1	
ギリシャ		1
シリア	1	
セルビア	1	
タイ	1	1
タンザニア	1	
チュニジア		1
チリ		1
トルコ	1	
ニュージーランド		1
パキスタン	1	1
パプアニューギニア	1	
フィリピン	1	3
ブラジル	2	
ベトナム	2	
ベネズエラ	1	
ポルトガル	1	
ホンジュラス	1	
マレーシア		2
モンゴル	1	
ラトビア		1
ルワンダ		1
中国	5	2
合計	30	23

配置（進学）先一覧

配置（進学）先	第 56 期	第 57 期
医学系研究科	4	2
薬学研究科		2
経済学研究科	1	1
人文学研究科	2	
工学研究科	3	2
工学部	4	
国際公共政策研究科	1	
歯学研究科	1	
情報科学研究科	3	2
微生物病研究所		3
理学研究科	2	
産業化学研究所		1
人間科学部	1	
蛋白質研究所	1	
大阪公立大学	1	
大阪教育大学		4
奈良女子大学	1	
奈良先端科学技術大学院大学	5	6
合計	30	23

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、全学の大学院生および大学院入学を希望する研究生である。これらの留学生の中には、研究活動の遂行に必要なアカデミックな日本語能力の養成を必要とする者もいれば、研究活動や大学院入試は英語で行われるが、研究室等での日常的なコミュニケーションに日本語を必要とする者もいる。そのため、日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目を開講し、学内の留学生の幅広い日本語学習ニーズに対応している。受講希望者は本センターが開発した日本語レベルチェックをウェブ上で受け、各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案し、該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 700 レベルまでの 7 レベル）の科目群の中から、必要な科目を週当たり 1 ～数科目選択できるように設定されている。

○開講科目

100 から 300 までの入門～中級前半レベルでは、総合日本語（JB）および漢字と語彙（JK）で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、アカデミックな日本語をスキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語科目を提供している。

表 1 2022 年度選択コース授業一覧

	総合日本語 (JB)	漢字と語彙 (JK)	アカデミック リーディング	アカデミック ライティング	アカデミック コミュニケーション	ビジネス日本語 コミュニケーション
100 (入門)	JB100					
200 (初級)	JB200	JK201 (非漢字系) もしくはJK202				
300 (初中級)	JB300	JK301 (非漢字系) もしくはJK302				
400 (中級)				JW400/500	JC400/500	
500 (中上級)						
600 (上級)			JR600/700	JW600/700	JC600/700	BJ500/600/700
700 (超上級)						

○履修登録者数

実数で春～夏学期 162 名、秋～冬学期は 168 名の計 330 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、研究生が 127 名（特別研究学生、特別聴講学生を含む）、大学院生の履修者は 203 名であった。2021 年度と比較すると大学院生の履修者数は 204 名から横ばいであるのに対し、研究生は 66 名から大幅に増加した。COVID-19 の影響がまだ強く残っていた 2021 年度とは異なり、今年度は研究生の受入が回復したことがこの背景にあると考えられる。部局別では、工学研究科（春～夏学期 39 名、秋～冬学期 59 名）を筆頭に、16 研究科／学部および 5 研究所 4 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えている。

○履修者のレベル分布

年間を通じ、初級～初中級（レベル 200 ～ 300）および超上級（レベル 700）の履修者が多かった。

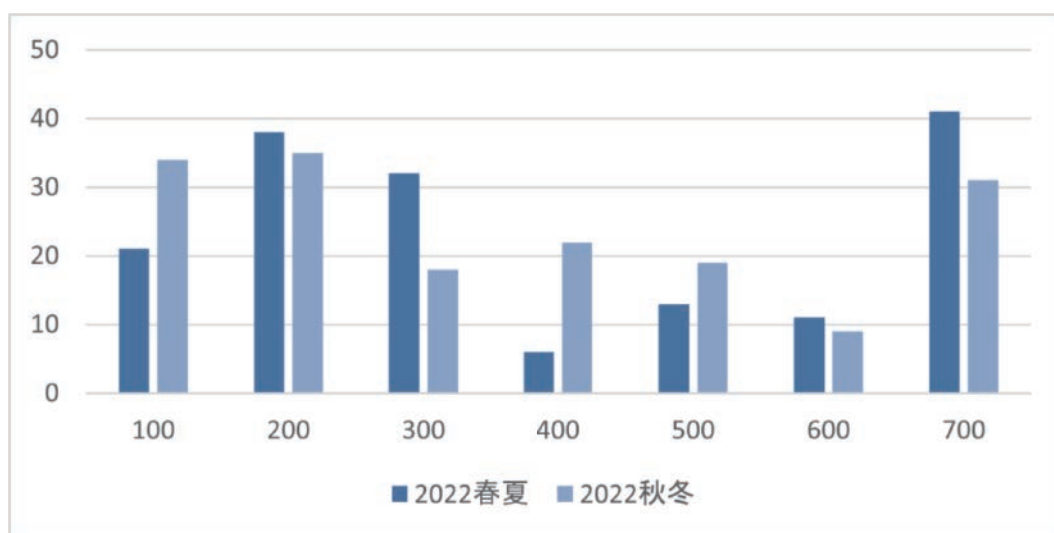


図3 レベル別の履修者数（日本語選択コース）

3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、2018年度以降、「第2外国語」と「グローバル理解」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第2外国語」として、後者を「グローバル理解」として履修する位置づけとしている。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生が協働してプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2014年度後期（現：秋～冬学期）からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにした。2016年度・2018年度・2020年度には、それまで増やしてきたコマを整理し直し、学生の受講機会の維持に配慮しつつ、受講者の少なかった授業をそれぞれ2コマ・1コマ・1コマ削減した。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「学問への扉（マチカネゼミ）」「アドヴァンストセミナー」（いずれも「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、2022年度には計24コマ（実質16コマ）を提供した。

なお、日本語関係科目は、他の外国語関係科目と同様、2018年度に発足したマルチリンガル教育センターが所管することとなり、授業担当者全員が当該センターの兼任教員となっている。うち2名が運営に携わった。

○マルチリンガル教育センター兼任教員

有川 友子 教 授	村岡 貴子 教 授	義永 美央子 教 授
難波 康治 准 教 授	西村 謙一 准 教 授	石倉 佑季子 准 教 授
岡本 紗知 准 教 授	福良 直子 講 師	（マルチリンガル教育センター広報委員会委員）
大谷 晋也 准 教 授	（マルチリンガル教育センター運営委員会およびカリキュラム委員会委員）	

○提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- ・総合日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期1コマ計3コマ提供）
大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。
- ・専門日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期3コマ計5コマ提供）
各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) 国際教養 2

- ・多文化コミュニケーション（日本語）

（2単位：春～夏学期 5 コマ・秋～冬学期 3 コマ計 8 コマ提供）

下記(3)のセミナー科目を受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 学問への扉（マチカネゼミ）（春～夏学期）・アドヴァンストセミナー（秋～冬学期）

- ・多文化コミュニケーションセミナー

（2単位：春～夏学期 5 コマ・秋～冬学期 3 コマ計 8 コマ提供）

上記(2)の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○ 共通教育提供科目・担当者一覧

春～夏学期

(1) 第 2 外国語

授業科目名	担当者
総合日本語	福良 直子
総合日本語	難波 康治
専門日本語	義永美央子
専門日本語	難波 康治

(2) 国際教養 2

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	有川 友子
多文化コミュニケーション（日本語）	石倉佑季子

(3) 学問への扉（マチカネゼミ）

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	有川 友子
多文化コミュニケーションセミナー	石倉佑季子

秋～冬学期

授業科目名	担当者
総合日本語	福良 直子
専門日本語	難波 康治
専門日本語	義永美央子
専門日本語	村岡 貴子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也

アドヴァンストセミナー

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也

4. 国際交流科目

本学では、英語（もしくはその他の外国語）で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生や大学院生を主な対象とする日本語科目（JA）およびグローバル理解演習科目（JGU）を提供している。これらの授業は、インターナショナルカレッジ（英語コース）学生のための共通教育日本語科目との同時開講の形で実施している。JAの各クラスでは、90分の授業が週に3コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようなカリキュラムを編成し、100（入門）から400（中級）の4レベルで各2トラック（秋～冬学期のJA100は3トラック）を開講した。トラック1は主としてiExPO、Frontier-Lab@ OsakaU等の短期留学生および大学院生、トラック2は主としてOUSSEP学生が受講している。どのレベルでも常勤教員が担当する授業（lecture）は複数トラックの合同クラスとして開講し、トラック間の交流を図るとともに、限られた人員・予算の中で学生数の増加に対応するよう努めている。また500レベル・600レベルの授業は内容・言語統合型学習（CLIL）を取り入れた「グローバル理解演習（JGU500・600）」という名称で実施している。

○提供科目と担当者一覧

春～夏学期		秋～冬学期	
授業科目名	担当者	授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波康治・岡田亜矢子・蔭山 拓	JA100 トラック1	難波康治・岡田亜矢子・蔭山 拓
JA100 トラック2	難波康治・花井理香	JA100 トラック2	難波康治・花井理香
JA200 トラック1	大谷晋也・矢部正人	JA100 トラック3	難波康治・住吉秀紀
JA200 トラック2	大谷晋也・半田佳奈子	JA100 トラック4	難波康治・住吉秀紀
JA300 トラック1	中俣尚己・住吉秀紀・上田安希子	JA200 トラック1	大谷晋也・上仲 淳・矢部正人
JA300 トラック2	中俣尚己・岡崎洋三	JA200 トラック2	大谷晋也・半田佳奈子
JA400 トラック1	義永美央子・宮崎さとみ・岡崎洋三	JA300 トラック1	中俣尚己・住吉秀紀・上田安希子
JA400 トラック2	義永美央子・小原俊彦	JA300 トラック2	中俣尚己・上田安希子・岡崎洋三
JGU500-d	韓 喜善	JA400 トラック1	義永美央子・宮崎さとみ・岡崎洋三
JGU500-e	藤澤好恵	JA400 トラック2	義永美央子・矢部正人
JGU500-f	中俣尚己	JGU500-a	韓 喜善
JGU600-d	矢部正人	JGU500-b	藤澤好恵
JGU600-e	大谷晋也	JGU500-c	中俣尚己
JGU600-f	伊藤 創	JGU600-a	岡崎洋三
		JGU600-b	大谷晋也
		JGU600-c	小原俊彦

5. 学際融合教育科目

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されている。大学院に在籍する留学生の増加に伴い、研究活動の遂行のために必要なアカデミックな日本語能力の必要性が高まっているが、本センターではこのようなニーズに対応するため、「上級専門日本語 アカデミック・リーディング A・B」「上級専門日本語 アカデミック・ライティング A・B」「上級専門日本語 アカデミック・コミュニケーション A・B」の3科目を学際融合教育科目として提供している。さらに、大学院修了後のキャリア形成を念頭に置いた「ICTを利用した留学生のためのキャリアデザイン」（春～夏学期）・「多様性のための社会人としてのコミュニケーション」（秋～冬学期）や、自律的な言語学習およびその支援をテーマとする「第二言語学習方法論」（春～夏学期）・「言語学習アドバイジング入門」（秋～冬学期）のほか、「研究活動に必要な日本語による音声・書記言語コミュニケーションの世界」（春～夏学期）も開講している。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は1科目あたり2単位を取得することができる。これらの科目では、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野を超えた対話や学びの場を提供するように努めている。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○学際融合教育科目・担当者一覧

春～夏学期		秋～冬学期	
授業科目名	担当者	授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A	西村 謙一	上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A	村岡 貴子	上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) B	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A	瀬井 陽子	上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B	瀬井 陽子
ICTを利用した留学生のためのキャリアデザイン	魚崎 典子	言語学習アドバイジング入門	義永美央子
第二言語学習方法論	義永美央子	多様性のための社会人としてのコミュニケーション	韓 喜善
研究活動に必要な日本語による音声・書記言語コミュニケーションの世界	村岡 貴子		

6. その他

(a) OUマルチリンガルプラザ

国際教育交流センターでは、課外の自律的な日本語学習のサポートを行うセルフアクセスラーニングセンター「OUマルチリンガルプラザ」と日本語学習支援のためのポータルサイト「OU 日本語ひろば」を開設・運用している（OUマルチリンガルプラザの実施主体はマルチリンガル教育センターであるが、国際教育交流センターはその準備段階から企画に関与し、開設後は日本語学習支援の部分を担当している）。令和2年度の開室以降、COVID-19の影響によりオンラインでの活動を中心に行ってきたが、令和4年度は全面的に対面での活動が可能となった。令和4年度に「OUマルチリンガルプラザ」で実施したサポート概要は以下の通りである。

【サポート概要】

(1) 日本語学習アドバイジング

日本語の学習方法、学習教材、進め方などについて日本語学習アドバイザーに相談ができる。40分のセッション。豊中キャンパスまたはオンライン（Zoom）で実施。

(2) 会話練習パートナーとのセッション

会話練習パートナーであるTA（ティーチングアシスタント）と20分間、1対1で進める会話セッション。豊中キャンパスまたはオンライン（Zoom）で実施。

(3) 言語学習ポートフォリオを使ったワークショップ

「大阪大学言語学習ポートフォリオ」を使い、日本語学習アドバイザー、日本語を学ぶ仲間との活動を通して、自己主導型を進めるワークショップ。豊中キャンパスで実施。

(4) 日本語チュータリング

チューターである大学院生のTAがよりよい日本語の文章（レポート、論文、原稿などが対象）を書くためにサポートをする30分のセッション。オンライン（Zoom）で実施。

(5) TAの企画によるイベント

TAが企画・進行する日本語交流イベント。トピック会話や語彙を増やす活動を行った。豊中キャンパスで実施。

(6) OMPICサロン

参加者が好きな時に来室して自由に話すグループ会話。吹田キャンパス（OUマルチリンガルプラザICホール分室）で実施。



写真1 ワークショップの様子



写真2 日本語サロンの様子

【参加者数の推移】

表1はOUマルチリンガルプラザが開室し、サポートを開始した令和2年秋冬学期からの内容別の参加者数である。参加者のニーズに合わせてサービス内容を拡大し、令和4年秋冬学期には開室時の約2倍に増加している。

利用者を対象として実施したアンケートでは、「スタッフ（パートナー、チューター、アドバイザーなど）は話をよく聞いてくれたと思うか。」に対し「満足・やや満足」が91.6%、「参加したサービスについて満足しているか。」に対し「満足・やや満足」が83.3%、「サービスを受けたことにより日本語学習に関する情報が得られた、または日本語能力が向上したと感じるか」に対し「感じる・やや感じる」が83.3%という結果であった。

表1 学期ごとの参加者数

	会話練習	アドバイジング	ワークショップ	チュータリング	TAイベント	サロン	合計
R2 秋冬	64	10	—	—	—	—	74
R3 春夏	62	7	22	23	20	—	134
R3 秋冬	35	10	29	25	8	—	107
R4 春夏	43	19	6	20	7	37	132
R4 秋冬	37	17	4	24	14	44	140

【所属別参加者内訳】

表2はサポート別に参加者の所属を示したもので、表3は参加者を学生身分別にしたものである。日本語チュータリングは、日本語で論文執筆を行う人文学研究科の大学院生の利用が多く、日本語サロンは吹田キャンパスで実施したこともあり、医学研究科の研究員の利用が多かった。会話練習はセッションの数が多く、オンラインでの実施もあることから、様々な研究科、学部からの参加があった。学生身分別に見ると、大学院生が55%を占めている。

表2 参加者数の所属別内訳

所属※	内訳						合計
	会話練習	アドバイジング	ワークショップ	チュータリング	TAイベント	サロン	
人文学研究科/外国語学部	16	9		38	4		67
医学系研究科	6	2	1	2		48	59
経済学研究科/経済学部	25	2	6	1	1		35
人間科学研究科/人間科学部	10	5	2	3	12	2	34
情報科学研究科	2	15	1			4	22
工学研究科	13	2				5	20
歯学研究科	1					7	8
国際教育交流センター	2					6	8
薬学研究科						5	5
核物理研究センター	1					3	4
基礎工学研究科	2	1			1		4
法学研究科					2		2
国際公共政策研究科	1				1		2
日本語日本文化教育センター	1						1
レーザー科学研究所						1	1
計	80	36	10	44	21	81	272

※学部生の参加があった3部局のみ、研究科と学部名を併記した

表3 参加者数の学生身分別内訳

所属	学生身分別内訳					合計
	学部生	大学院生	研究生	特別聴講学生	研究員	
人文学研究科/外国語学部	3	50	12	2		67
医学系研究科		14	10		35	59
経済学研究科/経済学部	13	21	1			35
人間科学研究科/人間科学部	7	8	3	16		34
情報科学研究科		22				22
工学研究科		16	4			20
歯学研究科		2	6			8
国際教育交流センター				8		8
薬学研究科		4			1	5
核物理研究センター		4				4
基礎工学研究科		3		1		4
法学研究科		2				2
国際公共政策研究科		2				2
日本語日本文化教育センター				1		1
レーザー科学研究所		1				1
計	23	149	36	28	36	272

(b) OU日本語ひろば

日本語を学ぶ学生をウェブサイトという形で日本語学習を支援するのが「OU日本語ひろば」である。ウェブサイトの構成は「日本語の授業を受けたい」「仲間と学びたい」「教材や学習方法を知りたい」の3部となっており、日本語、英語、中国語の3言語に対応している。日本語学習に関する情報発信の役割を担い、学内・学外の日本語教室の紹介、学習リソースや学習方法の紹介を行っている。

令和4(2022)年度は、本センターの教員に加えて、言語教育を専門とする大学院生や日本語学習に取り組む留学生が執筆している学習コラムを充実させた。また、OUマルチリンガルプラザで実施している各サポート内容の予約も可能にし、日本語を学ぶ学生向け情報の一元化を進めた。



写真3 OU日本語ひろばのページ



写真4 学習者向けのポスター

IV. 国際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、大阪大学短期留学特別プログラムとして運用を開始された 1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムの中核として令和 4 年度春学期に 73 名、秋学期には 98 名の交換留学生を受け入れた。G 非正規生を含めた留学生受入れに数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad（JYA）タイプの留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。プログラム修了要件として、OUSSEP 用に用意された国際交流科目から 14 単位（ただしうち二単位については OUSSEP 科目外からでも可）の取得をするとともに、令和 3 年度からは「一泊研修旅行参加」（令和 5 年は高野山宿坊体験および広島での被爆者講話；ただし高野山についてはバーチャル研修となった）を修了要件に加えている。

なお、数多くの学生を受け入れる JYA として、すべての参加者の学問的専門性について満たすことが難しいため、プログラム独自の工夫として自主研究などの科目を用意してきた。方向性を変えて令和 3 年からは「インターンシップ科目」を国際交流科目のひとつに加え、学外機関での週一日の無給インターンシップ、一学期あたり 15 回の教育的実践活動に対し 4 単位を与えることにした。こうして外部機関と連携したプログラム運営についても道を開いている。

なおおおむね 10 年近くにわたってプログラム独自に宿舍運営を行ってきた。しかし留学生宿舍充実策として「グローバルビレッジ津雲台」が大学によって供用開始されるのにあわせ、短プロチームによる「UR 都市機構青山台団地」における借上宿舍の運営を停止し、借り上げを解消している。短プロチームないで借上宿舍運用に当たってきた人的リソースは、上記インターンシップ科目運営に振り向けることになった。

OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。また平成 30 年度末には 10 年単位で集めてきた授業アンケートデータを分析に取りかかり、その分析の成果については査読付きジャーナルへの発表を行っている（中野遼子、伊藤駿、近藤佐知彦、2022）。

1. 行事

OUSSEPおよび国際交流科目関係の行事（2022年4月から2023年3月まで）

月	日	曜日	行 事 等
4	4	月	OUSSEP オリエンテーション
	5	火	総合オリエンテーション
	11	月	国際交流科目（2022 度春・夏学期）開始
	4-12 日の間の指定の日		学生定期健康診断 （豊中キャンパス）
	15	金	国際交流科目（2022 年度春・夏学期）履修届提出締め切り
			自主研究履修届/インターンシップ履修届/レギュラークラス 提出締め切り
	19-21 日の間の指定の日		学生定期健康診断 （吹田キャンパス）
28	木	国際交流科目（2022 度春・夏学期）履修登録変更届提出締め切り	
6	25	土	研修旅行（高野山）
7			日本食文化調理体験（宇治金時）（中止）
			フェアウェルパーティ（中止）
8	8	月	国際交流科目（2022 年度 春・夏学期）終了
	11	水	夏季休業開始 終了学生随時帰国
9	22	木	総合オリエンテーション OUSSEP履修登録オリエンテーション
	27	火	国際交流科目（2022 度秋冬学期）履修届提出締め切り
			レギュラーコース、インターンシップ等履修届締め切り
	29	木	OUSSEP オリエンテーション
10	1	土	国際交流科目（2021 度秋冬学期）開始
	21	金	自主研究履修届締め切り
	12-14	水-金	秋季学生定期健康診断
	23	日	国際交流科目（2022 度秋冬学期）履修登録変更届提出締め切り
11	17	木	日本人学生と留学生の交流会
12	10	土	見学旅行（宮島）1 日目
	11	日	見学旅行（広島）2 日目
			日本食文化調理体験（お好み焼き）（中止）
1	7	土	OUSSEP 希望者 見学旅行（広島）1 日目
	8	日	OUSSEP 希望者 見学旅行（宮島）2 日目
			フェアウェルパーティ（中止）
2	8	水	国際交流科目（2022 年度 秋冬学期）終了
	9	木	春季休業開始 終了学生随時帰国

※上記以外にプログラムでの行事が入ることがあります。

2. 2022 年度春夏学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2022 年度春夏学期 OUSSEP 学生名簿

No.	国籍／地域	出身校名	所属名
1	アメリカ合衆国	ジョージア大学	国際教育交流センター
2	イスラエル	ヘブライ大学	人間科学部
3	イスラエル	ヘブライ大学	基礎工学部
4	イスラエル	ヘブライ大学	理学部
5	イタリア	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	文学部
6	インドネシア	忠南大学校	経済学部
7	インドネシア	インドネシア大学	工学部
8	オーストリア	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	基礎工学部
9	オーストリア	ウィーン大学	外国語学部
10	オランダ	グローニンゲン大学	法学研究科
11	カナダ	マックマスター大学	理学部
12	カナダ	マックマスター大学	経済学部
13	韓国	釜山大学校	理学部
14	韓国	釜山大学校	経済学部
15	韓国	釜山大学校	経済学部
16	シンガポール	シンガポール国立大学	人間科学部
17	シンガポール	シンガポール国立大学	人間科学部
18	シンガポール	シンガポール国立大学	人間科学部
19	シンガポール	シンガポール国立大学	理学部
20	シンガポール	ダーラム大学	法学部
21	タイ	マヒドン大学	経済学部
22	台湾	国立陽明交通大学	法学部
23	デンマーク	コペンハーゲン大学	外国語学部
24	デンマーク	コペンハーゲン大学	生命機能研究科
25	ドイツ	アーヘン工科大学	工学研究科
26	ドイツ	アウクスブルク大学	経済学部
27	ドイツ	アウクスブルク大学	外国語学部
28	ドイツ	ウィーン大学	経済学研究科
29	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	理学研究科
30	ドイツ	カールスルーエ工科大学	経済学研究科
31	ドイツ	ゲッティンゲン大学	経済学研究科
32	ドイツ	ダルムシュタット工科大学	工学研究科
33	ドイツ	ハイデルベルク大学	理学研究科
34	ドイツ	ビーレフェルト大学	文学部
35	ドイツ	ビーレフェルト大学	外国語学部

No.	国籍／地域	出身校名	所属名
36	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	人間科学部
37	ドイツ	ミュンヘン工科大学	工学研究科
38	ドイツ	ルール・ボーフム大学	国際公共政策研究科
39	日本	ブリティッシュ・コロンビア大学	理学部
40	フィンランド	オーボアカデミー大学	基礎工学研究科
41	フィンランド	オーボアカデミー大学	情報科学研究科
42	フィンランド	オーボアカデミー大学	経済学研究科
43	フィンランド	ヘルシンキ大学	人間科学部
44	フランス	ストラスブール大学	外国語学部
45	フランス	リール政治学院	外国語学部
46	フランス	リール政治学院	外国語学部
47	ベトナム	ベルリン工科大学	基礎工学部
48	香港	香港大学	文学部
49	英国	リーズ大学	外国語学部
50	英国	リーズ大学	外国語学部
51	英国	リーズ大学	外国語学部
52	英国	リーズ大学	外国語学部
53	日本	ダーラム大学	理学研究科

2022 年度春夏学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本芸術瞥見	A Glimpse at Japanese Arts	人文学研究科	岡田 裕成
2	近代日本文学における大阪	Osaka in Modern Japanese Literature	人文学研究科	村上 スミス・アンド リュウ
3	ジェンダー論	Gender Studies	人間科学部 (G30)	Paola Cavaliere
4	シティズンシップと多文化共生	Identity and Citizenship	人間科学部 (G30)	北山 夕華
5	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology	人間科学部 (G30)	Mohacsi Gergely
6	知覚と認知の心理学	Psychology of Perception and Cognition	人間科学部 (G30)	森川 和則
7	多文化共生論	Seminar in Mucultural Studies	人間科学部 (G30)	Kim Mawer
8	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	波多野 吉徳
9	日本法入門	Introduction to Japanese Law Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
10	比較法入門	Introduction to Comparative Law Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
11	イスラーム家族法	Islamic Family Law	法学研究科	Elbalti Beligh
12	身の回りの高分子	Polymers in Daily Life and Science	理学研究科	山口 浩靖
13	我が国の保健サービスと医療ケア	Health Service and Medical Care in Japan	医学系研究科 (医医)	松本 博志
14	環境・エネルギー問題に対する工学的アプローチ	Engineering Approaches to Energy and Environmental Issues	工学研究科	大石 佑治
15	UC Frontier Science I	UC Frontier Science I	大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室	John Hampton INO
16	科学英語入門	Introduction to Scientific English	国際教育交流センター	岡本 紗知
17	日本における大学の国際化	Internationalization of Higher Education in Japan	国際教育交流センター	石倉 佑季子
18	異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	国際教育交流センター	中野 遼子
19	オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	国際教育交流センター	魚崎 典子
20	日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
21	イノベーションの管理と変遷	Managing Innovation and Change	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
22	総合日本語JA100-トラック1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
23	総合日本語JA100-トラック2	Japanese JA100 - Track 2	国際教育交流センター	難波 康治
24	総合日本語JA200-トラック1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
25	総合日本語JA200-トラック2	Japanese JA200 - Track 2	国際教育交流センター	大谷 晋也
26	総合日本語JA300-トラック1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	中俣 尚己
27	総合日本語JA300-トラック2	Japanese JA300 - Track 2	国際教育交流センター	中俣 尚己
28	総合日本語JA400-トラック1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	義永 美央子
29	総合日本語JA400-トラック2	Japanese JA400 - Track 2	国際教育交流センター	義永 美央子
30	日本語・グローバル理解演習 JGU500d	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500d	国際教育交流センター	韓 喜善
31	日本語・グローバル理解演習 JGU500e	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500e	国際教育交流センター	藤澤 好恵

32	日本語・グローバル理解演習 JGU500f	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500f	国際教育交流センター	中俣 尚己
33	日本語・グローバル理解演習 JGU600d	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600d	国際教育交流センター	矢部 正人
34	日本語・グローバル理解演習 JGU600e	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600e	国際教育交流センター	大谷 晋也
35	日本語・グローバル理解演習 JGU600f	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600f	国際教育交流センター	伊藤 創
36	自主研究 A 自主研究 B 自主研究 C	Independent Study A Independent Study B Independent Study C		各自主研究担当教員
37	インターンシップ実習(春夏)－ コース 2	Internship Course (Spring & Summer)－ Course2	国際教育交流センター	近藤 佐知彦

2022 年度春夏学期 国際交流特別講義開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	国際交流特別講義 3 (知能と学習)	International Exchange Special Lecture 3 (Intelligence and Learning)	情報科学研究科	沼尾 正行
2	国際交流特別講義 3 (Effectively Communicating Your Science & Research)	International Exchange Special Lecture 3 (Effectively Communicating Your Science & Research)	CO デザインセンター	BARRETT BRENDAN FRANCIS DOMINIC
3	国際交流特別講義 2 (薬品製造化学特別講義)	International Exchange Special Lecture 1 (Advanced Topics in Synthetic Medicinal Chemistry)	薬学研究科	赤井 周司
4	国際交流特別講義 3 (アジア言語構造論 XV A)	International Exchange Special Lecture 3 (Structures of Asian Languages XV A)	人文学研究科	西岡 美樹
5	国際交流特別講義 3 (ビッグデータ解析 (偶数年度開講))	International Exchange Special Lecture 3 (Big Data Analytics)	情報科学研究科	鬼塚 真

3. 2022 年度秋冬学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2022 年度秋冬学期 OUSSEP 学生名簿

No.	国籍／地域	出身校名	所属名
1	アメリカ合衆国	オレゴン大学	国際教育交流センター
2	アメリカ合衆国	オレゴン大学	国際教育交流センター
3	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	国際教育交流センター
4	アメリカ合衆国	トロント大学	国際教育交流センター
5	インドネシア	ガジャマダ大学	国際教育交流センター
6	エストニア	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
7	オーストラリア	オーストラリア国立大学	国際教育交流センター
8	オランダ	デルフト工科大学	国際教育交流センター
9	オランダ	デルフト工科大学	国際教育交流センター
10	オランダ	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
11	オランダ	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
12	オランダ	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
13	カナダ	ブリティッシュ コロンビア大学	国際教育交流センター
14	カナダ	ブリティッシュ コロンビア大学	国際教育交流センター
15	韓国	釜山大学校	国際教育交流センター
16	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	国際教育交流センター
17	スペイン	ソルボンヌ大学	国際教育交流センター
18	スペイン	マドリード自治大学	国際教育交流センター
19	スペイン	マドリード自治大学	国際教育交流センター
20	スペイン	マドリード自治大学	国際教育交流センター
21	スペイン	マドリード自治大学	国際教育交流センター
22	スペイン	マドリード自治大学	国際教育交流センター
23	タイ	マヒドン大学	国際教育交流センター
24	チェコ共和国	リーズ大学	国際教育交流センター
25	中国	上海交通大学	国際教育交流センター
26	デンマーク	コペンハーゲン大学	国際教育交流センター
27	デンマーク	コペンハーゲン大学	国際教育交流センター
28	デンマーク	コペンハーゲン大学	国際教育交流センター
29	デンマーク	南デンマーク大学	国際教育交流センター
30	デンマーク	南デンマーク大学	国際教育交流センター
31	ドイツ	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
32	ドイツ	ゲッティンゲン大学	国際教育交流センター
33	ドイツ	アウグスブルク大学	国際教育交流センター
34	ドイツ	アウグスブルク大学	国際教育交流センター
35	ドイツ	アウグスブルク大学	国際教育交流センター
36	ドイツ	アウグスブルク大学	国際教育交流センター
37	ドイツ	ウィーン大学	国際教育交流センター
38	ドイツ	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
39	ドイツ	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
40	ドイツ	ゲッティンゲン大学	国際教育交流センター
41	ドイツ	ゲッティンゲン大学	国際教育交流センター
42	ドイツ	デルフト工科大学	国際教育交流センター
43	ドイツ	ハイデルベルク大学	国際教育交流センター
44	ドイツ	ビーレフェルト大学	国際教育交流センター

No.	国籍／地域	出身校名	所属名
45	ドイツ	ビーレフェルト大学	国際教育交流センター
46	ドイツ	ベルリン工科大学	国際教育交流センター
47	ドイツ	ベルリン工科大学	国際教育交流センター
48	ドイツ	ベルリン工科大学	国際教育交流センター
49	ドイツ	ミュンヘンルートウヴィヒ・マクシミリアン大学	国際教育交流センター
50	ドイツ	ミュンヘンルートウヴィヒ・マクシミリアン大学	国際教育交流センター
51	ドイツ	ルール・ボーフム大学	国際教育交流センター
52	日本	ブリティッシュ コロンビア大学	国際教育交流センター
53	日本	クイーンズランド大学	国際教育交流センター
54	日本	リーズ大学	国際教育交流センター
55	日本	オレゴン大学	国際教育交流センター
56	フィンランド	オーボアカデミー大学	国際教育交流センター
57	フィンランド	ヘルシンキ大学	国際教育交流センター
58	フィンランド	ヘルシンキ大学	国際教育交流センター
59	フィンランド	ユヴァスキュラ大学（数・理学部）	国際教育交流センター
60	フィンランド	ユヴァスキュラ大学（数・理学部）	国際教育交流センター
61	フランス	リール政治学院	国際教育交流センター
62	フランス	リール政治学院	国際教育交流センター
63	フランス	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	国際教育交流センター
64	フランス	ボルドー大学	国際教育交流センター
65	フランス	ボルドー大学	国際教育交流センター
66	フランス	ソルボンヌ大学	国際教育交流センター
67	フランス	ストラスブール大学	国際教育交流センター
68	フランス	ストラスブール大学	国際教育交流センター
69	フランス	ストラスブール大学	国際教育交流センター
70	フランス	ストラスブール大学	国際教育交流センター
71	フランス	ゲルノーブル・アルプ大学	国際教育交流センター
72	フランス	エクス・マルセイユ大学	国際教育交流センター
73	ブルネイ	ブルネイ・ダルサラーム大学	国際教育交流センター
74	ブルネイ	ブルネイ・ダルサラーム大学	国際教育交流センター
75	ベトナム	ハノイ国家大学	国際教育交流センター
76	ベルギー	グローニンゲン大学	国際教育交流センター
77	ルーマニア	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	国際教育交流センター
78	ロシア	サンクトペテルブルク大学	国際教育交流センター
79	英国	ダーラム大学	国際教育交流センター
80	英国	ダーラム大学	国際教育交流センター
81	英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	国際教育交流センター
82	英国	リーズ大学	国際教育交流センター
83	英国	リーズ大学	国際教育交流センター
84	香港	香港科技大学	国際教育交流センター
85	香港	香港科技大学	国際教育交流センター
86	台湾	国立成功大学	国際教育交流センター
87	台湾	国立成功大学	国際教育交流センター
88	台湾	国立陽明交通大学	国際教育交流センター
89	台湾	国立台湾大学（工学院と電気情報学院）	国際教育交流センター

2022 年度秋冬学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本と中国の文学と言語	Literature and Language of Japan and China	人文学研究科 (旧・文)	渡邊 英理
2	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	人文学研究科 (旧・言語)	村上スミス・アンドリュー
3	社会学	Sociological Theory	人間科学部 (G30)	Christian Etzrodt
4	多変量統計科学	Multivariate Statistical Science	人間科学部 (G30)	足立 浩平
5	日本のサル学	Primateology in Japan	人間科学部 (G30)	Jim Anderson
6	移動の社会学	Sociology of Migration	人間科学部 (G30)	Kim Mawer
7	日本における多様性と人権	Diversity and Human Rights in Japan	人間科学部 (G30)	北山 夕華
8	私法の諸問題	Private Law in Japan	法学研究科	Elbalti Beligh
9	コモンロー入門	Introduction to Common Law	法学研究科	Elbalti Beligh
10	中東の法と社会	Law and Society in the Middle East	法学研究科	Elbalti Beligh
11	特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題)	Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law)	法学研究科	Leonardo Ciano
12	ケーススタディ (アジア企業)	Case Studies (the behavior pattern of Asian companies)	経済学研究科	許 衛東
13	宇宙地球科学への招待	Introduction to Earth and Space Science	理学研究科	波多野 恭弘
14	応用理工学入門	Introduction of Mechanical, Materials and Manufacturing Science	工学研究科	大須賀 公一
15	量子情報エレクトロニクスの最前線	Frontiers in Quantum Information Electronics	工学研究科	廣瀬 哲也
16	国際理解入門	Introduction to International Understanding	工学研究科	藤田 清士
17	情報科学入門	Introduction to Information Science	基礎工学研究科	土屋 達弘
18	UC Frontier Science II	UC Frontier Science II	大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室	John Hampton INO
19	文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	国際教育交流センター	有川 友子
20	コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	国際教育交流センター	魚崎 典子
21	ソーシャルイノベーションとソーシャルデザイン	Social Innovation and Social Design	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
22	異文化コミュニケーション入門	Introduction to Intercultural Communication	国際教育交流センター	石倉 佑季子
23	日本の言語政策と多言語社会	Language policies and Multilingual societies in Japan	国際教育交流センター	林 貴哉
24	科学と社会	Science and Society	国際教育交流センター	岡本 紗知
25	日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
26	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
27	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100 - Track 2	国際教育交流センター	難波 康治
28	総合日本語 JA100-トラック 3	Japanese JA100 - Track 3	国際教育交流センター	難波 康治
29	総合日本語 JA100-トラック 4	Japanese JA100 - Track 3	国際教育交流センター	難波 康治
30	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
31	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200 - Track 2	国際教育交流センター	大谷 晋也

32	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	中俣 尚己
33	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300 - Track 2	国際教育交流センター	中俣 尚己
34	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	義永 美央子
35	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400 - Track 2	国際教育交流センター	義永 美央子
36	日本語・グローバル理解演習 JGU500a	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500a	国際教育交流センター	韓 喜善
37	日本語・グローバル理解演習 JGU500b	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500b	国際教育交流センター	藤澤 好恵
38	日本語・グローバル理解演習 JGU500c	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500c	国際教育交流センター	中俣 尚己
39	日本語・グローバル理解演習 JGU600a	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600a	国際教育交流センター	岡崎 洋三
40	日本語・グローバル理解演習 JGU600b	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600b	国際教育交流センター	大谷 晋也
41	日本語・グローバル理解演習 JGU600c	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600c	国際教育交流センター	小原 俊彦
42	自主研究 A 自主研究 B 自主研究 C	Independent Study A Independent Study B Independent Study C		各自主研究担当教員
43	インターンシップ実習(秋冬)－コース 2	Internship Course 2 (Fall & Winter)	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
44	インターンシップ実習(秋冬)－コース 3－B	Internship Course 3－B (Fall & Winter)	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
45	インターンシップ実習(秋冬)－コース 3－C	Internship Course 3－C (Fall & Winter)	国際教育交流センター	近藤 佐知彦

2022 年度秋冬学期 国際交流特別講義開講リスト

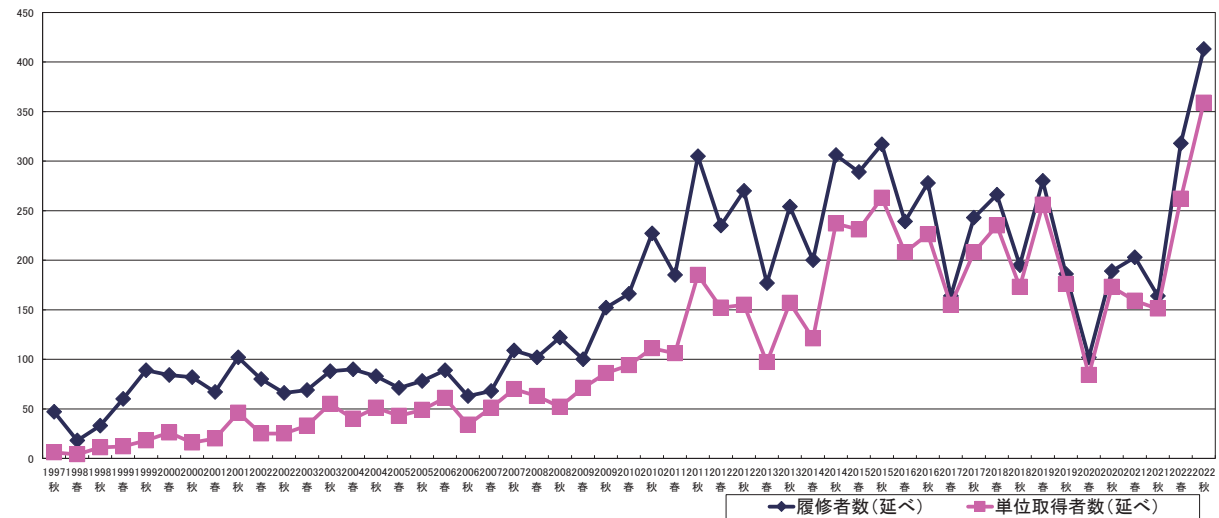
No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	国際交流特別講義 1 (理工医学概論Ⅲ)	Introduction to Biomedical Engineering III	生命機能研究科	中川 敦史
2	国際交流特別講義 2 (生物発想化学工学 1)	Bio-Inspired Chemical Engineering 1	基礎工学研究科	馬越 大
3	国際交流特別講義 2 (生物発想化学工学 2)	Bio-Inspired Chemical Engineering 2	基礎工学研究科	馬越 大
4	国際交流特別講義 2 (構造有機化学)	Structural Organic Chemistry	理学研究科	久保 孝史
5	国際交流特別講義 2 (医薬合成化学特別講義)	Special Lecture on Organic Chemistry for Drug Development	薬学研究科	有澤 光弘
6	国際交流特別講義 3 (量子計測学)	Quantum Metrology	工学研究科	村田 勲
7	国際交流特別講義 3 (アジア言語構造論 XV B)	Structures of Asian Languages XV B	人文学研究科	西岡 美樹
8	Osaka University Anniversary Lecture	Osaka University Anniversary Lecture_FW	大阪大学周年事業オンライン特別講義	藤田 清士
9	化学基礎工学： 基礎と Bio-Inspired アプローチ	Introduction to Chemical Engineering Science : Basic and Bio-Inspired Approach	基礎工学研究科	馬越 大

4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

部局別：OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文	人科	外	法	経済	理	医	歯	薬	工	基工	人文	国公	情報	生命	高司	計	G/R
2022春	9 (7)	70 (65)	21 (19)	61 (49)	38 (35)	5 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	23 (22)	5 (5)	4 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	242 (213)	0.88
2022秋	23 (20)	78 (71)	32 (29)	50 (47)	72 (63)	6 (3)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (14)	17 (12)	8 (7)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	309 (270)	0.87
2022春・秋合計	32 (27)	148 (136)	53 (48)	111 (96)	110 (98)	11 (7)	7 (5)	1 (1)	0 (0)	39 (36)	22 (17)	12 (9)	4 (3)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	551 (483)	0.88
1996春から2022秋の合計	531 (358)	796 (524)	1112 (678)	788 (509)	720 (512)	486 (313)	153 (75)	14 (9)	56 (32)	879 (517)	624 (410)	90 (70)	61 (42)	31 (22)	34 (17)	3 (1)	6378 (4089)	0.64

いずれも延べ数。() 内の数字は単位取得者数を表す。G/Rは、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。



国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移

5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受講する科目であり、その数は年々増え、2022年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな部局から多様な授業が提供された。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートをを行っている。

(1) FDオリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員およびTA（ティーチングアシスタント）を対象にFDオリエンテーションを実施している。2018年度から2019年度にかけて、全学教育推進機構教育学習支援部（TLSC）の佐藤浩章准教授のご支援・ご監修のもと、FD研修内容の改善に努め、「国際交流科目ティーチング・ティップス集」や「国際交流科目受講学生へのラーニング・ティップス集」の作成にも取り組んだ。また、本年度よりFDオリエンテーションは、新任教員研修プログラムとして認定され、新任教員の参加も増えつつある。

2020 年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響により、FDオリエンテーションは、オンラインでの開催をしている。また本年度のFDは、FDを通してシラバスの見直しをすることに努めた。特に近年シラバスの整備や充実が求められており、シラバスをより具体化することで授業の質の向上に繋がると言われている。引き続き国際交流科目の授業の質向上につながるようなFD研修を提供していきたい。

2022 年度秋冬学期・2023 年度春夏学期国際交流科目担当教員及び
TA 予定者対象オリエンテーション並びにFD研修の実施について

日 時 2022 年 9 月 5 日(月) 14:00～15:00

場 所 オンラインでの実施 (Zoom の ID およびパスワードは後日メールでお知らせします)

対 象 2022 年度秋冬学期・2023 年度春夏学期の国際交流科目担当教員および TA 予定者

内 容

I. オリエンテーション (国際教育交流センター 教授 近藤 佐知彦)

「通常の授業と国際交流科目はここが違う！」

II. FD 研修 (国際教育交流センター 准教授 石倉 佑季子)

「国際交流科目のシラバスをブラッシュアップする～学生がわかりやすいシラバスとは～」

III. 授業実施に関わる情報交換会

2023 年度春夏学期・2023 年度秋冬学期国際交流科目担当教員及び
TA 予定者対象オリエンテーション並びにFD研修の実施について

日 時 2023 年 3 月 6 日(月) 13:30～15:00

場 所 オンラインでの実施 (Zoom の ID およびパスワードは後日メールでお知らせします)

対 象 2023 年度春夏学期・2023 年度秋冬学期の国際交流科目担当教員および TA 予定者

内 容

I. オリエンテーション (国際教育交流センター 教授 近藤 佐知彦)

「通常の授業と国際交流科目はここが違う！」

II. FD 研修 (国際教育交流センター 准教授 石倉 佑季子)

「国際交流科目のシラバスをブラッシュアップする～学生がわかりやすいシラバスとは～」

III. 授業実施に関わる情報交換会

5 OUSSEPとは？

① OUSSEP学生の特徴

- ・日本語レベルがゼロ初級あるいは初級の学生が多い
- ・学部3回生を対象としているが、大学院生も参加している

② OUSSEP学生の国籍や人数

- ・2019年度秋冬 計76名（23地域・国、44大学）
- ・2020年度春夏 計19名（9地域・国、12大学）
- ・2020年度秋冬 計27名（11地域・国、21大学）
- ・2021年度春夏 計41名（11地域・国、26大学）
- ・2021年度秋冬 計44名（17地域・国、24大学）
- ・2022年度春夏 計54名（20地域・国、32大学）
- ・2022年度秋冬 計90名（25地域・国、45大学） ※ R4.8.25現在

オンラインFDオリエンテーションの様子

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、2019年度までは毎学期2回、2020年度からは教員の負担軽減のため毎学期1回、授業中に時間をとって受講生による授業評価アンケートを実施している。アンケートは集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、授業改善に役立てていただいている。詳しくは巻末資料編の資料5のアンケートのサンプルを参照いただきたい。また、2019年度秋冬学期からは、集計の簡略化や紙資源の削減を目的として、KOANによるオンラインアンケートを開始した。そして、2020年度以降は、大半の授業がオンライン形式となったため、オンライン授業に関する質問項目を追加し、さらに、同期型・非同期型授業用の「実施要項」も新たに作成し、対応した。

2022 年 7 月 4 日

2022 年度 春夏学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
先生方にご開講頂いております国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協
定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のた
めに不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であること
から、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められております。

このような趣旨に基づき、毎学期、受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しております。
今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですがなにとぞご高配賜りますよう、よ
ろしくお願い申し上げます。2019 年度秋冬学期より、KOAN によるオンラインアンケートを実施し
ており、具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照ください。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証およ
び授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。

また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考にもさせて頂きたく、併せてよろしくお願い
申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情
報の取扱いにつきましては十分注意させて頂きます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センター 柏原 美佐緒
kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp
Tel : 06-6879-7128 (内線 7128)

2023 年 1 月 10 日

2022 年度 秋冬学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
先生方にご開講頂いております国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協
定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のた
めに不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であること
から、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められております。

このような趣旨に基づき、毎学期、受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しております。
今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですがなにとぞご高配賜りますよう、よ
ろしくお願い申し上げます。2019 年度秋冬学期より、KOAN によるオンラインアンケートを実施し
ており、具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照ください。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証およ
び授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。

また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考にもさせて頂きたく、併せてよろしくお願い
申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情
報の取扱いにつきましては十分注意させて頂きます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センター 柏原 美佐緒
kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp
Tel : 06-6879-7128 (内線 7128)

End of semester Evaluation Questionnaire manual (for instructors)

1. When During class from January 18th (Wed) to February 8th (Wed), 2023. (The time required: about 15 min)	
2. Questionnaire Please provide the following instruction to students to answer the questionnaire: 1. Log in to KOAN with a PC or a smart phone 2. Choose the Surveys tab and answer End of semester Evaluations Questionnaire (International Exchange Subjects) for this course. 3. Read the instruction before you answer the questionnaire 4. When finished answering, click Check Responses and Submit *To instructors: If you give in-person or synchronous online classes, please conduct the questionnaire during class. If you give asynchronous online classes, please tell students to answer the questionnaire by the due date.	
3. Remarks - The survey results will be sent to the (representative) professor/instructor after tallying them up. We would really appreciate it if the results could be some help for reconfirming the contents and design of your class. - Please note that the survey results may be used by the faculty to improve the academic program and teaching, and other research purposes in an anonymous form. 【Contact】 KASHIWABARA, Misao (Ms.) E-mail: kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp Phone: 06-6879-7128 (ext. 7128)	

期末アンケート実施要項

1. 日時 2023年 1月 18日(水) ～ 2月 8日 (水) の授業時間中 (所要時間：約15分)	
2. 実施 1. 学生にパソコンかスマートフォンからKOANにログインさせてください。 2. KOANにログイン後、「Surveys」に進み、ご担当の授業科目の「2022FW End of semester Evaluation Questionnaire (International Exchange Subjects)」を回答するよう指示してください。 3. アンケート概要を良く読んでから回答を開始するようご指示ください。 4. 回答が終わったら、「Check Responses」→「Submit」で提出完了です。 ※ 対面／同期型の授業を実施されている先生は、授業中の実施をお願いいたします。 ※ 非同同期型の授業を実施されている先生は、期日までにアンケートを回答するよう指示をお願いいたします。	
3. その他 - 回収したアンケート結果は集計後、先生方へ送付いたします。 授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。 - 同結果は、個別の科目名等が特定されないよう配慮した上で、FD等研修や教育研究目的に活用させていただく場合があります。予めご了承下さい。 【お問い合わせ先】 国際教育交流センター 短期プログラム開発研究チーム 柏原 美佐緒 メール: kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp 電話: 06-6879-7128 (内線: 吹田 7128)	

6. OUSSEP 学生対象国際交流科目「インターンシップ実習」

2021 年度より、OUSSEP 学生対象の「インターンシップ実習」を実施している。コース 1（キッザニア甲子園による「児童英語教育コース」）、コース 2（石橋商店街による「社会福祉とインクルーシブな地域環境づくりコース」）に加えて、2022 年度秋冬学期にはコース 3（株式会社キンダーキッズによる「英語教育コース」）を開始した。コース 2 は火曜日に開講し、コース 3 は水曜日と木曜日に開講している（2022 年度は、コース 1 は不開講）。

コース 2 は、春夏学期は 3 名、秋冬学期は 2 名の計 5 名が参加した。石橋商店街では、地域の人々と関わりながら、まちづくりや地域活性化のために、留学生として何ができるのかを考え、職業体験、イベント企画など広範な業務に関わり、日本の地域の活動への理解を深めた。石橋商店街に限らず、日本社会で重要な役割を果たしている地域コミュニティの訪問を行った。

コース 3 には水曜日（コース 3-B）2 名、木曜日（コース 3-C）3 名の計 5 名が参加し、キンダーキッズインターナショナルスクールの豊中校、彩都校において幼児を対象とした英語教育に従事した。参加学生は子どもたちの学習や生活のサポートを行うことで、英語教育の方法論を理解するだけでなく、幼児教育に必要な技能を知ることができた。さらに、教員との交流を通じて、自分の将来についてより具体的に考えたり、出身国における教育と日本の教育を比較したりする機会となっていた。

2022 年度 OUSSEP インターンシップ実習受講者一覧

			国籍／地域	出身大学	専攻
春夏学期	コース 2	1	韓国	釜山大学校	国際貿易
		2	ドイツ	ビーレフェルト大学	言語学・文学
		3	シンガポール	ダーラム大学	法学
秋冬学期	コース 2	1	カナダ	トロント大学	人文地理学
		2	台湾	国立陽明交通大学	マルチメディア工学
		3	オランダ	デルフト工科大学	産業デザイン工学
	コース 3-B	1	デンマーク	コペンハーゲン大学	日本学
		2	ドイツ	ルール・ボーフム大学	認知科学
	コース 3-C	1	フランス	ストラスブール大学	外国語学
		2	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	アジア言語・文化
		3	ロシア	サンクトペテルブルク大学	臨床心理学

V. 授業料徴収型『超短期』プログラム

1. 『超短期』プログラム

2008年度以来、当センターでは、いわゆる「超短期」と呼ばれるプログラムを運用してきている。2009年度には「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラムとして並行開催した。これは2008年度大学改革推進等補助金で「21世紀型『超短期』受入プログラム開発」で試行したパイロットプロジェクトであり、全国のShort-Stayプログラム普及への先鞭をつけた。

日本学生支援機構（JASSO）によって、Short-Stay奨学金が創設された2011年度には、東日本大震災の悲劇を受け「日本語日本文化プログラム」に止まらない「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再設計、阪神淡路大震災の経験など「防災・減災」の取り組みについても紹介するプログラムとして運用することとして、様々な経緯を経ながら現在に至っている。

2018年度は、マレーシアの大学の要望に合わせたプログラムを実施し、同校から20名の学生を受け入れた。韓国協定校対象の冬プログラムは例年通り開催された。2019年度は、韓国協定校対象の春プログラムが定員に満たなかったため不開講だったが、夏プログラムに関しては、中国の西南大学と大連理工大学から43名の学生を受け入れた。

2020年度は、2019年度と同様のプログラムを準備していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりすべての対面プログラムが中止となった。その代わりに、3週間のWinter Online Japanese Courseを新たに開発・実施し、10名の学生を受け入れた。

2021年度も、すべての対面プログラムが中止されたが、3週間のSummer Online Japanese Course（5名）と、5週間（授業は週3回）のWinter Online Japanese Course（11名）を実施した。

2022年度は、3年ぶりに対面プログラムが再開され、約3週間の夏季超短期プログラム（9名）を実施した。

2022年度 夏季超短期プログラム
(2022.8.8-8.25 実施)

	在籍校	国籍	専攻
1	マヒドン大学	タイ	Liberal Arts
2	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
3	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
4	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
5	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
6	ソウル神学大学	大韓民国	Theology
7	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
8	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
9	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents

2. 『学外連携実習』 ExPERT

ExPERT (Extension Program for Education in Real-world Trainings) は 2018 年度より開始された。かねてより、多くの協定校から職業体験型プログラムへの要望が強く、より多くの優秀な学生を受け入れるため、吹田キャンパス近郊のエキスポシティ内にある大阪英語村 (Osaka English Village, 以下 OEV) と共同で、8 週間の無給職業トレーニングプログラムを開発した。参加学生へ単位を付与するために、教職課程の『教育実習』の科目を参考にしながら、『学外連携実習』を新たに正規科目として登録した。宿舎については、ホームステイの斡旋会社ネクステージと協力し、「英語インストラクター実習生のホームステイ」として、ExPERT 生にホストファミリーへの週 3 回の 1 時間英語レッスンを義務付け、その代わりに宿泊費を安価に提供する新たなホームステイの枠組みも開発した。

2018 年度はパイロット・プログラムとして、アメリカ合衆国から 4 名の学生を、2019 年度はオレゴン大学から 1 名の学生を受け入れた。ウィークリーレポート、最終プレゼンテーション、OEV による評価を経て、4 名とも無事に修了し、単位 (4 単位) が付与され、本センターと OEV 連名の修了証書が授与された。また、参加者のうち 1 名は、2019 年 4 月に OEV にて正式に就業した。

2021 年度以降、神奈川県にある、EDURE LCA が運営する LCA 国際小学校が受け入れ先となる ExPERT プログラムを準備している。2022 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止となったが、今後も EDURE LCA 等と協力してプログラムを継続予定である。

3. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP (国際交流基金関西国際センターとの連携による日本語教育プログラム)

J-ShIP は、2011 年度夏に新たに創設された。設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤 (2012) 等に譲るが、日本語をキラーコンテンツとし、2011 年度に新設された Short-Stay プログラム奨学金を最大限獲得する設計のプログラムである。2012 年度には、新たに「夏プログラム」も増設し、カリフォルニア大学 (UC) を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講プランを作り、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語の単位を在籍校において互換しうる機会を提供している。

2014 年度以降は、米国向け 90 コマ 8 週間のサマーインスティテュート (6-8 月)、および豪州向け 45 コマ 5 週間のウィンターインスティテュート (12-1 月) の 2 サイクルを運営することになった。ハード面では、旧箕面キャンパスに教室および職員室を増設して 3~4 教室体制を整備した。また、非常勤講師のボランティアに頼っていた「オフィスアワー」を制度化し、参加学生の旺盛な学習ニーズに応えている。2017 年度の夏からは海外などで活躍する日本語教師の先生方を期間中に特任教員として雇用し、J-ShIP の一部の運営をお任せするなど、実験的なプログラムとしても先進的に運用を続けている。2018 年度の夏は、大阪北部地震や西日本豪雨の自然災害に加え、2019 年度は 2 名の学生が体調不良により途中帰国を余儀なくされ、対応に追われたが、多くの方々からの協力により、最後までプログラムを実施することができた。今後プログラムを継続するにあたって、危機管理体制を整える契機となった。2020 年度および 2021 年度は、2019 年度同様、夏 J-ShIP および冬 J-ShIP を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、すべて中止となった。しかし、2020 年度は冬季のみであったが、3 週間の Winter Online Japanese Course を新たに開発し、実施することができた。2021 年度は、3 週間の Summer Online Japanese Course と、

5 週間（授業は週 3 回）の Winter Online Japanese Course を実施した。

2022 年度については、「本年度のトピックス」でも述べたように、国際交流基金関西国際センターと連携し、3 年ぶりに冬 J-ShIP を対面で実施することができ、計 19 名の学生を受け入れた。

- ・近藤佐知彦（2012）SS プログラム J-ShIP の 1 年目：新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦 大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 16 97-106

2022 年度 冬 J-ShIP プログラム
(2023.1.4-1.31 実施)

	在籍校	国籍	専攻
1	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
2	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
3	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
4	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
5	ソウル神学大学	大韓民国	Japanese Cultural Contents
6	モナッシュ大学	オーストラリア	Business and Economics
7	モナッシュ大学	オーストラリア	Education
8	モナッシュ大学	中華人民共和国	Arts
9	モナッシュ大学	オーストラリア	Education
10	モナッシュ大学	オーストラリア	Science & Arts
11	モナッシュ大学	中華人民共和国	IT
12	モナッシュ大学	オーストラリア	Global Studies
13	モナッシュ大学	中華人民共和国	Arts
14	モナッシュ大学	中華人民共和国	Education
15	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Japanese
16	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Physics
17	オーストラリア国立大学	中華人民共和国	Economics
18	オーストラリア国立大学	中華人民共和国	Finance
19	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Economics

4. Faculty-led プログラム UMOS

2019 年度より、メルボルン大学からの要請に応じて UMOS (University of Melbourne Overseas Subject) という Faculty-led プログラムを実施している。2020 年度から 2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となっていたが、2022 年度はプログラムを再開することができた。

UMOS は、メルボルン大学で開講されている科目と同等の授業を海外の大学で実施し、メルボルン大学の単位として認定するプログラムである。大阪大学では、「Variation in Japanese Language」という科目が開講され、大阪大学の単位（4 単位）が付与される。授業の目的は、日本語上級レベルを持つメルボルン大学の学生が、授業、職業体験、ホームステイおよび文化体験を通して日本語のバリエーションについて学ぶことである。メルボルン大学の渡邊泰久上級講師が招へい教員・プログラムコーディネーターとして引率および半分以上の授業を担当し、約 3 週間で計 30 コマが実施される。

本年度は、2023 年 1 月 23 日（月）から 2 月 10 日（金）の期間、主に大阪大学吹田キャンパスにおいて授業を実施し、1 月 24 日（火）には、吹田市旭通商店街でのフィールドワークを行った。希望者には、後日、旭通商店街における着付け体験の機会を設けた。また、1 月 31 日（火）から 2 月 1 日（水）の 2 日間は、JTB のコーディネートにより、東急レイホテル新大阪江坂にてインターンシップを実施した。新入社員研修やホテル館内見学に加え、ベッドメイキングやロビーアテンダントの実践を行うことで、就労現場での日本語のバリエーションを習得・実践する機会となった。

2022 年度 UMOS プログラム
(2023.1.23-2.11 実施)

	在籍校	国籍	専攻
1	メルボルン大学	オーストラリア	Science
2	メルボルン大学	オーストラリア	Design
3	メルボルン大学	オーストラリア	Science
4	メルボルン大学	オーストラリア	Engineering and IT
5	メルボルン大学	中華人民共和国	Science
6	メルボルン大学	オーストラリア	Arts
7	メルボルン大学	オーストラリア	Arts
8	メルボルン大学	ポルトガル	Design
9	メルボルン大学	中国香港特別行政区	Arts
10	メルボルン大学	シンガポール	Arts
11	メルボルン大学	オーストラリア	Arts
12	メルボルン大学	オーストラリア	Engineering and IT
13	メルボルン大学	オーストラリア	Design
14	メルボルン大学	台湾	Arts
15	メルボルン大学	オーストラリア	Science
16	メルボルン大学	オーストラリア	Medicine, Dentistry and Health Sciences

VI. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS: Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度に開始したZOOMによるチャットルームは予約不要で留学生が気軽に相談できる場となり、今年度も継続して実施している。定期的に発行するIRISレター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUISA: Osaka University International Student Association）やB.S.P.（Brothers and Sisters Program）の支援も継続して行っている。例年行っている地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携行事は中止となった。地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力はオンラインで継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

国際教育交流センターでは、留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適應できるようにアドバイスにあたりとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS（あいりす）はInformation Room for International Studentsの略。以下IRISと記す。）にて平日8時半～18時の間、豊中地区では学生交流棟2階の豊中分室で平日10時半～17時の間、箕面分室は原則として平日10時半～17時の間、原則として休業日を除く学期期間中、行っている。表1にIRIS、表2に豊中分室、表3に箕面分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

例年国際教育交流センターが関わる新規来日留学生に対して、情報提供を含め、来日前からコンタクトを取っている。また例年来日当初のオリエンテーションプログラムを、国際学生交流課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援しており、それぞれオンラインや対面でのオリエンテーションを実施した。

国際教育交流センターは、例年留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称OHP）を実施しているが、本年度は中止となった。学生間の交流や支援の観点から、B.S.P.の学生によるキャンパスツアー、大阪大学

留学生会（OUISA）の活動の紹介を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学国際教育交流センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況

令和4年度相談対応延べ状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交 流		57	34	39	21	25	10	51	48	65	21	2	3	376
日 本 語		17	5	13	7	1	3	16	4	4	5	10	0	85
奨 学 金 等		0	2	0	1	0	1	2	1	1	3	2	0	13
学 習 ・ 研 究		12	18	5	18	3	2	17	9	9	9	1	0	103
行 政 手 続		84	10	25	19	14	5	20	14	13	27	7	3	241
事 故 ・ ト ラ ブ ル		6	2	3	2	2	0	7	9	5	4	1	1	42
入 管 関 係		3	1	2	0	2	0	8	2	0	4	1	2	25
就 職		3	1	4	2	0	1	2	0	1	0	0	1	15
住 居 関 係		6	6	11	7	4	3	12	4	4	6	8	3	74
ア ル バ イ ト		1	0	0	1	3	0	5	0	2	1	0	0	13
医 療		15	4	14	4	7	6	10	12	9	8	7	1	97
ホ ス ト ファ ミ リ ー		1	5	12	3	0	0	0	1	1	16	1	0	40
生 活 用 品		5	3	10	8	5	5	7	5	8	10	3	1	70
S V プ ロ グ ラ ム		18	3	1	33	10	30	77	102	100	75	0	1	450
各 種 情 報 提 供		55	38	34	39	23	24	77	51	28	50	14	24	457
海 外 留 学 相 談		0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	4
学外からの問い合わせ等		8	21	11	14	7	6	0	9	15	7	2	1	101
そ の 他		5	0	6	3	1	3	4	2	1	3	1	1	30
計		296	154	190	182	108	99	316	274	266	249	60	42	2236

相談対応件数推移

年 度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
件 数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087	4675	4880	4489	4413	5112	4517

年 度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
件 数	5553	6114	8106	7106	7398	8104	9860	6133	6837	2236

*ここである「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年 度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
件 数	16450	17848	17996	18025	18077	19255	19356	19934	19532	19574	20909	20107	20176	19170	19252	19858	15076

年 度	R2	R3	R4
件 数	2745 (932)	3799 (1316)	6176 (564)

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留 学 生	223 (75)	160 (18)	524 (17)	602 (11)	194 (14)	51 (3)	549 (34)	612 (13)	688 (65)	699 (11)	290 (18)	90 (7)	4682 (286)
日本人学生	49 (13)	69 (19)	92 (15)	54 (6)	79 (15)	49 (9)	102 (7)	79 (3)	72 (3)	63 (1)	17 (3)	17 (2)	742 (96)
その他・一般	98 (27)	59 (10)	71 (10)	89 (22)	73 (13)	43 (3)	50 (4)	44 (4)	119 (80)	32 (5)	62 (4)	12 (0)	752 (182)
合 計	370 (115)	288 (47)	687 (42)	745 (39)	346 (42)	143 (15)	701 (45)	735 (20)	879 (148)	794 (17)	369 (25)	119 (9)	6176 (564)

*ここである「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

*（ ）書きはオンラインイベント参加者数（内数）である。

表2 大阪大学国際教育交流センター豊中分室の相談状況及び来室・利用状況

令和4年度相談対応延べ状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交 流		19	52	12	11	9	7	23	29	14	14	6	8	204
日 本 語		10	4	2	0	0	3	8	5	2	2	1	1	38
奨 学 金 等		15	5	0	1	5	7	4	6	1	0	5	3	52
学 習 ・ 研 究		14	13	8	8	3	6	22	18	18	16	4	5	135
行 政 手 続		0	6	8	0	0	3	6	2	7	2	3	5	42
事 故 ・ ト ラ ブ ル		0	1	5	2	5	4	3	1	0	0	3	1	25
入 管 関 係		8	2	2	5	0	2	1	3	2	4	0	4	33
就 職		6	5	5	5	3	0	6	1	6	4	1	8	50
住 居 関 係		4	4	3	5	3	2	4	0	0	1	3	3	32
ア ル バ イ ト		4	6	3	8	1	3	7	3	3	3	3	0	44
医 療		1	3	1	1	4	3	3	1	0	0	0	1	18
ホ ス ト ファ ミ リ ー		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
生 活 用 品		0	0	0	1	0	0	5	0	2	4	7	2	21
S V プ ロ グ ラ ム		0	0	0	2	0	0	4	7	1	3	2	0	19
各 種 情 報 提 供		40	10	24	10	12	12	62	16	24	8	4	8	230
海 外 留 学 相 談		15	24	8	13	3	7	15	6	2	6	2	8	109
学外からの問い合わせ等		0	5	2	0	2	0	1	2	0	1	0	1	14
そ の 他		1	3	2	1	5	1	3	2	2	4	5	2	31
合 計		138	143	85	73	56	60	177	102	84	72	49	60	1099

相談対応件数推移

年 度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件 数	2843	2294	1352	1164	1139	805	916	1253	1271	993	906	1302	2192	2721

年 度	H30	H31/R1	R2	R3	R4
件 数	2713	3080	1306	1551	1099

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年 度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件 数	8320	7524	5183	5324	7508	5212	6029	9065	11230	10563	9580	9612	12806	13406

年 度	H30	H31/R1	R2	R3	R4
件 数	12618	12769	2189 (407)	3427 (216)	6016 (47)

豊中分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
留 学 生	268	242 (1)	260 (2)	223	82 (1)	91 (1)	585	681	760	740	110	137 (2)	4179 (7)
日 本 人 学 生	172	217 (3)	222 (2)	149 (2)	68 (9)	56 (4)	176	139	133	97	29 (2)	37 (7)	1495 (29)
教官・学外など	35	22 (1)	40	27 (3)	22 (7)	26	33	24	29	39	25	20	342 (11)
合 計	475	481 (5)	522 (4)	399 (5)	172 (17)	173 (5)	794	844	922	876	164 (2)	194 (9)	6016 (47)

*ここでの「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

*（ ）書きはオンラインイベント参加者数（内数）である。

表3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況

令和4年度相談対応延べ状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交 流		16	25	33	20	14	6	59	21	20	13	1	10	238
日 本 語		1	2	3	3	3	2	0	0	0	0	1	6	21
奨 学 金 等		1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	6
学 習 ・ 研 究		2	3	5	6	6	1	6	8	10	7	5	2	61
行 政 手 続		1	0	1	1	0	1	0	0	0	0		0	4
事故・トラブル		1	3	7	5	0	0	2	0	2	4	0	2	26
入 管 関 係		0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
就 職		2	1	3	2	7	0	3	1	0	6	0	1	26
住 居 関 係		0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	5
ア ル バ イ ト		2	0	3	7	1	2	5	4	0	0	0	1	25
医 療		1	4	3	5	3	2	2	2	0	2	0	0	24
ホストファミリー		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生 活 用 品		2	4	9	9	3	1	4	7	6	9	7	1	62
SVプログラム		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
各種情報提供		18	11	13	4	5	8	40	17	13	6	6	6	147
海外留学相談		6	7	3	2	0	5	2	0	2	0	1	1	29
学外からの問い合わせ等		3	2	2	0	0	14	2	3	0	0	0	20	46
そ の 他		2	1	0	1	1	1	0	11	3	2	4	2	28
計		58	63	86	66	45	44	126	75	57	50	29	52	751

相談対応件数推移

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
件 数	1488	966	840	661	831	797	731	854	788	699	591	885	718

年 度	R3	R4
件 数	1469	751

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
件 数	2893	3517	4477	5249	5703	5024	4570	4525	3907	4867	4403	4421	1479 (151)

年 度	R3	R4
件 数	4282 (141)	6197 (4)

箕面分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留 学 生	102	168	265	236	81	6	333	378	394	333	137	31	2464
日本人学生	287	346	481	405	89 (2)	19 (2)	455	448	496	438	153	19	3636 (4)
その他・一般	14	12	8	3	7	5	5	15	7	7	5	9	97
合 計	403	526	754	644	177 (2)	30 (2)	793	841	897	778	295	59	6197 (4)

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

*（ ）書きはオンラインイベント参加者数（内数）である。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P. と大阪大学留学生会（OUIA）の活動の支援を行った。新型コロナウイルスの感染状況により、適宜、オンライン、ハイブリッド、対面形式で実施した。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会（OUIA）の活動を記す。

表4 令和4年度 B.S.P.の活動内容

<主な活動内容>

月	日	イベント名	形式	キャンパス	備 考
4	1,4～8	BSP 質問週間	対面	豊中	
	4	全教教育推進機構外国人留学生ガイダンスでB.S.P.の紹介およびキャンパスツアー&おしゃべり会	対面	豊中	
	5	全学交換留学プログラムオリエンテーションでB.S.P.の紹介	オンライン	吹田	
	13	日本語カフェ（毎週水曜日開催）	対面	豊中	
	15	English Café（月2回不定期開催）	対面	豊中	
	19	日本語カフェ（毎週火曜日開催）	対面	箕面	
	26	Japanese Time-Kanji-（毎週火・水・木曜日開催）	ハイブリッド	吹田	
	27	Welcome Party	対面	吹田	OUIA 共催
	28	Welcome Party	対面	豊中	
5	13	型抜き・福笑い	対面	豊中	
	17	トランプで遊ぼう	対面	豊中	
	18	国費日本語集中コースオリエンテーションでB.S.P.の紹介およびキャンパスツアー	対面	吹田	OUIA 共催
	19	Welcome Party	対面	箕面	
	24	たこ焼き体験①	対面	吹田	
	25	国費日本語集中コースオリエンテーションでB.S.P.の紹介及びキャンパスツアー	対面	吹田	
	26	プラ板作り	対面	豊中	
	30	柏餅作り	対面	豊中	
6	2	英語カフェ	対面	箕面	
	3	国費日本語集中コースオリエンテーションでB.S.P.の紹介及びキャンパスツアー	対面	吹田	
	10	字入れうちわ作り	対面	豊中	
	14	人狼ゲーム	対面	豊中	
		たこ焼き作り②	対面	吹田	
	17	韓国語カフェ	対面	箕面	
	20	トランプイベント	対面	豊中	
	22	Japanese Time -Situation talk-（毎週水曜日）	対面	吹田	
	23	フランス語カフェ	対面	箕面	
		クッキングイベント	対面	箕面	
	24	中国語カフェ	対面	箕面	
	29	書道イベント	対面	箕面	
	30	オンラインクイズ	オンライン	豊中	
7	1, 22	韓国語カフェ	対面	箕面	
	5	七夕パーティ	対面	吹田	
	6～8	七夕Week	対面	豊中	
	7	羅生門読書会	対面	箕面	
	8	お題当てクイズの会	対面	箕面	
	8	Chinese Café（毎週金曜日）	対面	吹田	
	12	アップルパイ作り	対面	豊中	
	13	ボードゲームの会	対面	箕面	
	14, 28	英語カフェ	対面	箕面	

月	日	イベント名	形式	キャンパス	備 考
7	15	Japanese Time-Let's chat-	ハイブリッド	吹田	
	20	ドイツ語カフェ	対面	箕面	
	24	City Walk 大阪くらしの今昔館	対面	吹田	OUISA 共催
8	1	Farewell Paty	対面	箕面	
	8	花火イベント	対面	豊中	
	22	Night Walk (箕面の滝)	対面	豊中	
	30	日本語カフェ特別版	対面	豊中	
9	22	全学交換留学プログラムオリエンテーションでB.S.P.の紹介	オンライン	吹田	
	25	Nature Walk 布引ハーブ園	対面	吹田	OUISA 共催
10	3	国費日本語集中コースオリエンテーションでB.S.P.の紹介およびキャンパスツアー	対面	吹田	OUISA 共催
	5	English Café (毎月2～3回不定期開催)	対面	豊中	
	3, 4, 6	質問・相談週間	対面	豊中	
	11	わらび餅作り	対面	豊中	
		キャンパスツアー	対面	箕面	
	12	日本語カフェ	対面	吹田	
		日本語カフェ (毎週水曜日開催)	対面	豊中	
	18	日本語カフェ (毎週火曜日開催)	対面	箕面	
	20	英語カフェ (第一・第三木曜日開催)	対面	箕面	
	20	Welcome Party	対面	豊中	
	21	English Café (不定期)	対面	吹田	
	21	英語・日本語カフェ	対面	豊中	
	25	折り紙 2022	対面	豊中	
	27	韓国語カフェ (第二・第四木曜日開催)	対面	箕面	
		Welcome Party	対面	吹田	OUISA 共催
11	28	Welcome Party	対面	箕面	
	29	Nature Walk (五月山)	対面	吹田	OUISA 共催
	1	月見会	対面	吹田	
	3	Half Day Trip (京都伏見稲荷)	対面	豊中	
	10	中国語カフェ (不定期)	対面	吹田	
	11	たこ焼き作り	対面	豊中	
	11, 25	フランス語カフェ (不定期)	対面	箕面	
	12	Half Day Trip (万博公園)	対面	箕面	
	14	イタリア語カフェ (不定期)	対面	箕面	
		Cooking Cookie	対面	豊中	
	19	Sports Festival	対面	吹田	OUISA 共催
	21	日本伝統遊びDay	対面	吹田	
	21, 28	中国語カフェ (不定期)	対面	箕面	
	23	Half Day Trip (大阪くらしの今昔館)	対面	豊中	
	24	Beer Pong	対面	豊中	
12	27	City Walk (大阪市立科学館)	対面	吹田	OUISA 共催
	28	スイートポテト、大学いも作り	対面	豊中	
	2, 16	フランス語カフェ (不定期)	対面	箕面	
	5, 14	イタリア語カフェ (不定期)	対面	箕面	
	7	中国語カフェ (不定期)	対面	箕面	
	9	Making Scones	対面	豊中	
	12	トルコ語カフェ (不定期)	対面	箕面	
		インドネシア語カフェ (不定期)	対面	箕面	
	14	上海交通大学との交流イベント	オンライン	合同	
	15	Cooking Cookie	対面	豊中	

月	日	イベント名	形式	キャンパス	備 考
12	16	ウインターパーティー	対面	箕面	
	18	交流パーティー	対面	箕面	
	19	年賀状を作しましょう	対面	吹田	
	21	クッキングイベント（ティラミス作り方）	対面	箕面	
	23	ITOゲーム	対面	豊中	
1	5	書初め	対面	吹田	
	6	ドイツ語カフェ	対面	箕面	
	6	書初め	対面	豊中	
	10	書初め	対面	箕面	
		チョコバナナ&りんご飴作り	対面	豊中	
	11	イタリア語カフェ（不定期）	対面	箕面	
	16	中国語カフェ（不定期）	対面	箕面	
	18	アラビア語カフェ	対面	箕面	
	20, 27	フランス語カフェ（不定期）	対面	箕面	
	23	トルコ語カフェ（不定期）	対面	箕面	
		インドネシア語カフェ（不定期）	対面	箕面	
2	3	Farewell Paty	対面	箕面	

表 5 令和 4 年度 大阪大学留学生会（OUIA）の活動内容

月	日	内容	形式	場所	備 考
4	3	Nature Walk 万博記念公園	対面		
	4	全教教育推進機構外国人留学生ガイダンスでOUIAの紹介	対面	豊中：全教B218 講義室	
	5	全学交換留学プログラムオリエンテーションでOUIAの紹介	オンライン		
	14	OUIA HOUR INDIA	ハイブリッド	吹田：ICホール IRIS	
	27	Welcome party	対面	吹田：ICホール 講義室	B.S.P.共催
5	18	国費日本語集中コースオリエンテーションでOUIAの紹介およびキャンパスツアー	対面	吹田：ICホール IRIS	B.S.P.共催
	24	OUIA HOUR GERMANY	ハイブリッド	吹田：ICホール IRIS	
6	6	Daily Life Orientation	対面	吹田：ICホール IRIS	
	22	Book swap fair	対面	吹田：ICホール IRIS	
	29	OUIA HOUR COLOMBIA	ハイブリッド	吹田：ICホール IRIS	
7	22	OUIA HOUR INDONESIA	ハイブリッド	吹田：ICホール IRIS	
	24	City Walk 大阪くらしの今昔館	対面		B.S.P.共催
9	22	全学交換留学プログラムオリエンテーションでB.S.P.の紹介	オンライン		B.S.P.共催
	25	Nature Walk 布引ハーブ園	対面		B.S.P.共催
10	3	国費日本語集中コースオリエンテーションでOUIAの紹介およびキャンパスツアー	対面	吹田：ICホール IRIS	B.S.P.共催
	14	OUIA HOUR FRANCE	対面	吹田：ICホール IRIS	
	20	Daily Life Orientation	対面	吹田：ICホール IRIS	
	28	Welcome Party	対面	吹田：ICホール IRIS	B.S.P.共催
	29	Nature Walk 五月山	対面		B.S.P.共催
11	8	Book Swap Fair	対面	吹田：ICホール IRIS	
	19	Sports Festival	対面	吹田：体育館	B.S.P.共催
	27	City Walk 大阪市立科学館	対面		B.S.P.共催
	28	OUIA HOUR SOUTH AFRICA	ハイブリッド	吹田：ICホール IRIS	
12	20	OUIA HOUR FIJI ISLANDS	ハイブリッド	吹田：ICホール IRIS	
1	12	Let's Make mochi together	対面	吹田：ICホール IRIS	
	24	Book Swap Fair	対面	吹田：ICホール IRIS	
	30	OUIA HOUR BANGLADESH	ハイブリッド	吹田：ICホール IRIS	
3	26	City Walk 海遊館	対面		

(4) 大阪大学国際同窓会

大阪大学国際同窓会（OUIAA）は、阪大に在籍し、卒業・評価修了した元留学生の同窓会として、2010年9月25日、大阪大学創立80周年記念事業の一環として設立された。OUIAAの主な目的は、同窓生の国際的なソーシャルネットワークを構築し、本学と地域社会との関係を強化することである。「Live Locally, Support Globally」というモットーの元、阪大を卒業した留学生らが積極的に活動している。今年度の活度は、コロナ禍の影響で全てオンライン実施となった。基本的に、毎月1回、役員ミーティング及び交流会が開催されている。

表6 令和4年度 大阪大学国際同窓会（OUIAA）の活動内容

No	年	日 時	イベント名	参加人数
1	2022	4月1日（金）10：00 pm	Monthly meeting	7名
2		5月14日（土）9：00 pm	OUIAA Reunion	15名
3		5月17日（土）9：00 pm	Monthly meeting	7名
4		5月28日（土）	OUIAA Hour-Hiking（高尾山）	8名
5		6月4日（土）10：00 am	Career Talk	計35名（留学生26名、発表者3名、OUIAA2名、CIEE4名）
6		6月7日（火）9：00 pm	Monthly meeting	7名
7		6月25日（土）	お台場 meeting	17名
8		7月13日（水）9：00 pm	Monthly meeting	10名
9		8月10日（水）9：00 pm	Monthly meeting	10名
10		9月9日（金）10：00 pm	Monthly meeting	10名
11		10月6日（木）9：00 pm	Monthly meeting	10名
12		10月9日（日）	OUIAA Reunion in Viena	5名
13		12月10日（土）	OUIAA 部年会@ラウンドワン	9名
14		12月26日（月）	Online Bonenkai	11名
15	2023	1月20日（金）22：00 pm	Monthly meeting	5名
16		2月1日（水）	Open Meeting in Feb.	8名
17		2月15日（水）22：00 pm	Monthly meeting	8名
18		3月4日（土）	OUIAA in Person Meeting	11名
19		3月26日（日）	OUIAA Hanami	15名

(5) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部署の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部署の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」の定例ミーティングを定例で計4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。毎年開催されている国際教育交流センター主催の国際教育交流／留学生支援連絡会は令和4年9月7日に開催した。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

国際教育交流センターは、地域との連携を積極的に行っており、日頃より地域のボランティアや関係者

との連絡を緊密に取っているが、本年度はホストファミリープログラムが中止となったことにより、例年2回開催されている大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会も中止となった。表7は本年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

表7 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/ R1	R2	R3	R4	計
ホストファミリーグループアミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	9	15	10	13	14	12	16	13	11	10	7	9	8	11				273
茨木市国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	15	13	10	9	6	8	7	10	7	10	16	10	14				265
(公財)とよなか国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	42	85	80	73	68	80	73	63	62	65	79	73	67				1125
(公財)箕面市国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	22	36	23	28	36	35	32	42	50	39	24	32	33				561
池田市公益活動促進協議会*6	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	14	13	12	8	8	4	8	8	7	9	6	6	6				234
(公財)吹田市国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	16	30	28	24	29	32	39	41	47	62	61	61	64	新型コロナウイルスのため中止	新型コロナウイルスのため中止	新型コロナウイルスのため中止	702
国際交流の会とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	18	14	12	14	15	15	13	19	18	11	14	13	13	15				326
川西市国際交流協会*1									11	13	14	9	9	19	16	12	11	9	6	15	14	15	10	7	10	14				214
留学生さとおやの会*2												5	8	7	6	7	6	6	7	10	8	11	9	10	13	13				126
海外協力グループスクス*3															7	12	11	13	6	4	6	10	9	11	11	9				109
国際交流グループチャーターボックス*4																11	12	9	8	12	10	11	13	8	10	9				113
三井ボランティアネットワーク事業団*7																							3	3	3	4				13
シルバーアドバイザーネットワーク大阪*8																									8	11				19
OHP/IRISに直接登録*5	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	6	19	17	20	15	25	27	24	32	29	35	38	14				417
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	170	247	239	231	226	240	259	255	273	279	282	296	284				4497

*1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成14年10月開始

*2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成17年4月開始

*3 海外協力グループスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成20年9月開始

*4 チャーターボックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成21年4月開始

*5 ホストファミリーの学内公募平成19年8月開始

*6 池田ホームステイ友の会は平成24年3月で終了、平成24年9月より池田市国際交流協議会、平成29年4月より池田市公益活動促進協議会として参加

*7 三井ボランティアネットワーク事業団のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成28年10月開始

*8 シルバーアドバイザーネットワーク大阪のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成30年4月開始

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力は例年積極的に行っているが、本年度はすべてのプログラムがオンライン実施となった。表8は、令和4年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、オンライン参加した留学生数および参加学生出身国である。例年小中高で実施しているが、本年度は高校のみとなった。例年1回開催されている大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会も中止となった。

留学生の参加は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

表8 令和4年度「国際理解教育」実施状況

No	月	日	学校／プログラム名	派遣人数	派遣学生国籍
1	6	27	かんらんこども園	2	パキスタン・ペルー
2	9	13	兵庫県立川西北陵高等学校	8	キューバ・バングラデシュ・ベトナム・ペルー・マレーシア 南アフリカ
3	11	9	茨木市立彩都西中学校	4	インドネシア・トルコ・ベトナム・ペルー
4	12	7	豊能町立東能勢中学校	4	イラン・バングラデシュ・ホンジュラス・南アフリカ
5	12	17	大阪府立茨木高等学校	19	アルジェリア・インドネシア・ガンビア・キューバ・タイ・ドイツ・ トルコ・パキスタン・バングラデシュ・ブラジル・ベトナム・ペルー・ ホンジュラス・マレーシア・ミャンマー・ヨルダン
6	1	13	大阪府立豊中高等学校	20	イラン・インドネシア・エジプト・ギニア・キューバ・コロンビア・ トルコ・パキスタン・バングラデシュ・ベトナム・ペルー・ポーランド・ ホンジュラス・ミャンマー・南アフリカ
7	1	20	摂津市立摂津小学校	4	キューバ・パキスタン・ベトナム・ペルー
8	3	24	関西大倉高等学校	15	インド・バングラデシュ・ブラジル・トルコ・コロンビア ホンジュラス・キューバ・イラン・ミャンマー・パキスタン インドネシア・ヨルダン・ベトナム

計：8件／61名

※令和3年度は新型コロナウイルスの流行により、留学生は派遣ではなくオンラインでの参加となった。

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、令和4年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を全9回開催した。また個々の相談に対応するため就職相談コーナーを開室した。

(1) 留学生のための就職対策講座

2022年10月より2023年1月にかけて「留学生のための就職対策講座」を開催した（図1参照）。本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のためZOOMによるオンライン開催となった。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、内定者の留学生の協力のもと全8回のシリーズとして開催され、参加者数は述べ137名であった。コンテンツはYouTubeで一週間限定公開した。

令和4年度 留学生のためのキャリアセミナー
17:30 - 19:00
申込み
対象：大阪大学の留学生
主催：大阪大学国際教育交流センター
共催：キャリアセンター
協力：工学研究科国際交流推進センター

On-Line Job Search Strategy Seminars 2022
For international students
1730 - 19:00
Registration
Target: Osaka Uni. international students
Organized by Career Center for International Education and Exchange
Co-organized by Career Center
In cooperation with CIEA, Graduate School of Engineering

第1回 Introduction to job search for international students
10/13 (木) 英語
第2回 情報収集及び企業・業界研究
10/24 (月) 日本語
第3回 就活を成功させる「自己分析」
11/7 (月) 日本語
第4回 OBOGによる体験談
11/26 (土) 日本語
第5回 内定者による体験談
12/1 (木) 日本語
第6回 エントリーシートの書き方と合同企業説明会等対策
12/12 (月) 日本語
第7回 WEB面接・WEBグループディスカッション対策
12/19 (月) 日本語
第8回 オンライン集団面接練習会
1/23 (月) 日本語

1st Introduction to job search for international students
10/13 (Thu) English
2nd Collecting information and business research
10/24 (Mon) Japanese
3rd Self-Analysis for Successful Job Hunting
11/7 (Mon) Japanese
4th Hearing about experiences of OBOGs
11/26 (Sat) Japanese
5th Hearing about experiences of students with job offer
12/1 (Thu) Japanese
6th Preparing entry sheets and company recruiting fairs
12/12 (Mon) Japanese
7th Preparation for Web Interviews and Web Group Discussions
12/19 (Mon) Japanese
8th Preparing interview
1/23 (Mon) Japanese

図1 就職対策講座ポスター

(i) アンケート調査結果

全8回のうち、第1回「Introduction to job search for international students」の参加者が最も多く41名、次に第5回「内定者による体験談」の16名が続いた（cf. 図2）。参加者の所属別では工学系が最も多く56名であった（cf. 図3）。出身国では中国が最も多く87名で、全体の63%を占めた（cf. 表9）。学年別では博士課程前期1年次が最も多く55名で全体の40%を占めた（cf. 図4）。

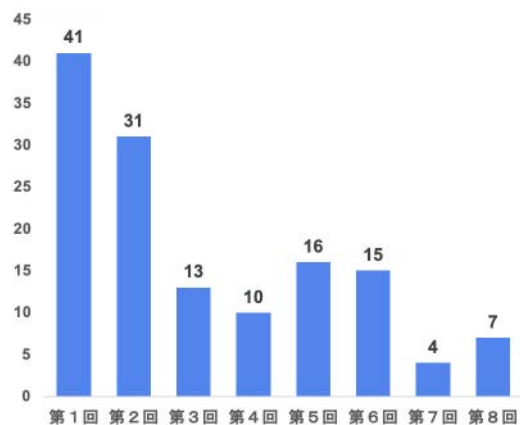


図2 各回の参加人数

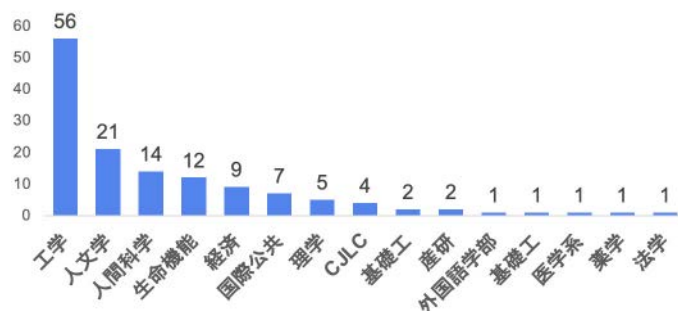


図3 参加者の所属

表9 参加者の出身国

中 国	87	ロ シ ア	2
韓 国	9	イ ラ ン	1
台 湾	5	ウ ク ラ イ ナ	1
インドネシア	4	タ イ	1
ミャンマー	4	ド イ ツ	1
インド	3	ト ル コ	1
バングラデシュ	3	ブ ラ ジ ル	1
ベトナム	3	ス リ ラ ン カ	1
スーダン	3	フィリピン	1
ナイジェリア	2	ホンジュラス	1
オマーン	2	日 本	1
		計	137

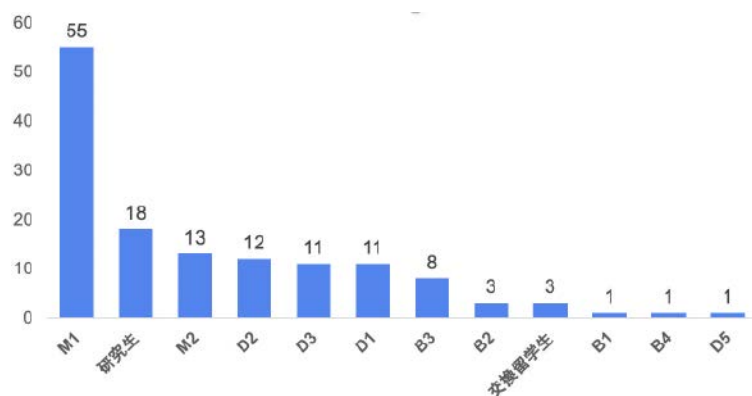
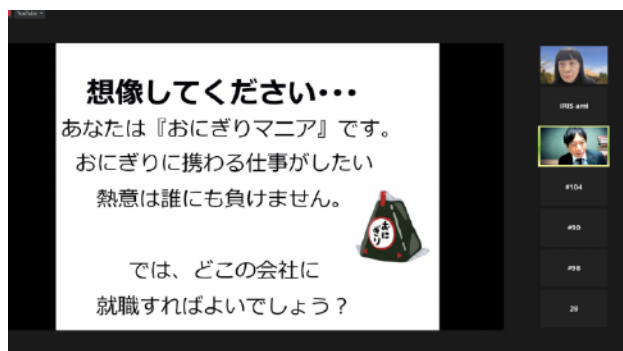


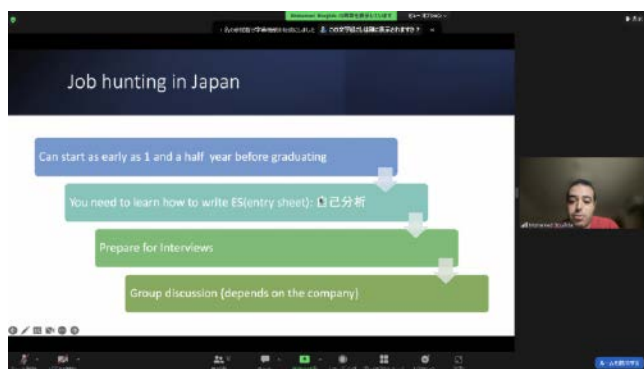
図4 参加者の学年



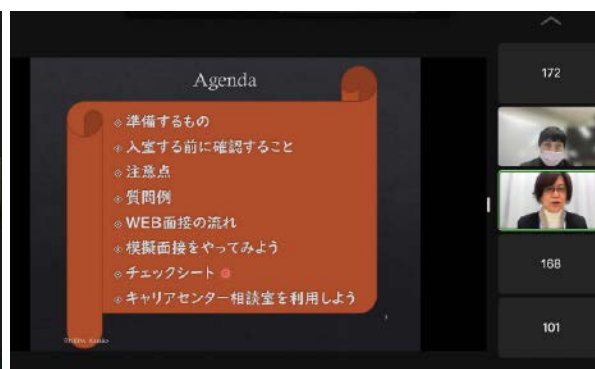
i) 第2回 情報収集および企業・業界研究



ii) 第4回 OBOGによる体験談



iii) 第5回 内定者による体験談



iv) 第8回 オンライン集団面接練習会

キャリアセミナーの様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため留学生のための就職相談を行っている。対面は吹田、豊中および箕面キャンパスで週1回開室している。2022年度利用者数は対面相談が延べ36名（昨年度27名）、ZOOM相談が延べ24件（昨年度27件）、メールによる相談は延べ168件（昨年度187件）となっている。（図5&6、表10～12参照）

留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？

2022年度 留学生のための就職相談コーナー

対面

- 豊中** 毎週火曜日12:00～13:00 学生交流棟 3階 国際教育交流センターミーティングルーム
- 箕面** 毎週水曜日12:00～13:00 外国学研究講義棟5階 国際教育交流センター真面目室
- 吹田** 毎週木曜日12:00～13:00 ICホール2階 講義室3

ZOOM 担当者と日程調整します。 **メール** いつでもメール可能

申込み career@ciece.osaka-u.ac.jp

1. 希望するメディア **対面** **ZOOM** **メール** ※対面の場合は希望日
2. 氏名 3. 学部/学科 4. 学年 5. 国籍 を書いて申し込んでください。
・ 件名に「相談コーナー申し込み」と書いてください。

CIEE 大阪大学国際教育交流センターコーディネーター 亀崎 典子 専任准教授

If you are interested in finding a job in Japan, why not come for consultation?

Consultation on Job Search for International Students 2022

Face-to-face

- Toyonaka** 12:00～13:00 (Tuesdays) CIEE Meeting Room, 3rd floor, Student Service and Union
- Minoh** 12:00～13:00 (Wednesdays) CIEE Minoh Branch, 5th floor, Research and Education Hub
- Suita** 12:00～13:00 (Thursdays) Room 3, 2nd floor, IC Hall

ZOOM date & time to be arranged **e-mail** e-mail us anytime

Application career@ciece.osaka-u.ac.jp

Email us with 1. Your preferred media **Face-to-face** **ZOOM** **e-mail**
※ If face-to-face, your preferred date 2. your full name, 3. faculty, 4. year, and 5. nationality. Put "Career Consultation" in the subject line.

CIEE 大阪大学国際教育交流センターコーディネーター 亀崎 典子 専任准教授

図5 就職相談コーナーポスター

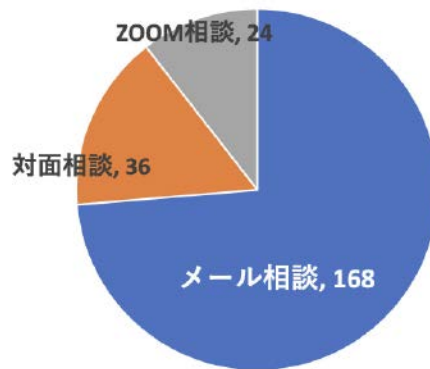


図6 就職相談コーナーメディア利用状況

表10 ZOOM相談利用状況（月別・出身国別・部局別・学年別）

	中 国	ベ ト ナ ム	イ ン ド ネ シ ア	ア メ リ カ	ロ シ ア	タ イ	シン ガ ポ ール	計		人 間 科 学	医 学	人 文 学	生 命 機 能 学	工 学	経 済 学	国 際 公 共	交 換 留 学 生	理 学	C I E E	計		D 3	M 2	M 1	B 3	D 2	B 2	D 4	B 4	交 換 留 学 生	計
4月	3							3	4月		3									3	4月	3									3
5月	2		1					3	5月		1			1	1					3	5月	1	1	1							3
6月	1	1						2	6月	1		1								2	6月				1			1			2
7月		1						1	7月	1										1	7月		1								1
8月								0	8月											0	8月										0
9月								0	9月											0	9月										0
10月								0	10月											0	10月										0
11月				1				1	11月										1	1	11月									1	1
12月	1				1			2	12月			1					1			2	12月					1				1	2
1月	2							2	1月			1		1						2	1月		2								2
2月	4					1	1	6	2月	2			1		1		1	1		6	2月		1	1	1	1	1		1		6
3月	2	1	1					4	3月				2			2				4	3月	3		1							4
	15	3	2	1	1	1	1	24		4	4	3	3	2	2	2	2	1	1	24		7	5	3	2	2	1	1	1	2	24

表11 対面相談利用状況（月別・出身国別・部局別・学年別・キャンパス別）

	中 国	ベ ト ナ ム	バ ン グ ラ デ シ ュ	エ ジ プ ト	韓 国	ス ペ イン	日 本	エ チ オ ピア	ド イツ	イ ン グ リ ス	イ ラ ン	ミ ヤ ン マ ー	フ ィ リ ピ ン	計		工 学 ／ 人 文 学	日 本 語	外 国 語	情 報 科 学	言 語 学	理 学	医 学	経 済 学	法 学	人 間 科 学	国 際 公 共	計		M 交 換 留 学 生	M 2	D 3	D 4	D 1	D 2	研 究 生	B 4	ボ ス ド ク	計		吹 田	豊 中	箕 面	計	
4月														1	1	4月	1										1	4月				1					1	4月	1			1		
5月	4													4		5月	1	1					2				4	5月	3	1							4	5月	1	3		4		
6月	3	1												4		6月					1	1	0		2		4	6月	1		1	1	1				4	6月	4	0		4		
7月	1		1	1										3		7月	2	1									3	7月	1		1				1	3	7月	2		1	3			
8月					1	1								2		8月		2									2	8月		2							2	8月		2		2		
9月	2													2		9月					1					1	2	9月		2							2	9月	2			2		
10月	2				1									3		10月					2					1	3	10月		2					1	3	10月	1	2		3			
11月	1						1							2		11月	1							1		2	11月	1						1	2	11月	1	1		2				
12月														0		12月											0	12月									0	12月				0		
1月	1	1						1	2		1			6		1月		4	1	1							6	1月	4		1				1	6	1月	1		5	6			
2月	3							1		1				5		2月	3	2									5	2月	2		2	1					5	2月	3	2		5		
3月	3											1		4		3月	4										4	3月	1		2					1	4	3月	4			4		
	20	2	1	1	2	1	1	2	2	1	1	1	0	136			12	3	7	1	1	0	4	1	2	1	2	236		9	7	7	7	0	1	0	0	4	136		18	10	8	36

表 12 メール相談利用状況（月別・出身国別・部局別・学年別）

	中 国	インド ネシア	エチ オピア	ス ー ダ ン	シン ガ ポ ール	ア メ リ カ	韓 国	イ ラ ン	不 明	計
4月	13	5						1		19
5月	7	7								14
6月	42	2								44
7月	7									7
8月										0
9月	8									8
10月	8									8
11月	4			2		1				7
12月	8									8
1月	18		2						1	21
2月	16		2		2					20
3月	11						1			12
	142	14	4	2	2	1	1	1	1	168

	経 済	工 学	国 際 公 学	人 文 学	言 語 文 化	医 学	基 礎 工 学	情 報 科 学	理 学	生 命 機 能	計
4月		5	2		7	4				1	19
5月		7	3	2		2					14
6月	42	2									44
7月	7										7
8月											0
9月	6		2								8
10月	5		3								8
11月	4	3									7
12月	8										8
1月	9	3		5			2	2			21
2月	4	5	8				3				20
3月	8		1	2					1		12
	93	25	19	9	7	6	5	2	1	1	168

	M 1	M 2	D 3	卒 業 生	B 2	交 換 留 学 生	B 4	不 明	計
4月		11	5	3					19
5月		10	2			2			14
6月	42	2							44
7月	7								7
8月									0
9月	6	2							8
10月	5	3							8
11月	5		1				1		7
12月	8								8
1月	12	4	4					1	21
2月	10	3	5		2				20
3月	8	3					1		12
	103	38	17	3	2	2	2	1	168

主な相談内容は以下の通りである。

エントリーシートの日本語チェック（多数）

履歴書の日本語チェック（複数）

面接練習（複数）

英語で就活について（複数）

インターンシップについて

内定辞退について

卒業後の就活について（特定活動ビザ）

日本の就活制度について

英語でできるインターンシップについて

特定活動ビザについて/ビザの変更について

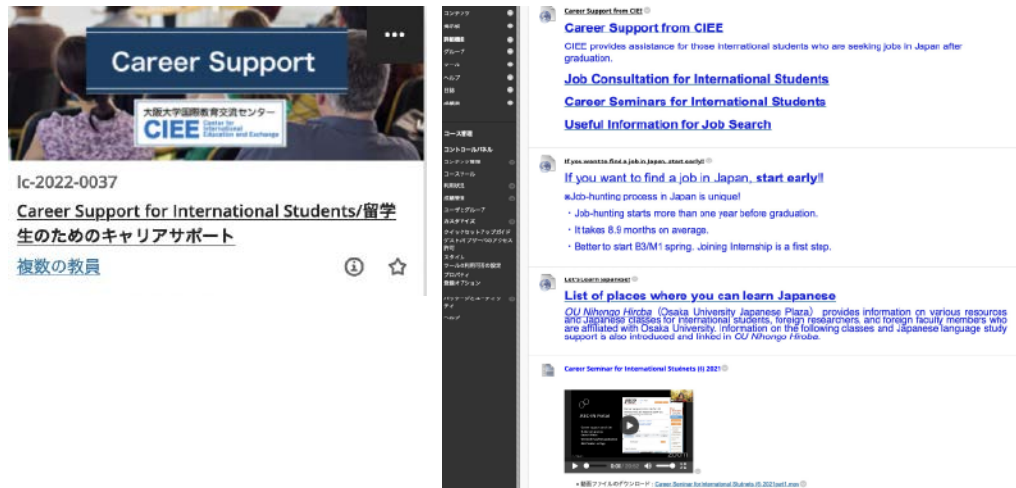
学生時代頑張ったことの書き方について

逆質問について

英語の教員になりたい

志望理由の書き方について

英語で就活情報を収集したい留学生が増えていることを受け留学生向け就活情報の英語コンテンツをCLE内に作成した。全学生が閲覧可能である。



VII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学学生の海外派遣留学を促進・支援するために、毎年様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加や休暇期間を利用した語学留学へのニーズに応え、短期語学研修プログラムを企画・実施するとともに、海外留学オリエンテーションでの情報の提供や、学期中の相談体制を通じて、留学に対する学生の疑問や不安にこたえ、サポートを充実させている。

1. 短期語学研修プログラム

短期語学研修プログラムは、海外体験を希望する学生への夏季・春季休暇を活用した語学留学機会の提供に加え、協定校への交換留学に向けたステップとなる海外体験としても位置付けている。2020年以降新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での研修が全て中止となった。2021年の春季までは対面の代替プログラムとしてオンラインでのプログラムを実施していたが、2022年度においてはオンラインプログラムを残しつつ、対面でのプログラムを再開した。

夏季語学研修プログラムでは、米国・ハワイ大学マノア校による5週間の対面プログラム（2022年8月22日～9月23日）とフィリピン・エンデランカレッジによる3週間のオンラインプログラム（2022年8月15日～9月2日）を実施した。また春季語学研修では、イギリス・リーズ大学による4週間の対面プログラム（2023年2月13日～3月10日）を実施した。フィリピン・エンデランカレッジによるオンラインプログラムも春季に準備していたが、残念ながら応募者がいなかった。本語学研修プログラムでは、学生の学びを最大限に引き出すため、プログラムの前後に事前・事後学習を参加学生は受講することになっている。事前研修では、研修中の目標設定を行い、事後研修では設定した目標の達成度を確認した後、今後の語学学習の目標を考える機会とした。事前・事後学習は、これまで対面で実施していたが、今年度よりCLEを活用しオンラインで提供し始め、学生が都合の良い日時に受けられるようにしている。

本年度より対面でのプログラムを提供し始めたが、より多くの学生が海外語学研修に参加できる機会を提供するために、オンラインでのプログラムも引き続き提供する予定である。オンラインのプログラムには、これまで参加しなかった学部や研究科からの学生の参加者がある。学部や研究科のカリキュラム上、大学を離れることが難しい学生にとっては、新たな学びの機会となっているようである。

(1) 研修日程と参加者リスト

2022 年度ハワイ大学マノア校夏季語学研修プログラム
(2022.8.22-9.23 実施)

	プログラム期間	所属部局	学年
1	8 月 22 日～9 月 23 日	文学部	U2
2	8 月 22 日～9 月 23 日	法学部	U2
3	8 月 22 日～9 月 23 日	法学部	U3
4	8 月 22 日～9 月 23 日	経済学部	U3
5	8 月 22 日～9 月 23 日	外国語学部	U1
6	8 月 22 日～9 月 23 日	外国語学部	U2
7	8 月 22 日～9 月 23 日	外国語学部	U3
8	8 月 22 日～9 月 23 日	外国語学部	U3
9	8 月 22 日～9 月 23 日	外国語学部	U4
10	8 月 22 日～9 月 23 日	理学部	U3
11	8 月 22 日～9 月 23 日	工学部	U3
12	8 月 22 日～9 月 23 日	工学部	U3
13	8 月 22 日～9 月 23 日	工学部	U3
14	8 月 22 日～9 月 23 日	工学部	U3
15	8 月 22 日～9 月 23 日	工学研究科	M2

2022 年度エンデランカレッジ夏季語学研修プログラム
(オンライン)
(2022.8.15-9.2 実施)

	プログラム期間	所属部局	学年
1	8 月 15 日～9 月 2 日	人間科学部	U1
2	8 月 15 日～9 月 2 日	法学部	U1
3	8 月 15 日～9 月 2 日	外国語学部	U1
4	8 月 15 日～9 月 2 日	外国語学部	U1
5	8 月 15 日～9 月 2 日	工学部	U2
6	8 月 15 日～9 月 2 日	医学系研究科	D3

2022 年度リーズ大学春季語学研修プログラム
(2023.2.13-3.10 実施)

	プログラム期間	所属部局	学年
1	2 月 13 日～3 月 10 日	外国語学部	U2
2	2 月 13 日～3 月 10 日	工学部	U3

2. 海外留学オリエンテーション

国際教育交流センターでは、本学の学生の海外派遣留学促進のために様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加に応え、短期語学研修プログラムの実施、海外留学オリエンテーションでの情報の提供、相談対応による疑問や不安の解消に努めている。

2022 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンラインで実施し、配布資料や当日のビデオを大阪大学のホームページに掲載した。また、海外留学フェアは今年度も中止となった。

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

主に新入生を対象とし、入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、1・2 年生が共通教育を受ける豊中キャンパスで実施を予定していた。オリエンテーションの主な内容は、在学中の交換留学制度や夏季・春季休暇を使った短期語学研修プログラムの説明のほか、プログラム参加学生の体験談や、質疑応答である。また、交換留学に向けた準備として、交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語科目である国際交流科目や、教員や留学経験学生による留学相談などの情報提供も行う予定であった。

(2) 海外留学フェア

海外留学フェアは、2019 年度から開始され、留学に関心のある学生に対し、留学の様々な選択肢を紹介し留学への動機付けを図るとともに、学内の各留学プログラムや大学間交換留学等海外留学に関する情報を幅広く得てもらうことを目的としている。ここでは学内関係部局のみならず、協定校や、大使館などの関係団体も数多く参加してもらい、学生に対して留学の魅力を広くアピールし、留学の実現につなげることを目指している。

(3) 大学間交換留学オリエンテーション

交換留学の制度と手続きを解説する大学間交換留学オリエンテーションを国際部国際学生交流課の協力のもと開催している。

表1 オリエンテーションの開催日時と参加者数

	開催場所	開催日時	参加者数
海外留学オリエンテーション入門編	オンライン	4月21日(木)	92
大学間交換留学オリエンテーション	オンライン	7月7日(木)	103

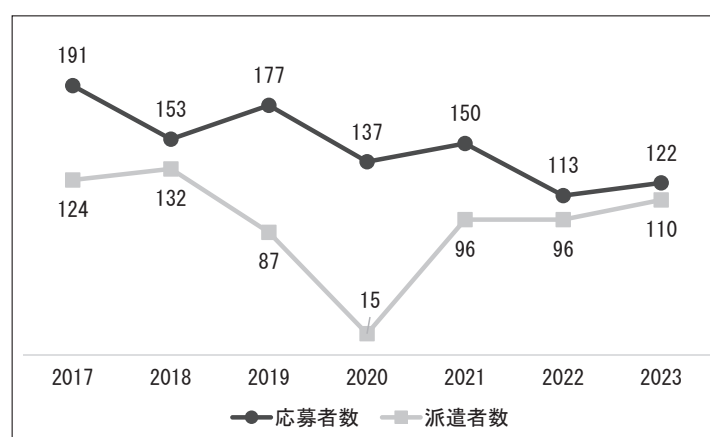
3. 大学間交換留学人数

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年度春夏学期の大学間交換留学派遣は全て中止となったが、2021年6月15日、文部科学省により「安全確保の徹底を前提として海外への約1年間の長期留学を容認する通知」が出されたため、8月以降、交換留学生の派遣が再開された。2022年度の派遣された学生は、計96名（うちオンライン9名）であった（表2と表3参照）。

このような状況の中、2023年度大学間交換留学へは122名の応募があった。応募者については、提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し、学内面接選考を実施した。これに合格して、2022年度の交換留学派遣の内定を得た学生数は、110名である。過去6年間の大学間交換留学への応募者数は表2の通りである。ここから、コロナ禍であっても多くの学生が海外留学への意志を強く持っていることがうかがえる。

表2 大学間交換留学応募者数と派遣者数の推移

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
応募者数	191	153	177	137	150	113	122
派遣者数	124	132	87	15	96	96	110



※ 2017～2019年応募者数は追加募集・本募集の合計、2023年度は現時点では本募集者数のみ

※ 2020年度の派遣者15名および2021年度の96名中9名、2022年度の96名中9名はオンラインによる参加

※ 2023年度の派遣者数は現時点では内定者数

表3 交換留学派遣推薦者数（大学間協定）

学部・研究科名	相手大学名	国・地域名	地域名	2022	
				うちオンライン	
全部局	ガジャマダ大学	インドネシア	ア ジ ア	1	
全部局	シンガポール国立大学	シンガポール	ア ジ ア	1	
全部局	モンゴル国立大学	モ ン ゴ ル	ア ジ ア	1	
全部局	高麗大学校	韓 国	ア ジ ア	2	
全部局	ソウル大学校	韓 国	ア ジ ア	1	
全部局	中央大学校	韓 国	ア ジ ア	5	
全部局	全南大学校	韓 国	ア ジ ア	1	
全部局	漢陽大学校	韓 国	ア ジ ア	2	
全部局	釜山大学校	韓 国	ア ジ ア	2	
全部局	延世大学校	韓 国	ア ジ ア	1	
全部局	上海交通大学	中 国	ア ジ ア	3	3
全部局	清華大学	中 国	ア ジ ア	2	2
全部局	北京師範大学	中 国	ア ジ ア	1	1
全部局	香港大学	香 港	ア ジ ア	1	
全部局	ダーラム大学	英 国	ヨーロッパ	2	
全部局	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	英 国	ヨーロッパ	1	
全部局	リーズ大学	英 国	ヨーロッパ	4	
全部局	ウィーン大学	オーストリア	ヨーロッパ	2	
全部局	グローニンゲン大学	オ ラ ン ダ	ヨーロッパ	1	
全部局	ダルムシュタット工科大学	オ ラ ン ダ	ヨーロッパ	1	
全部局	イエーテボリ大学	スウェーデン	ヨーロッパ	1	
全部局	マドリード自治大学	ス ペ イ ン	ヨーロッパ	2	
全部局	コペンハーゲン大学	デンマーク	ヨーロッパ	2	
全部局	アーヘン工科大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	アウクスブルク大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	カールスルーエ工科大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	ハイデルベルク大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	5	
全部局	ビーレフェルト大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	ミュンヘン工科大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	1	
全部局	ルール・ボーフム大学	ド イ ツ	ヨーロッパ	5	
全部局	オスロ大学	ノ ル ウェー	ヨーロッパ	2	
全部局	オーボアカデミー大学	フィンランド	ヨーロッパ	1	
全部局	ヘルシンキ大学	フィンランド	ヨーロッパ	3	
全部局	エックス・マルセイユ大学	フ ラ ン ス	ヨーロッパ	1	
全部局	グルノーブル・アルプ大学	フ ラ ン ス	ヨーロッパ	1	
全部局	オレゴン大学	ア メ リ カ	北 米	2	
全部局	ウェズリアンカレッジ	ア メ リ カ	北 米	2	
全部局	カリフォルニア大学	ア メ リ カ	北 米	9	
全部局	テキサス A&M 大学	ア メ リ カ	北 米	2	
全部局	ナザレスカレッジローチェスター校	ア メ リ カ	北 米	1	
全部局	ライス大学	ア メ リ カ	北 米	1	
全部局	ワシントン大学	ア メ リ カ	北 米	2	
全部局	トロント大学	カ ナ ダ	北 米	2	
全部局	プリティッシュ・コロンビア大学	カ ナ ダ	北 米	1	
全部局	カンピーナス大学	ブ ラ ジ ル	中 南 米	1	
全部局	サンパウロ大学	ブ ラ ジ ル	中 南 米	1	
全部局	アデレード大学	オーストラリア	オセアニア	1	
全部局	オーストラリア国立大学	オーストラリア	オセアニア	2	
全部局	モナシュ大学	オーストラリア	オセアニア	3	
大学間協定に基づく交換留学生数				96	6

4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

2022年度は、2022年8月8日にオンラインにて実施し90名の参加があった。海外渡航時の危機管理・健康管理への意識を高めることを主目的とし、海外渡航中の健康管理など日常生活における危機管理に加え、テロを含む海外での治安に関する注意点などについての情報提供を行った。また、同内容は学内Webにて動画および資料を公開し、海外渡航学生に随時情報が提供できる体制を整えた。

以下に、当日のスケジュールを示している。

【プログラム】

2022年度留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

1. 開催日時

令和4年8月8日(月) 11:30～13:00

2. 開催形態

オンライン (ZOOM)

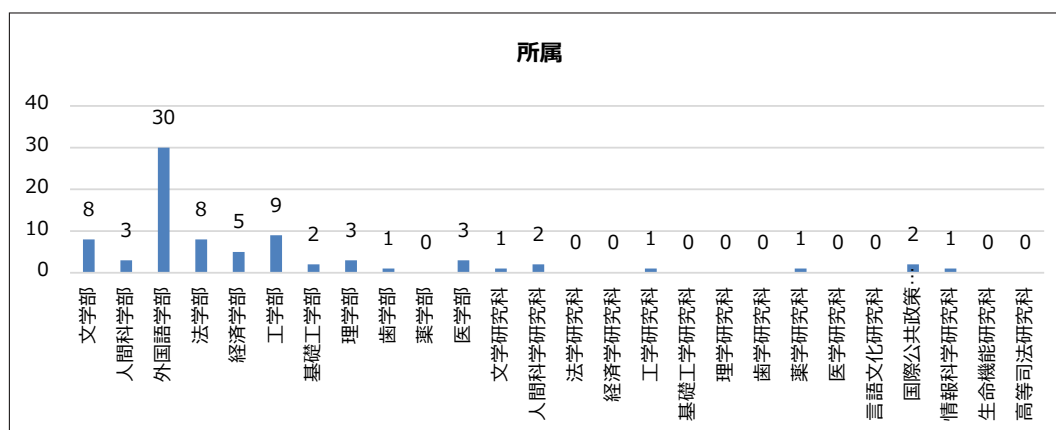
3. オリエンテーションの内容 (予定)

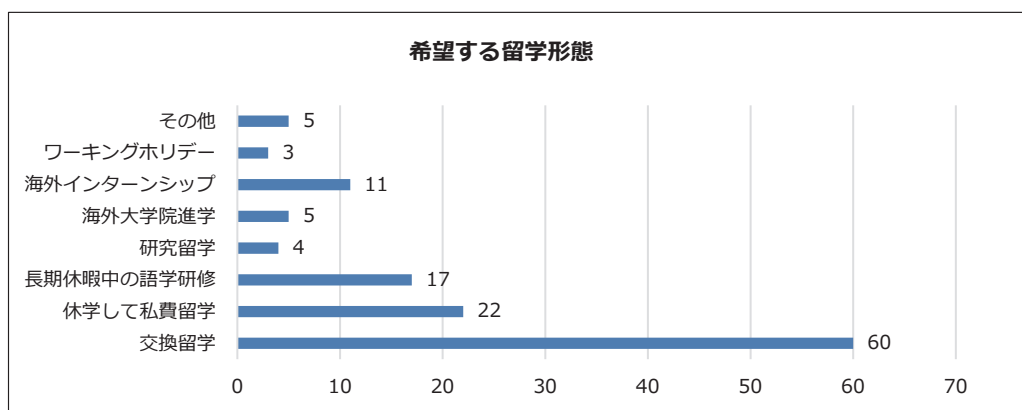
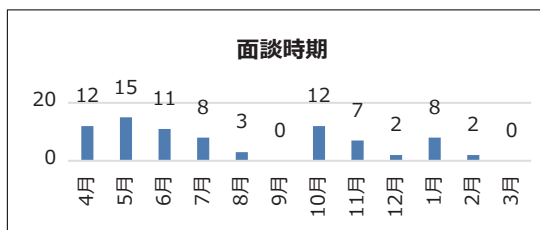
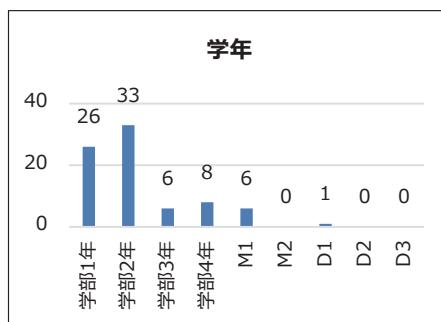
- ・「海外渡航時の諸手続きと留意事項について」
- ・「海外渡航時の健康管理について」
- ・「海外渡航時の危機管理およびOSSMAサービスについて」

5. 海外留学相談

(1) 教員による留学相談

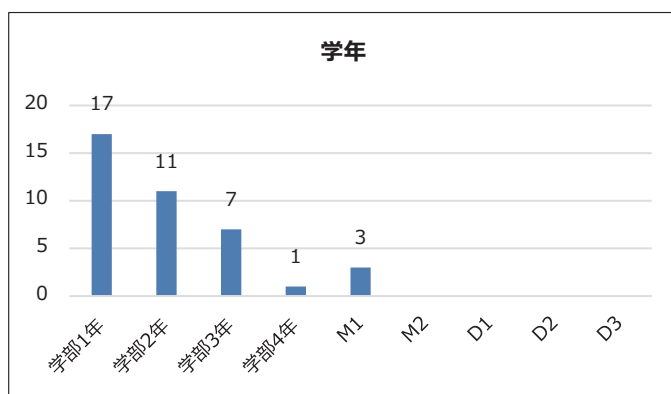
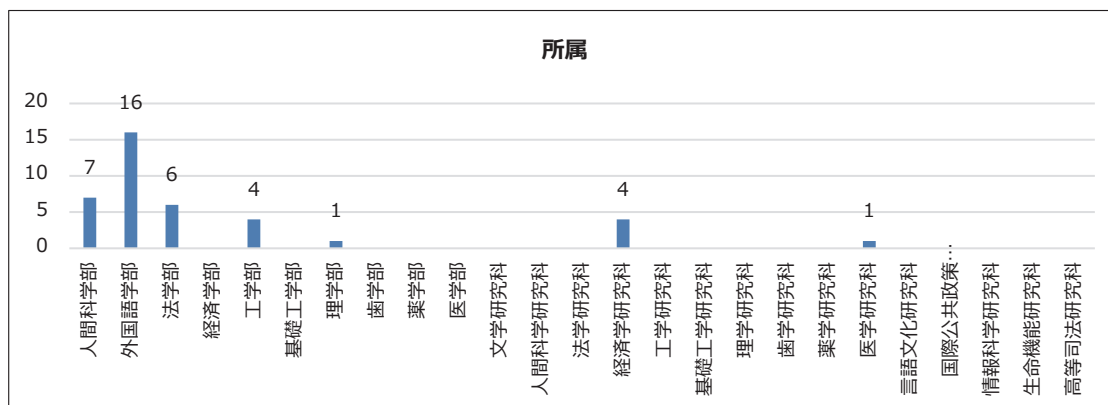
2022年度教員による留学相談は、授業期間中（2022年4月11日～2023年2月8日）に春夏学期はオンラインで、秋冬学期はオンライン及び対面で、週に2～3回実施した。留学相談はポートフォリオシステムを用い、随時受け付けた。留学相談の利用者数の総数は133名（2021年度は138名、2020年度は79名）で、内訳は以下の通りである。（留学ポートフォリオシステムによる集計、有効回答者数は80名。）

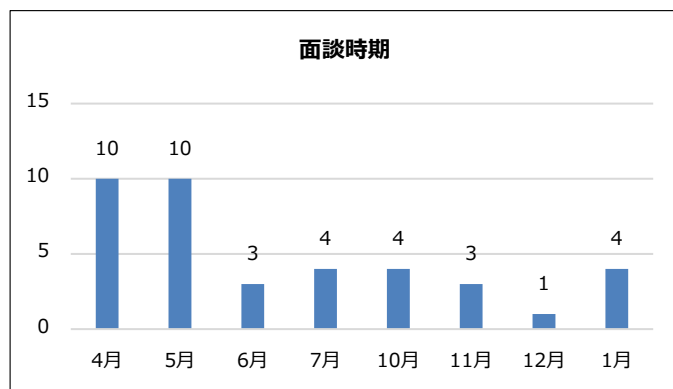




(2) 学生による留学相談

交換留学を経験した本学学生2名によりZoomにて定期的なオンライン留学相談を開催した。相談利用者の総数は39名（2021年度は65名、2020年度は16名）で、内訳は以下の通りである。





6. 英語学習支援プログラム Project HELP!

国際教育交流センターでは、2015年度から本学の英語学習者（メンティー）と英語が堪能な留学生（メンター）をマッチングし、メンティーのInternational English Language Testing System（英語力証明試験。以下、IELTS）のスコア向上をめざす3か月間の英語メンタリング学習プログラム「Project HELP!」（Harmonized English Language Program, 以下、HELP!）を実施している。海外留学に向けて英語能力を向上させたい阪大生「メンティー」と、その英語学習をサポートする意思のある「メンター」（主に大阪大学への留学生。母語は英語に限らない）をマッチングし、約3か月の期間内に90分×8回のメンタリングを行い、海外留学実現のために必要な英語力の獲得をめざす。

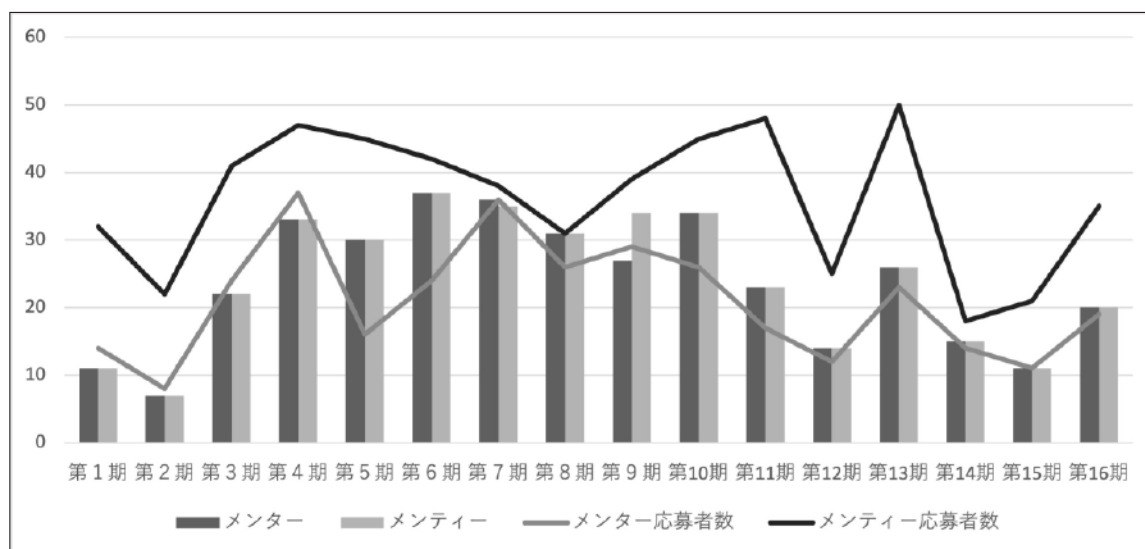
Project HELP! 概要	
目的	- 留学生（Mentor メンター）：①日本理解の促進、②日本留学の魅力を向上させる「能動的社會参加」の提供 - 阪大生（Mentee メンティー）：①異文化理解、②留学可能レベルの外国語（英語）習得（IELTS6.0以上）をめざす
メンタリング	90分×8回、3か月以内の終了をめざす - 学習支援システム MEnTOR 上に学習記録記入 8回終了後、メンターへ認定証の発行
開始時期	2015年10月～
担当教職員	近藤佐知彦教授、石倉佑季子准教授、林貴哉特任助教、垣塚保子事務補佐員
協力	ブリティッシュ・カウンシル、日本英語検定協会、アンザスインターナショナル株式会社

時期	スケジュール
3月/9月中旬	メンター募集開始
4月/10月初め	メンティーの募集開始
4月/10月半ば	メンター・メンティーのマッチング
4月/10月後半	HELP! オリエンテーション ・メンター：IELTS講習会（ブリティッシュ・カウンシルによる） ・メンティー：メンタリング、カルテの説明 ・顔合わせ（スケジュール提出）
5月/11月	メンタリング開始 ・MEnTOR システムサポート ・各ペアのメンタリングのサポート ・中間アンケート
6月/12月	ワークショップ
7月/1月	メンタリング終了
8月/2月	メンター審議・認定証発行 終了後アンケート、メンティーIELTS受験予定日報告 メンティーはProject開始から6か月以内にIELTS受験

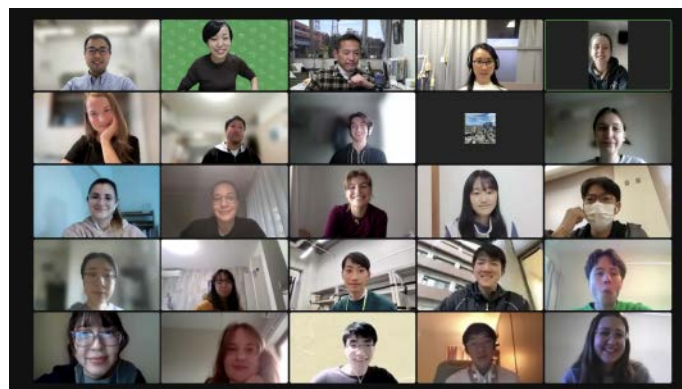
8回のメンタリング終了後、メンティーにはIELTS受験およびスコア報告を義務付けており、メンターには修了証が授与される。このように、外部機関の協力により制度化された本プログラムは、メンター・メンティーともに参加者満足度が高く、每期平均95%以上である。

メンターの国籍は様々であり、メンティーの所属学部・研究科については、外国語学部、法学部、経済学部、工学部・工学研究科、基礎工学部、医学部・医学研究科の学生による応募が多く、HELP!は全学的に需要のあるプログラムであるといえる。

説明会とオリエンテーションはパンデミックの影響により2020年度からオンラインで実施している。メンタリングは、学内の活動基準に合わせて、対面とオンライン併用可とした。参加者については、第15期は11組（メンター11名、メンティー11名）、第16期は20組（メンター19名、メンティー20名）であり、メンタリング修了率は、第15期は100%、第16期は95%であった。



また、2022年度はメンティーの学習をサポートするためのワークショップを各学期の途中に実施した。第15期は、メンターを対象とした英語学習をサポートするためのワークショップと、メンティーを対象とした英語学習支援をサポートするためのワークショップをオンラインで実施した。第16期のワークショップは参加者同士の交流を促すために対面実施とし、メンターとメンティーの合同で実施した。



【HELP! オンラインオリエンテーション】



【HELP! ワークショップの様子】

Ⅷ. サポートオフィスの活動

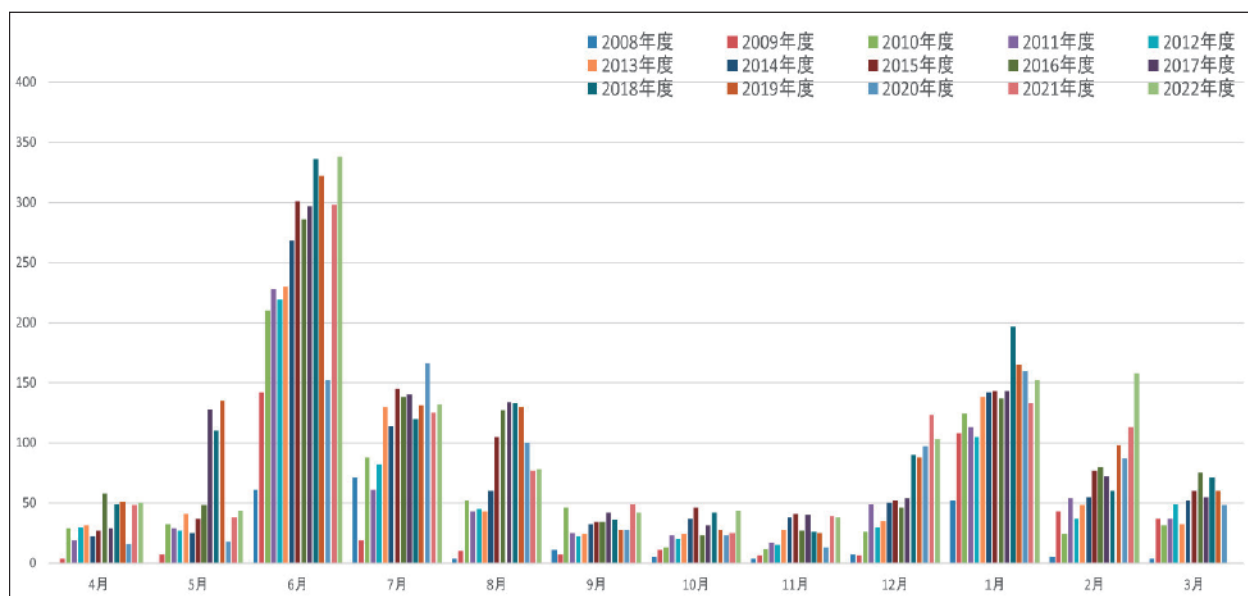
2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、来日前の査証（ビザ）に関わる手続き、宿舍手配の支援、来日直後に必要な諸手続き、また日本滞在中に必要な在留手続き等を中心に、サポートや情報提供を行なっている。このような活動をととして、世界中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。2022年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。



1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2022年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は、「留学」859件、「教授」120件、「文化活動」73件、「家族滞在」41件、その他0件の計1093件であった（2023年3月分は含まず）。「教授」「文化活動」の申請件数が昨年度よりも増加の傾向にある。CESR Web申請システムは、申請者が利用しやすくなるよう年々改良を重ねている。ビザ関連支援に関連する電話対応件数は約1042件、窓口対応件数は約46件であった（2023年3月分は含まず）。グラフは2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援

2021年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る水際対策の強化により、留學生の新規渡日は困難な状況が続き、在学中の学生にとっても、授業の多くがオンラインで実施される状況で、宿舍支援に関する電話対応件数は約18件、窓口対応件数は約5件と減少した。情報提供のツールとしてホームページの役割が増す中、大阪大学生協の協力を得て、「オンライン内覧」の案内を2020年10月から開始し、各種移動制限がある中での部屋探しをサポートすることができた。

2022年から、留學生向け物件取扱い実績のある学外の不動産仲介業者を選定、学内にある大学生協マイルームと共に掲載したリストを作成しサポートオフィス主催の研修会やオリエンテーションで配布する、メールでの問い合わせの際に送付するなど案内を行っている。

3. 新規来日外国人留學生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。上陸制限が徐々に解除され、2022年度の参加者の合計は125名と昨年度に比べ約3倍に増加した。主な内容は以下のとおりであった。

- ① 異文化での生活についてのアドバイス
- ② 学内外のコミュニティとネットワークの紹介
- ③ 在留資格に関する案内
- ④ 市役所等での手続きの案内
- ⑤ 学内の情報ネットワークの説明
- ⑥ 日本語履修についての説明（留學生対象）



2022年度 春期
新規来日留學生・外国人研究者向けオリエンテーション
主催：サポートオフィス&IRIS (国際教育交流センター)

◆ 開催日時・場所

2022年 3月30日 (水) 豊中キャンパス 全学教育推進機構 講義A棟 201講義室
13時00分 受付開始 13時30分～14時25分 英語
14時30分 受付開始 15時00分～15時55分 日本語

2022年 4月 7日 (木) 吹田キャンパス コンベンションセンター1階 研修室
13時00分 受付開始 13時30分～14時25分 英語
14時30分 受付開始 15時00分～15時55分 日本語

◆ 実施内容

- ・大阪大学で新しい生活を始めるにあたってのアドバイス
- ・IRISとその他の学内コミュニティについて
- ・在留資格について
- ・市役所などの手続き
- ・大阪大学のインターネットサービスについて
- ・日本語プログラム履修方法について
- ・個別相談 (自由参加)

大阪大学地図
豊中キャンパスマップ
吹田キャンパスマップ

サポートオフィス
TEL: 06-6879-4750
E-mail: supportoffice@office.osaka-u.ac.jp

＜お問い合わせ＞
留學生交流情報室「IRIS」
TEL: 06-6879-7076
E-mail: iris@osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入に伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舍支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。

【2022（R.4）年度第1回研修会】

参加者 47 名（教員 0 名、事務職員 47 名）

2022 年 6 月 8 日（水）13:30-15:50（吹田）

2022 年 6 月 9 日（木）13:30-15:50（豊中）

【2022（R.4）年度第2回研修会】

参加者 21 名（教員 1 名、事務職員 20 名）

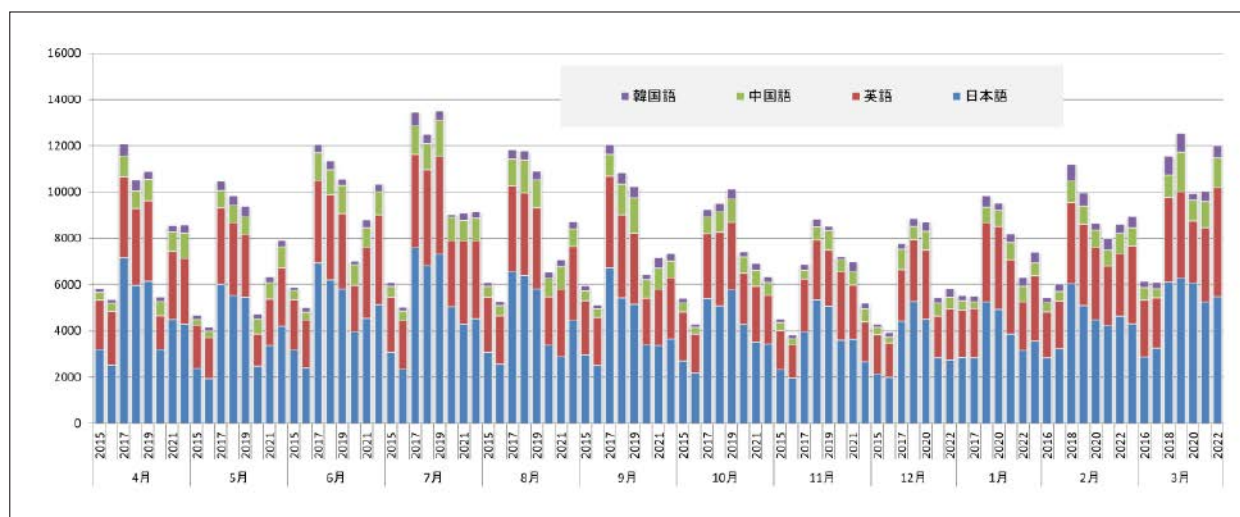
2022 年 11 月 29 日（火）13:30-15:50（吹田）

2022 年 11 月 30 日（水）13:30-15:50（豊中）



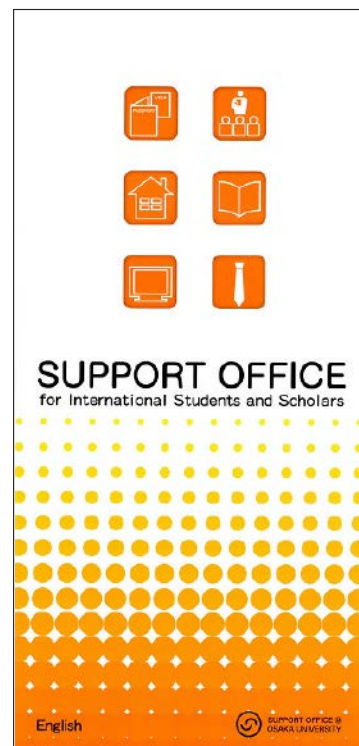
5. ホームページの管理運営

サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを 4ヶ国語で公開している（日・英サイトは 2010 年 4 月より、中・韓サイトは 2011 年 4 月より公開）。2022 年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約 43,003 件、英語サイトが約 30,671 件、中国語サイトが約 8,442 件、韓国語サイトが約 3,692 件であった（2023 年 3 月分は含まず）。グラフは各言語の閲覧件数を示す。



6. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『Coming to Osaka』は、主にCESR送付時にE-mailで、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションおよび留学生・外国人研究者受入事務担当者研修会でホームページからのダウンロードを呼び掛けた。



IX. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文の順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 人文学研究科

① 博士前期課程

【科目名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

【科目名】言語技術研究B

【講義題目】アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読み、コミュニケーションの目的や場面に応じた、書記言語コミュニケーションとしてのライティング活動について理解を深めることである。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるアカデミック・ライティングに関して、ディスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカデミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮について、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

【科目名】コミュニケーション論A

【講義題目】第二言語の学習・教育と質的研究（義永美央子）

【講義概要】本講義では、質的研究のデザイン、方法、パラダイムについて指定図書の輪読をもとに検討した。その後、質的研究の手法を用いた論文を読み、質的データ分析に基づく第二言語教育・学習の研究がどのようにして可能になるのかを考察した。これらの過程を通じ、質的研究に関する理解を深め、受講生各自の今後の研究に役立てることを目指した。

【科目名】コミュニケーション論B

【講義題目】第二言語教育の新しい潮流（義永美央子）

【講義概要】グローバル化やICTの発展に伴い、応用言語学や第二言語教育の世界も大きく変化して

いる。この授業ではテキストの輪読とディスカッションを通じて、複言語主義、マルチコンピテンス、トランスランゲージング、学習者オートノミーなどの概念や、応用言語学における言語論的転回・多言語的展開などの新しい潮流について理解を深めた。また、そうした新しい潮流や概念に基づく第二言語教育・学習の実践についても検討した。

【科目名】第二言語教育実践研究A

【講義題目】ITによる言語教育の拡張（難波康治）

【講義概要】第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つかに
ついて検討した。前期は、インストラクショナルデザインの基礎となる教育学および心理学の理論
について学び、特にオンライン教育で問題となる動機付けについてARCSモデル等、既存のデザイ
ンを参考に検討を行った。

【科目名】第二言語教育実践研究B

【講義題目】外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波康治）

【講義概要】ITを用いた新たな教育の一環として、メタバース（仮想空間）における教育に焦点をあ
て、それがどのように第二言語教育を変えうるかについて実践的に検討した。具体的には、演習の
場としてVRゴーグルを用いたメタバース環境を全面的に採用し、その中でVR映像・動画を利用
した言語・文化教材を作成した。これらのツールおよび環境を活用した教育活動を企画、実践、評
価することを通して、仮想空間における第二言語（外国語）教育実践の可能性を検討した。

【科目名】第二言語社会・文化研究A

【講義題目】第二言語社会・文化研究入門（大谷晋也）

【講義概要】言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということを、それ
らを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フ
ランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り
返るとともに、それを正へと転換する方策について考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱
い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科目名】第二言語社会・文化研究B

【講義題目】言語文化教育の現状と課題（大谷晋也）

【講義概要】フィリピン・カンボジア・ベトナム・シンガポールの東南アジア諸国、および、韓国・
中国・台湾など、いくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るととも
に、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に検討した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理
想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものである
べきなのかを考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱
い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科目名】 グローバリゼーション論A

【講義題目】 グローバリゼーションと国民国家（西村謙一）

【講義概要】 グローバリゼーションの時代における国家や国民の実態及び概念のあり方について、市民社会論やアイデンティティ論、エスニシティ論等を援用しつつ考察した。まず、グローバリゼーションといわれる現象を分析するためのさまざまな理論的枠組みについて検討を加え、その後「市民社会」概念やエスニシティの複数性に関する議論について概観した。

【科目名】 グローバリゼーション論B

【講義題目】 グローバリゼーションの中の市民社会（西村謙一）

【講義概要】 グローバリゼーションのもとで国家や国民の実態及び概念のあり方について、市民社会論やアイデンティティ論、エスニシティ論等を援用しつつ考察した。「グローバリゼーション論A」で学んだ理論的枠組をもとに、具体的な事例を取り上げて公共圏や親密圏のあり方や一国内における社会的包摂／排除について検討した。

② 博士後期課程

【科目名】 言語コミュニケーション論特別研究A（村岡貴子）

【科目名】 言語コミュニケーション論特別研究B（村岡貴子）

【科目名】 コミュニケーション論特別研究A（義永美央子）

【科目名】 コミュニケーション論特別研究B（義永美央子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程

【科目名】 共生行動論特別研究Ⅰ及び共生行動論特別研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、宮本匠、近藤佐知彦）、共生行動論特定研究Ⅰ及び共生行動論特定研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、宮本匠、近藤佐知彦）

【講義題目】 国際化と共生社会（近藤佐知彦担当分）

【講義概要】 夏期集中講義を四人の教員で分担、近藤は共生社会実現においての国際化に関する分野について講義とワークショップを行った。

【科目名】 教育工学特定演習Ⅰ

【講義題目】 教育実践研究

【担当教員】 西森年寿、齊藤貴浩、村上正行、後藤崇志、岡本紗知、大山牧子

【講義概要】 教育工学における教育実践研究に関するテーマを中心として、この分野における重要な文献の輪読、研究方法論の習得、学外の研究者による研究紹介と議論を行う。

② 博士後期課程

【科目名】 教育工学特別演習Ⅰ

【担当教員】 西森年寿、齊藤貴浩、村上正行、後藤崇志、岡本紗知、大山牧子

【講義概要】 教育工学における教育実践研究に関するテーマを中心として、この分野における重要な

文献の輪読、研究方法論の習得、学外の研究者による研究紹介と議論を行う。

(3) 大学院高度副プログラム

【プログラム名】 インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践

【プログラム実施部局／連携部局】 国際教育交流センター／人文学研究科

【履修対象者】 大学院博士前期（修士）課程学生および博士後期課程学生

【修了要件】 8単位以上を修得すること（原則として1年で修得すること）

【プログラムの趣旨・概要】 グローバル化、ボーダレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっている。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もある。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものである。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考える。

【到達目標】 本プログラムでの学習を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養すること。また、各授業での協働的な学習活動を通じて、背景の異なる他者とのコミュニケーションの際に、他者の話を傾聴し、かつ、他者への配慮ある発信方法を獲得すること。

【カリキュラムの構成】

コミュニケーション論A・B（義永美央子）、言語技術研究A・B（村岡貴子）、第二言語社会・文化研究A・B（大谷晋也）、グローバリゼーション論A・B（西村謙一）から原則として1年以内に8単位を修得する。

(4) 学際融合教育科目

【春学期】

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
上級専門日本語 （アカデミック・ライティング）A	Advanced Japanese (academic writing) A	村岡 貴子
研究活動に必要な日本語による音声・書記言語コミュニケーションの世界	The world of oral and written language communication in Japanese for research activities	村岡 貴子
第二言語学習方法論	Methodology of Second Language Learning	義永美央子
上級専門日本語 （アカデミック・リーディング）A	Advanced Japanese (academic reading) A	西村 謙一
ICTを活用した留学生のためのキャリアデザイン	ICT Supported Career Design for International Students	魚崎 典子
上級専門日本語 （アカデミック・コミュニケーション）A	Advanced Japanese (academic communication) A	瀬井 陽子

【秋学期】

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
上級専門日本語 （アカデミック・ライティング） B	Advanced Japanese (academic writing) B	村岡 貴子
言語学習アドバイジング入門	Introduction to Advising in Language Learning	義永美央子
上級専門日本語 （アカデミック・リーディング） B	Advanced Japanese (academic reading) B	西村 謙一
上級専門日本語 （アカデミック・コミュニケーション） B	Advanced Japanese (academic communication) B	瀬井 陽子
多様性のための社会人としてのコミュニケーション	Communication as an independent person in pursuit of diversity	韓 喜善

(5) インターナショナル・カレッジ

【春学期】

国際交流科目 （※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	魚崎 典子
日本における大学の国際化	Internationalization of Higher Education in Japan	石倉佑季子
日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	近藤佐知彦
科学英語入門	Introduction to Scientific English	岡本 紗知

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	大谷 晋也
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	中俣 尚己
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	義永美央子
日本語・グローバル理解演習 500d	Japanese and Global Understanding 500d	韓 喜善
日本語・グローバル理解演習 500e	Japanese and Global Understanding 500e	藤澤 好恵
日本語・グローバル理解演習 500f	Japanese and Global Understanding 500f	中俣 尚己
日本語・グローバル理解演習 600d	Japanese and Global Understanding 600d	矢部 正人
日本語・グローバル理解演習 600e	Japanese and Global Understanding 600e	大谷 晋也
日本語・グローバル理解演習 600f	Japanese and Global Understanding 600f	伊藤 創

日本語 700 レベル（共通教育科目）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	難波 康治
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	福良 直子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	難波 康治
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	有川 友子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	石倉佑季子

【秋学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	有川 友子
異文化コミュニケーション入門	Introduction to Intercultural Communication	石倉佑季子
コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	魚崎 典子
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	近藤佐知彦
科学と社会	Science and Society	岡本 紗知

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	大谷 晋也
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	中俣 尚己
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	義永美央子
日本語・グローバル理解演習 500a	Japanese and Global Understanding 500a	韓 喜善
日本語・グローバル理解演習 500b	Japanese and Global Understanding 500b	藤澤 好恵
日本語・グローバル理解演習 500c	Japanese and Global Understanding 500c	中俣 尚己
日本語・グローバル理解演習 600a	Japanese and Global Understanding 600a	岡崎 洋三
日本語・グローバル理解演習 600b	Japanese and Global Understanding 600b	大谷 晋也
日本語・グローバル理解演習 600c	Japanese and Global Understanding 600c	小原 俊彦

共通教育科目（700 レベル）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	福良 直子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	難波 康治
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts（Japanese）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts（Japanese）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts（Japanese）	大谷 晋也

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
M1	チューター活動の雑談場面における発話ストラテジー — 非日本語母語話者の滞日経験からの分析 —	村岡 貴子 (榎本 剛士)
M1	日本語学校に在籍する日本語学習者の動機づけの発達プロセスと変容	義永美央子 (西田理恵子)
M1	日本語における表記とレトリック	(大森 文子) 大谷 晋也
M1	SNS 誹謗中傷の問題から見えるコミュニケーションの齟齬及びその原因	(小川 敦) 西村 謙一
M2	中国の大学における日本語専攻生のモバイル学習の実態について — WeChat のオフィシャルアカウント利用調査の結果から —	村岡 貴子 難波 康治
M2	日本語学校における大学院進学準備プロセスの分析 — 中華圏の留学生の語りをもとに —	義永美央子 (田中 智行)
M2	大学院教室における例を用いた相互行為の会話分析	(岡田 悠佑) 大谷 晋也
M2	在日華僑華人家庭の子どもの継承語保持に関する質的研究 — TEM による言語使用と言語意識の分析を中心として —	(植田 晃次) 大谷 晋也
M2	非漢字系日本語学習者のための漢字教材に関する事例研究 — 学習意欲を引き出す教材の開発に向けて —	(榎本 剛士) 西村 謙一

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。() 内は人文学研究科・サイバーメディアセンター教員。

② 博士後期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D1	中国語を母語とする留学生の日本語によるピアレスポンスの実態 —「研究計画書」作成支援のためのオンライン活動プロセスの分析から—	村岡 貴子 (瀧田 恵巳)
D1	文の機能による小論文の文章構造の解明 —外国ルーツの高校生への小論文指導を目指して—	村岡 貴子 (岡田 悠佑)
D1	日本語教室における学生の自己開示プロセス —自己開示できる教室づくりを目指して—	義永美央子 (西田理恵子)
D1	学術共通漢字語彙に関する理解・運用に関する研究—文脈影響に注目して—	義永美央子 難波 康治
D2	中国人日本語学習者によるアカデミック・ライティング上の間接引用に関する実証的研究	村岡 貴子 大谷 晋也
D2	日本語教育への応用を目指したビジネスEメールの配慮に関する研究 —打ち合わせ日程の再調整場面を基に—	村岡 貴子 (植田 晃次)
D3	看護師への調査から見た医療現場における業界用語の使用実態 —業界用語の学習支援に向けて—	村岡 貴子 大谷 晋也
D3	日本生まれ・幼少期に来日した外国にルーツを持つ子どものリテラシー実践	義永美央子 (村上スミスアンドリュー)
D3	自律学習に基づくオンライン日本語学習コミュニティにおける参加と学習 —初級日本語のオンラインクラスでのバーチャル・エスノグラフィ—	義永美央子 難波 康治
D3	日本語学校経営者のキャリア移行に伴う複合的アイデンティティの表出 —ライフストーリー分析を通して—	義永美央子 (秦 かおり)
D3	外国につながる子どもを取り巻くイデオロギー —新聞記事を対象とした批判的談話研究—	義永美央子 難波 康治
D3	日本語読解授業におけるペア活動の会話分析—「共に考える」という行為の諸相—	義永美央子 (岡田 悠佑)
D3	日本における大学院留学生のナラティブから表出されるアイデンティティ	義永美央子 (秦 かおり)
D3	資質・能力を重視するオンライン教育デザイン —中国の日本語専攻教育を例に—	(岩居 弘樹) 難波 康治
D3	日本社会が内包する「排除性」問題の克服策の社会言語学的検討 —OECD加盟4カ国の事例の調査分析をふまえて—	(山下 仁) 大谷 晋也

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
M2	一枚ポートフォリオ学習履歴欄を介した学習者と教師の内化・内省・外化のループと スパイラル化が学習者にもたらす効果の検証	(西森 年寿) 岡本 紗知

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は人間科学研究科教員。

② 博士後期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D1	脾摘後重症感染症予防のための患者教育を効率的かつ持続可能にするLMSの構築	(西森 年寿) 岡本 紗知
D3	ロボットによる社会的促進・抑制効果の原因に関する研究	(西森 年寿) 岡本 紗知

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は人間科学研究科教員。

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
中国の大学における日本語専攻生のモバイル学習の実態について — WeChatのオフィシャルアカウント利用調査の結果から —	村岡 貴子 難波 康治
大学院教室における例を用いた相互行為の会話分析	(岡田 悠佑) 大谷 晋也
非漢字系日本語学習者のための漢字教材に関する事例研究 — 学習意欲を引き出す教材の開発に向けて —	(榎本 剛士) 西村 謙一

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

② 博士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
自律学習に基づくオンライン日本語学習コミュニティにおける参加と学習 — 初級日本語のオンラインクラスでのバーチャル・エスノグラフィ —	義永美央子 難波 康治 (小口 一郎)
外国につながる子どもを取り巻く言語イデオロギー — 新聞記事を対象とした批判的談話研究 —	義永美央子 難波 康治 (山下 仁)
日本語学校の非常勤講師たちの「労働世界」 — 公的議論およびインタビューにおける成員カテゴリー化の実践 —	義永美央子 (岡田 悠佑) (日野 信行)

*印は博士論文資格審査後の研究指導教員。()内は言語文化研究科・文学研究科教員。

(2) 人間科学研究科

① 修士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
一枚ポートフォリオ学習履歴欄を介しての生徒と教師のループ形成 — ループ形成の実現とそれによるスパイラル化の検証 —	(西森 年寿) 岡本 紗知

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は人間科学研究科教員。

4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ

研究プロジェクト名	採用時間数	担 当 教 員
「話題— 語彙情報サイト」構築に向けた基礎研究	50	中俣 尚己
移民コミュニティにおける多言語コミュニケーション：在外ベトナム人による実践に焦点を当てて	50	林 貴哉
日本語アクセントの認知に関する総合的検討	30	難波 康治 ハン・ヒソン

X. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- 2022 年 4 月 23 日 Project HELP! 第 15 期メンター研修・オリエンテーション
於：オンラインで実施 メンター 11 名、メンティー 11 名
- 2022 年 6 月 4 日 大阪大学国際同窓会主催・国際教育交流センター共催「キャリアトーク 2022」
於：オンラインで実施 参加者 26 名
- 2022 年 6 月 7 日 第 98 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 待兼山会館 2 階会議室 参加者 16 名
- 2022 年 6 月 21 日 Project HELP! ワークショップ（メンティー対象）
於：オンラインで実施 参加者 1 名
- 2022 年 6 月 22 日 Project HELP! ワークショップ（メンター対象）
於：オンラインで実施 参加者 3 名
- 2022 年 9 月 14 日 第 99 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5・6 参加者 16 名
- 2022 年 10 月 7 日 Project HELP! メンティー向けミニ説明会
於：オンラインで実施
- 2022 年 10 月 13 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 1 回目 “Introduction to job search for international students”
於：オンラインで実施 参加者 41 名
- 2022 年 10 月 24 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 2 回目「情報収集及び企業・業界研究」
於：オンラインで実施 参加者 31 名
- 2022 年 10 月 29 日 Project HELP! 第 16 期メンター研修・オリエンテーション
於：オンラインで実施 メンター 19 名、メンティー 20 名
- 2022 年 11 月 7 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 3 回目「就活を成功させる自己分析」
於：オンラインで実施 参加者 13 名
- 2022 年 11 月 26 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 4 回目「OBOG による経験談」
於：オンラインで実施 参加者 10 名
- 2022 年 12 月 1 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 5 回目「内定者による経験談」
於：オンラインで実施 参加者 16 名
- 2022 年 12 月 6 日 第 100 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 待兼山会館・会議室 参加者 16 名

- 2022 年 12 月 12 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 6 回目「エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策」
於：オンラインで実施 参加者 15 名
- 2022 年 12 月 15 日 Project HELP! ワークショップ
於：豊中キャンパス ダイセルスタジオ 参加者 5 名
- 2022 年 12 月 19 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 7 回目「WEB 面接・WEB グループディスカッション対策」
於：オンラインで実施 参加者 4 名
- 2022 年 12 月 23 日 2022 年度第 1 回学習/学修支援、多言語・多文化交流促進に関する情報共有・意見交換会
於：豊中キャンパス OU マルチリンガルプラザ 参加者 17 名
- 2023 年 1 月 23 日 令和 4 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 8 回目「オンライン集団面接練習会」
於：オンラインで実施 参加者 7 名
- 2023 年 2 月 15 日 第 15 回専門日本語教育研究協議会
於：コンベンションセンター MO ホール、学内参加者 20 名、学外参加者 18 名、合計 38 名
- 2023 年 3 月 1 日 国際教育交流センター研修会/日本語授業教務オリエンテーション
於：オンラインで実施 参加者 13 名
- 2023 年 3 月 14 日 第 100 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5・6 参加者 23 名
- 2023 年 3 月 14 日 2022 年度第 2 回学習/学修支援、多言語・多文化交流促進に関する情報共有・意見交換会
於：オンラインで実施 参加者 21 名

2. 海外出張・海外研修

○海外出張

- 2022 年 5 月 29 日-6 月 4 日 近藤佐知彦教授 アメリカ合衆国コロラド州デンバーに出張
NAFSA: Association of International Educators での研修発表および大学間交流メンテナンス
- 2022 年 5 月 31 日-6 月 3 日 石倉佑季子准教授 アメリカ合衆国コロラド州デンバーに出張
NAFSA: Association of International Educators での研修発表
- 2022 年 9 月 7 日-9 月 12 日 近藤佐知彦教授 連合王国ロンドンおよびノッティンガムに出張
科学研究費研究に関する調査
- 2022 年 9 月 12 日-9 月 17 日 近藤佐知彦教授 スペインバルセロナに出張
EAIE: European Association of International Educators における情報収集と研修
- 2022 年 11 月 27 日-12 月 1 日 近藤佐知彦教授 シンガポールに出張
British Council 主宰 Going Global Asia Pacific 2022 に British Council Tokyo からのデリゲーションとして参加。研修および情報収集

- 2023年2月7日-9日 村岡貴子教授 韓国のソウルに科研費による出張
慶熙(キョンヒ)大学国際教育院、および国立国際教育院への訪問、情報収集および意見交換のため
- 2023年2月21日-26日 義永美央子教授 エジプト・カイロに出張
国際交流基金カイロ日本文化センター訪問および中東・北アフリカ日本語教育シンポジウム(JLEMENA2023)における基調講演とワークショップ実施のため
- 2023年2月25日-3月21日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏、南イロコス州、北イロコス州に出張
フィリピン大学への訪問、情報収集・意見交換、および、南イロコス州、北イロコス州内の地方自治体で調査
- 2023年3月25日-30日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏に出張
フィリピン大学への訪問、情報収集・意見交換、および、NEDAでのインタビュー調査
- 2023年3月27日-30日 村岡貴子教授 タイのバンコクに科研費による出張
タマサート大学、チュラーロンコーン大学、カセサート大学、および、大阪大学ASEANセンター バンコクオフィスへの訪問、情報収集・意見交換、およびインタビュー調査

3. 出版物・印刷物等（2022年5月から2023年4月まで）

No.	出版物のタイトル	発行年月
1	留学生日本語プログラムガイドブック 2022年度版（秋冬編）（web版） GUIDEBOOK 2022: Japanese Language Programs for International Students	2022年8月
2	大阪大学国際教育交流センター 2021年度年報	2022年9月
3	留学生日本語プログラムガイドブック 2023年度版（春夏編）（web版） GUIDEBOOK 2023: Japanese Language Programs for International Students	2023年3月
4	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第27号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No. 27	2023年3月

4. 来訪者対応

年月日	来訪者	センターからの対応者
2022年12月8日	ブラヴィジャヤ大学（インドネシア）Ms. Hamamah（文化学部学部長）、Ms. Rike Febriyanti（同学部講師）、Mr. Wiranto Aji Dewandono（同学部講師）	村岡貴子教授、 西村謙一准教授
2023年1月18日	マンチェスター大学訪問団	近藤佐知彦教授
2023年2月27日	「かめのり財団・国際交流基金共催 東南アジア7か国日本語教育関係者訪日プログラム」	近藤佐知彦教授、 義永美央子教授
2023年3月15日	University College London	近藤佐知彦教授、 石倉佑季子准教授

5. 研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語

2018年度より、核物理研究センターと国際教育交流センターが共同して外国人研究員等に対する基礎日本語コース（Oral Communication in Japanese for International Researchers）（研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語、概してOCJプログラム）クラスを開始した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、春夏学期の開催は見送り、秋冬学期において、レベル別の2クラスを対面で開催した。実施実績は以下の通りである。

□秋のOCJプログラム

- ・期 間：2022年11月14日（月）から12月22日（木）の月曜日と木曜日の各12回
- ・履修状況：（1）Aクラス（初習者クラス） 16名
（2）Bクラス（既習者クラス） 9名

6. にほんごテーブル

にほんごテーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整・協力の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。にほんごテーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたり、自由に会話を楽しんだりしている。こうした活動に参加することで、参加者は自身の日本語学習の達成感を得てさらにモチベーションを高めることができ、いっそう日本語力を伸ばすことができる。また、にほんごテーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本での生活を快適に過ごすことができるさまざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上でのたいへん貴重な場となっている。国際教育交流センターは、各部局の留学生相談室等への案内や留学生会のメーリングリストでの案内など広報面、および、運営上の各種相談に応じることで日本語テーブルの活動を支援している。

○吹田地区でのにほんごテーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成18年4月に発足した。会員数は、令和5年3月現在15名である。本年度は、昨年度に引き続きオンラインでにほんごテーブルを実施した。

□実施状況

- ・期 間：春季 令和4年5月10日（火）－8月2日（火）
秋季 令和4年11月1日（火）－令和5年2月21日（火）
- ・参加登録：国際教育交流センターと竹の子にほんご交流会（<https://www.takenoko-jlt.com>）の両Webサイトに、募集ポスターと登録方法を掲載して、e-mailにて参加登録を受けつけた。
- ・曜日と時間：上記期間中の毎週火曜日13時00分～14時30分

春季は13回、秋季は15回

- ・場 所：Zoom会議システムにより実施した。
- ・平均参加者数：春季 外国人参加者：4.7人、日本人参加者：7.7人
秋季 外国人参加者：4.8人、日本人参加者：7.5人

□交流会活等

本年度実施予定の交流会等は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにすべて中止となった。

□総会（ZoomによるWeb会議にて実施）

- ・開催日時：令和5年3月7日（火）13:00～14:00
- ・議 案：①令和4年度活動報告 ②令和4年度会計報告及び監査報告 ③会則改定
④運営委員の退任報告と新運営委員および会計監査の選出 ⑤令和5年度活動計画

○豊中地区でのにほんごテーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区でのにほんごテーブル開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、平成26年6月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営を国際教育交流センターが支援する形で、にほんごテーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループ「マチカネにほんご交流会」がにほんごテーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。

マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成26年5月に発足した。会員数は、令和3年4月現在23名である。本年度は、昨年度に引き続きオンラインでにほんごテーブルを実施した。Zoom活用研修会に参加したのは、9名であった。

□実施状況

- ・期 間：春季 令和4年4月13日（水）－7月27日（水）
秋季 令和4年10月5日（水）－令和5年1月25日（水）
- ・曜日と時間：上記期間中の毎週水曜日10時30分～12時00分
春季は15回、秋季は15回
- ・場 所：Zoom会議システムにより実施した。
- ・平均参加者数：春季外国人参加者：3人、日本人参加者：3人
秋季外国人参加者：6人、日本人参加者：6人

□マチカネにほんご交流会総会、研修会はコロナウイルス感染拡大のため中止となった。

7. CIEE 研究会

国際教育交流センターに所属する教員は、各専門分野において活発な研究活動を行っており、その研究活動の成果報告や意見交換の場として、国際教育交流センター研究会が実施されている。2022 年度は下記の通り実施された。

第 1 回

日時：2022 年 5 月 13 日（金） 15:00-16:30

場所：IC ホール 会議室

講師：中俣尚己

題名：「話題が語彙・文法・談話ストラテジーに与える影響の解明」

第 2 回

日時：2022 年 11 月 11 日（金） 15:00-16:30

場所：IC ホール 会議室

講師：林貴哉

題名：「在日ベトナム人コミュニティはどこにあるのか？ ベトナム難民が作り出したネットワークに注目して」

XI. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語プログラム
(5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語集中コース生
(4) 短期留学特別プログラム (5) その他
4. 教育 (学外) 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演 11. 報道 12. その他

※以下の記載の7の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーションI/II-3

(3) 大学院

○秋冬学期 2回担当(1月17日及び24日の2回) オンライン

人間科学研究科教育社会学特定演習II

(5) 国際交流科目

○秋冬学期

Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナルカレッジ

○秋冬学期

Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- 留学生の相談対応

5. 学内運営

(職指定を含む)

- 国際教育交流センター長
- 国際交流委員会委員
- グローバル連携オフィス員
- ハウジング委員会委員
- 経営協議会委員

6. 外部資金

科学研究費 分担者 (代表者：太田亨 (金沢大学)、基盤研究 (B) (一般) 研究課題「アジア圏留学生の学修・キャリア支援教育における総合的支援に関する学際的研究」(令和3年度～令和7年度)

7. 研究業績

(2) 著書

有川友子、2023、「コラム6 ムスリムの人々との出会い―日本のインドネシア人留学生を通して」、久志本裕子・野中葉 (編著)『東南アジアのイスラームを知るための64章』、385-387 ページ、明石書店。

有川友子、2023、「第2章 日本における留学生教育をめぐる状況と留学生の Quality of Life の向上を目指した支援体制」、村岡貴子 (編著)、『大学院留学生への研究支援と日本語教育―専門分野の違いを超えて』、19-35 ページ、ココ出版。

(3) 口頭発表

有川友子、2022、「留学生教育交流の現状と課題―激動の世界の中で考える―」(単独ポスター)、異文化間教育学会第43回大会、2022年6月11-12日(立命館大学衣笠キャンパス)。

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 代表幹事

9. 会議運営

- 令和4年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2023年2月

12. その他

- 令和4年専修学校教育振興室委託事業審査委員会 委員
- 豊中市総合計画審議会 委員

1. 専門分野

高等教育の国際化、大学入学者選抜の多様化、異文化コミュニケーション

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）

学問への扉（多文化コミュニケーションセミナー 大学の国際化：多様な学生を受け入れるための大学づくり）

(5) 国際交流科目

○春夏学期

Internationalization of Higher Education

○秋冬学期

Introduction to Intercultural Communication

(7) その他

- ・アメリカ「異文化体験」演習 Intercultural Experience in the United States 1
- ・フィリピン「異文化体験」演習（夏季）Intercultural Experience in Philippines (Summer)
- ・イギリス「異文化体験」演習（春季）Intercultural Experience in England (Spring)
- ・Winter J-ShIP 学生 19 名（受入）
- ・UMOS プログラム学生（メルボルン大学）16 名（受入）
- ・JAcc300（Winter J-ShIP）
- ・日本語のバリエーション、“Variation in Japanese Language”（UMOS）

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- ・OUSSEP 学生 53 名（春夏学期）、89 名（秋冬学期）

(5) その他

- ・アメリカ「異文化体験」演習 Intercultural Experience in the United States 1 15 名
- ・フィリピン「異文化体験」演習（夏季）Intercultural Experience in Philippines (Summer) 6 名
- ・イギリス「異文化体験」演習（春季）Intercultural Experience in England (Spring) 2 名
- ・教員による留学相談 133 名
- ・大学間交換留学応募学生 122 名

5. 学内運営

- ・ファкультイ・ディベロップメント委員会 委員
- ・安全衛生委員会 委員

- 国際交流委員会 海外派遣候補者選考WG 委員
- 国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営Sub WG 委員
- 国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- 国際教育交流センター 評価WG 委員
- 教員による留学相談 企画・実施担当
- 国際交流科目担当教員およびTA対象オリエンテーション・FD 企画・実施担当
- Project HELP!（Harmonized English Learning Program）コーディネーター

6. 外部資金

- 科学研究費補助金 若手研究 2019-2022年度 課題番号 19K14259「非英語圏における学部英語コースの進展に関する国際比較研究」研究代表者
- 科学研究費補助金 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））2020-2024年度 課題番号 20KK0052「大学間教育交流のニューノーマル；各種プログラムの再定義」研究分担者

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/yukikoishikura>

8. 学外運営

- 令和4年度に向けた文部科学省国際バカロレア教育推進コンソーシアム審査委員会 委員

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○ 春学期

ICTを活用したキャリアデザイン

(5) 国際交流科目

○ 春・夏学期

オンライン・リソースを活用したL2 学習

○ 秋・冬学期

コンピュータを活用した語学学習

3. 学生指導

- ・就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田・箕面キャンパス）
- ・留学生の相談対応（IRIS、豊中分室、箕面分室）

5. 学内運営

- ・海外派遣候補者選考 WG
- ・学生交流支援検討 WG
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・大阪大学キャリアセンター連携教員
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会構成員
- ・大阪大学国際教育交流センター広報委員会

6. 外部資金

https://researchmap.jp/noriko_uosaki/research_projects

7. 研究業績

https://researchmap.jp/noriko_uosaki/published_papers

8. 学外運営

- ・グローバル人材活用運営協議会構成員
- ・大阪府公募型プロポーザル方式等事業者選定委員会委員
- ・CARES-Osaka 運営委員会構成員
- ・CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group,

sub-division of ICCE2022) program committee member

- LTLE2022 (10th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

12. その他

- 2022 年度「留学生のためのキャリアセミナー」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2022 年 10 月～2023 年 1 月（計 8 回）

大 谷 晋 也

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）／学問への扉

○秋～冬学期

多文化コミュニケーション（日本語）／アドヴァンストセミナー

(3) 大学院（人文学研究科言語文化学専攻）／外国語学部

○春～夏学期

第二言語社会・文化研究A／第二言語社会・文化研究a

○秋～冬学期

第二言語社会・文化研究B／第二言語社会・文化研究b

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA200

日本語・グローバル理解演習 JGU600e

○秋～冬学期

総合日本語 JA200

日本語・グローバル理解演習 JGU600b

(6) インターナショナルカレッジ日本語科目

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

国際コミュニケーションセミナー日本語 600e

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

国際コミュニケーションセミナー日本語 600b

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3（うち留学生2）

(2) 博士前期課程 4（うち留学生2）

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター財務委員長
- ・大学院人文学研究科言語文化学専攻兼任教員

- マルチリンガル教育センター運営委員会委員
- マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員
- マルチリンガル教育センターカリキュラム開発オフィス員
- マルチリンガル教育センター言語教育推進部会主任
- マチカネにほんご交流会担当教員
- 竹の子にほんご交流会担当教員

7. 研究業績

- <https://researchmap.jp/otani.shinya>

8. 学外運営

- 国・地方公共団体（箕面市等）、医療事務連絡会 委員
- その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

1. 専門分野

微生物学、科学教育学、科学英語

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

- ・多文化コミュニケーション（日本語）
- ・多文化コミュニケーションセミナー I

○ 秋学期

- ・多文化コミュニケーション（日本語）
- ・多文化コミュニケーションセミナー II

(5) 国際交流科目

○ 春学期

Introduction to Scientific English（科学英語入門）

○ 秋学期

Science and Society（科学と社会）

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応（吹田 IRIS、豊中分室）
- ・留学生の個別相談対応

5. 学内運営

- ・学生生活委員会委員
- ・大阪大学ハラスメント相談室専門アドバイザー
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・国際教育交流センター評価WG委員
- ・国際教育交流センター人権・セクシャルハラスメント対策委員
- ・国際教育交流センター財務委員
- ・国際教育交流センター研究倫理教育 実施担当
- ・国際教育交流センター研究調査申請 対応窓口
- ・国際教育交流センター研究会 実施担当

6. 外部資金

<https://researchmap.jp/pochi>

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/pochi>

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 地区幹事（近畿地区）
- 一般社団法人 日本科学教育学会 学会誌「科学教育研究」編集委員
- 一般社団法人 日本科学教育学会 若手活性化委員
- 国立教育政策研究所 プロジェクト研究「新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方に関する研究」委員
- 国立教育政策研究所「OECD-PISA2025年調査（科学的リテラシー）」調査の枠組み及び調査問題に関する検討委員

1. 専門分野

ディスコース・レトリック分析、社会心理学、留学生教育、グローバル人材育成教育

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○春学期

日本の社会とイデオロギー、“Japan; Society and Ideology”

イノベーションの管理と変遷（三森八重子招聘教授と共同開講）

○秋学期

日本のメディアとコミュニケーション、“Media and Communications in Japan”

ソーシャルイノベーションとソーシャルデザイン（三森八重子招聘教授と共同開講）

○集中

日本語のバリエーション

イギリス「異文化体験」演習（春季）

フィリピン「異文化体験」演習（春季）

アメリカ「異文化体験」演習 1

オランダ「異文化体験」演習（夏季）

オランダ「異文化体験」演習（春季）

(7) その他

○集中

人間科学部・人間科学研究科 共生行動論Ⅱ

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- OUSSEP 学生 53 名（春夏学期）、88 名（秋冬学期）

○その他

- J-ShIP Winter 19 名

- UMOS 16 名

(5) その他

フィリピン「異文化体験」演習（夏） 6 名（派遣）

オーストラリア「異文化体験」演習 3 名（派遣）

フィリピン「異文化体験」演習（春） 2 名（派遣）

トンプソンリバース大学夏季語学研修プログラム 3 名（派遣）

Summer Online Japanese Course 学生 5 名（受入）

Winter Online Japanese Course 学生 11 名（受入）

5. 学内運営

- 国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営 Sub WG 座長
- 海外派遣候補者選考 WG 委員
- 国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- 国際教育交流センター 広報委員長
- Project HELP!（Harmonized English Learning Program）コーディネータ
- 体育会ボクシング部 部長

6. 外部資金

- (継続) 大学間教育交流のニューノーマル；各種プログラムの再定義
日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））20KK0052
2020 年 10 月-2024 年 3 月（研究代表者）
- (継続) 留学はいつまで越境か；学生モビリティの将来に関する探索的研究
日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究（萌芽）20K20825 2020 年 7 月-2023 年 3 月（研究代表者）

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/read0076589>

8. 学外運営

- 留学生教育学会 会長
- (公財) 吹田市国際交流協会 理事長
- (公財) 大阪府国際交流財団 評議委員長
- (一社) 外国人留学生高等教育協会 理事
- 特定非営利活動法人 JAFSA 監事
- 留学生支援コンソーシアム大阪 誘致委員長
- 官民協働「トビタテ！留学 Japan」学識者選考委員
- (公財) 業務スーパージャパンドリーム財団 選考委員
- 米国シュミット財団 Quad Scholarship 選考委員

9. 会議運営

- 留学生教育学会 26 回総会・研究大会（8 月 19 日および 20 日）
別府会場（立命館 APU 大学）設営の上、ハイブリッド開催

1. 専門分野

第二言語習得、日本語教育学、学習者オートノミー

2. 授業担当

(2) 学際融合科目

○春夏学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションA

○秋冬学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションB

3. 学生指導

(5) OUマルチリンガルプラザ：日本語学習アドバイジング 36名

OUマルチリンガルプラザ：日本語学習ポートフォリオワークショップ 10名

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター 財務委員会 委員
- ・マルチリンガル教育センター 兼任教員
- ・OUマルチリンガルプラザ コーディネーター

6. 外部資金

https://researchmap.jp/ysei/research_projects

7. 研究業績

https://researchmap.jp/ysei/published_papers

8. 学外運営

言語文化教育研究学会 年次大会委員会 委員長

中 俣 尚 己

1. 専門分野

計量日本語学、日本語文法

2. 授業担当

(4) 留学生日本語プログラム

○春～夏学期

IB100-T1

アカデミックライティング JW600/700

○秋～冬学期

IJ100

アカデミックライティング JW600/700

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA300 レクチャー

日本語・グローバル理解演習 JGU600 (f)

○秋～冬学期

総合日本語 JA300 レクチャー

日本語・グローバル理解演習 JGU600 (c)

3. 学生指導

日本語集中コース生 13

4. 教育（学外）

- ・大手前大学 通信教育部 計量言語学
- ・奈良教育大学 教育学研究科 教科内容と教材開発（語彙・文法）（集中講義）

5. 学内運営

- ・情報セキュリティ対策室部局 CSIRT
- ・国際教育交流センター 広報出版委員会
- ・国際教育交流センター 人権・ハラスメント委員会

6. 外部資金

<https://researchmap.jp/nakamata-naoki>

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/nakamata-naoki>

8. 学外運営

- 公益社団法人日本語教育学会 広報委員長
- 計量国語学会 理事
- 中国語話者のための日本語教育研究会 顧問・事務局
- 日本語／日本語教育研究会 総務委員

10. 講演

- 「話題が語彙・文法・談話ストラテジーに与える影響の解明」国際教育交流センター研究会（2022年5月13日・阪大ICホール）
- 「コーパスと日本語学習」東洋大学国際教育センターゲストスピーカー講演会（2022年12月6日・オンライン）

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、音声学、教育学

2. 授業担当

(1) 全学共通教育科目

○ 春～夏学期

総合日本語

専門日本語

○ 秋～冬学期

専門日本語

(3) 大学院

○ 春～夏学期

第二言語教育実践研究 A

○ 秋～冬学期

第二言語教育実践研究 B

(5) 国際交流科目

○ 春～夏学期

総合日本語 JA100

○ 秋～冬学期

総合日本語 JA100

(6) インターナショナル・カレッジ

○ 春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

○ 秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 4（うち留学生は3）

(2) 博士前期課程 1（うち留学生は1）

5. 学内運営

- 教育情報化WG
- CALL システム WG
- インターナショナルカレッジ教務委員会

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/read0054912>

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 査読・運営協力者
- 公益信託井内留学生奨学基金運営委員会委員
- 公益信託井内奨学財団評議委員

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

学問への扉（多文化コミュニケーションセミナーⅠ）／多文化コミュニケーション（日本語）

○秋～冬学期

多文化コミュニケーションセミナーⅡ／多文化コミュニケーション（日本語）

(2) 学際融合教育科目

○春～夏学期

上級専門日本語（アカデミックリーディング）A

○秋～冬学期

上級専門日本語（アカデミックリーディング）B

(3) 大学院

○春～夏学期

グローバリゼーション論A

○秋～冬学期

グローバリゼーション論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春～夏学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング JR600／JR700（日本語）

○秋～冬学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング JR600／JR700（日本語）

3. 学生指導

(2) 博士前期課程 2

(4) 日本語集中コース生 12

5. 学内運営

- ・男女協働推進センター会議委員
- ・ハラスメント相談室全学相談員

6. 外部資金

<https://researchmap.jp/read0068694>

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/read0068694>

8. 学外運営

- 兵庫県立高等学校 学校評議員

1. 専門分野

応用言語学、在外ベトナム人研究、日本語教育学

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

インターンシップ実習コース2（春夏）、“Internship Course Course 2 (Spring/Summer)”

○秋～冬学期

日本の言語政策と多言語社会、“Language policies and Multilingual societies in Japan”

インターンシップ実習コース2（秋冬）、“Internship Course Course 2 (Fall/Winte)”

インターンシップ実習コース3（秋冬）、“Internship Course Course 2 (Fall/Winter)”

(7) その他

アメリカ「異文化体験」演習1、“Intercultural Experience in the United States 1”

フィリピン「異文化体験」演習（夏季）、“Intercultural Experience in Philippines (Summer)”

イギリス「異文化体験」演習（春季）、“Intercultural Experience in England (Spring)”

JAcc300（Winter J-ShIP）

日本語のバリエーション、“Variation in Japanese Language”（UMOS）

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- ・OUSSEP学生 53名（春夏学期）、89名（秋冬学期）

(5) その他

- ・アメリカ「異文化体験」演習1 15名（派遣）
- ・フィリピン「異文化体験」演習（夏） 6名（派遣）
- ・イギリス「異文化体験」演習（春） 2名（派遣）
- ・Winter J-ShIP学生 19名（受入）
- ・UMOSプログラム学生（メルボルン大学） 16名（受入）
- ・教員による留学相談 133名
- ・大学間交換留学応募学生 122名

4. 教育（学外）

- ・同志社大学グローバル・コミュニケーション学部 多言語社会と言語政策
- ・甲南女子大学国際学部 グローバル・イシューズ

5. 学内運営

- ・国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営Sub WG 委員

- 海外派遣候補者選考WG 委員
- 国際教育交流センター 財務委員会 委員
- 教員による留学相談 実施担当
- Project HELP! (Harmonized English Learning Program) コーディネーター

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/takayahayashi>

11. 報 道

- 「神戸市看護大など調査 在日ベトナム人の3割余にうつ症状」(NHK 神戸放送局、兵庫のニュース、2022年5月19日)

12. その他

- Project HELP! メンティー向けミニ説明会の実施
2022年10月7日、於：オンライン (ZOOM)
- Project HELP! ワークショップの実施 (企画を担当)
2022年6月21日 (メンティー対象)、22日 (メンター対象) 於：ZOOM
2022年12月15日 (メンティー・メンター合同) 於：豊中キャンパス ダイセルスタジオ

1. 専門分野

言語学、音声学、日本語学、韓国語学

2. 授業担当

○春～夏学期

アカデミックコミュニケーション 400/500

アカデミックライティング 400/500

ビジネス日本語講義 500/600/700

日本語・グローバル理解演習 JGU500d/International Communication Seminar (Japanese) 500d

○秋～冬学期

アカデミックコミュニケーション 400/500 (トラック 1)

ビジネス日本語コミュニケーション 500/600/700

日本語・グローバル理解演習 JGU500a/International Communication Seminar (Japanese) 500a

多様性のための社会人としてのコミュニケーション

5. 学内運営

・評価委員会

6. 外部資金

<https://researchmap.jp/hhs>

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/hhs>

8. 学外運営

・近畿音声言語研究会 世話役

福 良 直 子

1. 専門分野

専門日本語教育研究、日本語教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春夏学期

総合日本語

○ 秋冬学期

総合日本語

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春夏学期

日本語集中コース IJ100 (コミュニケーション行動)

○ 秋冬学期

日本語集中コース IJ100 (コミュニケーション行動)

(7) その他

○ 夏期超短期日本語プログラム (2022年8月8日～8月25日) コーディネーション

○ Winter J-ShIP Program (2023年1月6日～1月27日) コーディネーション

○ UMOS プログラム (2023年1月23日～2月10日) コーディネーション

3. 学生指導

(3) 日本語集中コース生

(春夏学期) 13 (秋冬学期) 13

(4) 短期留学特別プログラム

・ 夏期超短期日本語プログラム 9

・ Winter J-ShIP Program 19

5. 学内運営

・ マルチリンガル教育センター兼任教員

・ マルチリンガル教育センター広報委員

・ 国際教育交流センター評価委員

・ 国際教育交流センター出版・広報委員

6. 外部資金

・ <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K13145>

・ <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K00637>

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/n483>

8. 学外運営

- 日本語教育学会 審査・運営協力員
- 専門日本語教育学会 編集幹事

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング教育研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 秋～冬学期

専門日本語B

(2) 学際融合教育科目

○ 春～夏学期

上級専門日本語（アカデミック・ライティング）A

研究活動に必要な日本語による音声・書記言語コミュニケーションの世界

○ 秋～冬学期

上級専門日本語（アカデミック・ライティング）B

(3) 大学院

○ 春～夏学期

言語技術研究A

言語コミュニケーション論特別研究A

○ 秋～冬学期

言語技術研究B

言語コミュニケーション論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春～夏学期

日本語集中コースIJ200（読解）

○ 秋～冬学期

日本語集中コースIJ200（読解）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 5（うち留学生は3）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は2）

(3) 日本語集中コース生 15

5. 学内運営

- ・大学院人文学研究科言語文化学専攻兼任教員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員
- ・ASEAN キャンパス運営委員会委員 WG メンバー
- ・大阪大学豊中地区研究交流会委員

- 国際教育交流センター教務委員会委員長
- 国際教育交流センター安全衛生委員会委員

6. 外部資金

- <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19H01269/>
- <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20H01270/>
- <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H00537/>
- <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04417/>
- <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K00637/>

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/read0171050>

8. 学外運営

- 日本語教育学会審査・運営協力員、2017 年 9 月～
- 専門日本語教育学会会長、2021 年 4 月～
- 日本語教育学会代議員選挙地域ブロック運営委員会委員、2022 年 12 月～

10. 講演

- 村岡貴子（2022a）「研究活動に必要な書記言語コミュニケーションの世界——研究のデザインから日本語による学術論文公開まで——」（大学院オンライン特別講義）、カセサート大学人文学部（タイ）（招待）、2022.9.24、<https://researchmap.jp/read0171050>
- 村岡貴子（2022b）「大学での学習・研究活動に必要な書記言語コミュニケーションの世界——アカデミック・ライティングの実践と教育のために——」（华南师范大学国家级一流学科建设（日语专业）教学研讨会（基調講演）（招待）、華南師範大学、2022.12.10、<https://researchmap.jp/read0171050>

12. その他

- 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」プロジェクト構成員

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育科目

○ 春～夏学期

専門日本語

○ 秋～冬学期

専門日本語

(2) 学際融合教育科目

○ 春～夏学期

第二言語学習方法論

○ 秋～冬学期

言語学習アドバイジング入門

(3) 大学院

○ 春～夏学期

コミュニケーション論A

コミュニケーション論特別研究A

○ 秋～冬学期

コミュニケーション論B

コミュニケーション論特別研究B

(5) 国際交流科目

○ 春～夏学期

総合日本語 JA400-1

○ 秋～冬学期

総合日本語 JA400-1

(6) インターナショナル・カレッジ

○ 春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

○ 秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 8 (うち留学生は4)
- (2) 博士前期課程 2 (うち留学生は0)

5. 学内運営

- 人権問題委員会委員 (全学)
- 大学院人文学研究科兼任教員
- マルチリンガル教育センター兼任教員
- 国際教育交流センター教務委員
- 国際教育交流センター人権・ハラスメント対策委員会委員長
- 日研生プログラム実施WG
- Maple 運営 Sub-WG

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 19K00708 2019 年度～2022 年度「大学における日本語自律学習支援者養成プログラムの開発」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 20K00713 2020 年度～2023 年度「日本語教師養成における実践的コミュニケーション能力育成プログラムの開発」、研究分担者

7. 研究業績

<https://researchmap.jp/miokoyo7145>

8. 学外運営

- 日本語教育学会 常任理事、審査・運営協力員
- 社会言語科学会 編集委員
- 第二言語習得研究会 大会運営委員会委員長
- 言語文化教育研究学会 査読協力者

9. 会議運営

- 第二言語習得研究会第 33 回全国大会、企画運営、オンライン開催、2022 年 12 月 10 日～11 日

10. 講演

- 「自律学習支援に効果的なアドバイジングとは——振り返りを促す対話の実践と学習者オートノミー——」凡人社オンライン日本語サロン研修会 2022 年 6 月 4 日 (招待・オンライン)
- 「ポストコロナ社会における日本語教師の生きる道」筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点主催 第 3 回日本語教育と ICT 利用を考える<理念編> 2022 年 9 月 13 日 (招待・オンライン)
- 「なぜ言語観の検討が必要なのか——日本語教育学の観点から——」静岡大学公開講座「コミュニケーションを考える」2022 年 9 月 17 日 (招待・オンライン)
- 「VUCA の時代における言語の学習・教育を考える——オートノミーと教師の役割——」JLEMENA2023

中東・北アフリカ日本語教育シンポジウム 2023年2月24日（招待・於国際交流基金カイロ日本文化センター）

- 「学習者とのコミュニケーション——一人ひとりの「声」を聴くために——」公益財団法人八尾市国際交流センター ボランティア研修会・日本語ボランティア発展編 2023年3月18日（招待・於八尾市国際交流センター）

12. その他

- 文化庁「日本語教育人材の研修プログラム普及事業（日本語教師【中堅】に関する研修）」「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム」（JCN研修）専門委員

資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2022 年度 留学生日本語プログラム 時間割

春～夏学期 留学生日本語選択コース&日本語集中コース & 学際融合教育科目

科目種別： 留学生日本語選択コース 日本語集中コース 学際融合教育科目

時間帯	月		火		水		木		金	
	授	業	担当	授	業	担当	授	業	授	業
I 8:50 ～ 10:20				JB300-T1-1	総合日本語	浦木	JK301	漢字と語彙 (非漢字系)	JB300-T1-2	総合日本語
				JB200-T1-1	総合日本語	山崎			JB200-T1-2	総合日本語
				JB100-T1-1	総合日本語	中俣			JB100-T1-2	総合日本語
II 10:30 ～ 12:00			福良		IJ200	山崎				
	JK 201	漢字と語彙 (非漢字系)	TFポポヴァ	JB300-T2-1	総合日本語	浦木			チュートリアル	IJ100 (漢字と語彙)
	JK 202/302	漢字と語彙 (漢字系)	TF 李	JB100-T2-1	総合日本語	半田				IJ200
				JB200-T2-1	総合日本語	岡田			JB300-T2-2	総合日本語
III 13:30 ～ 15:00									JB100-T2-2	総合日本語
			蔭山		IJ100	矢部				総合日本語
			畑中		IJ200	山崎				IJ100
			西村		IJ300	半田				IJ200
IV 15:10 ～ 16:40										IJ300
							JB500/600/700	ビジネス日本語 コミュニケーション	JC400/500	アカデミック コミュニケーション
									JW600/700	アカデミック ライティング
			蔭山		IJ100	矢部				
V 16:50 ～ 18:20			畑中		IJ300	半田	学際融合	アカデミック コミュニケーション		IJ100
				JW400/500	アカデミック ライティング	韓				
				学際融合	音声・書記言語 コミュニケーション	村岡			学際融合	ICTを活用した留学生の ためのキャリアデザイン
	JR600/700・ 学際融合	アカデミック ライティング	西村	学際融合	アカデミック ライティング	村岡				

春～夏学期 国際交流科目（JA、JGU）& 全学共通教育科目 & 学際融合教育科目 & 日本語自律学習支援

科目種別： 国際交流科目（日本語：JA、JGU） 全学共通教育科目 学際融合教育科目 日本語自律学習支援

時間帯	月		火		水		木		金	
	授	業	授	業	授	業	授	業	授	業
I 8:50 ～ 10:20			JA100-T1/T2	総合日本語（講義）	JA100-T1	総合日本語	JA100-T1	総合日本語	陸山	
			JA200-T1/T2	総合日本語（講義）	JA100-T2	総合日本語	JA100-T2	総合日本語	花井	
			JA300-T1	総合日本語	JA200-T1	総合日本語	JA200-T1	総合日本語	矢部	
			JA300-T2	総合日本語	JA200-T2	総合日本語	JA200-T2	総合日本語	半田	
			JA400-T1	総合日本語	JA300-T1/T2	総合日本語（講義）	JA300-T1	総合日本語	上田	
			JA400-T2	総合日本語	JA400-T1	総合日本語	JA300-T2	総合日本語	岡崎	
II 10:30 ～ 12:00			JGU500d	グローバル理解演習	JA400-T2	総合日本語	JA400-T1/T2	総合日本語（講義）	義永	
			JGU600d	グローバル理解演習	JGU500e	グローバル理解演習	JGU500f	グローバル理解演習	中俣	
					JGU600e	グローバル理解演習	JGU600f	グローバル理解演習	伊藤	
					多文化コミュニケーション					
III 13:30 ～ 15:00			学際融合	第二言語 学習方法論						
				日本語 自律学習支援						
IV 15:10 ～ 16:40					多文化コミュニケーション		石倉			
V 16:50 ～ 18:20	専門日本語	義永	総合日本語		専門日本語		総合日本語		福良	
	多文化コミュニケーション	岡本	多文化コミュニケーション		多文化コミュニケーション		多文化コミュニケーション			

秋～冬学期 留学生日本語選択コース & 日本語集中コース & 学際融合教育科目

科目種別： 留学生日本語選択コース 日本語集中コース 学際融合教育科目

時間帯	月		火		水		木		金	
	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当
I 8:50 ～ 10:20	JK201 漢字と語彙 (非漢字系)	TF 萩原	JB300-T1-1 総合日本語	小原	JW400/500-T2 アカデミック ライティング	山田	JK301 漢字と語彙 (非漢字系)	TF 蔡	JB300-T1-2 総合日本語	矢部
			JB100-T1-1 総合日本語	浦木			JK202/302	TF 未定	JB100-T1-2 総合日本語	遠藤
			JB200-T1-1 総合日本語	山崎					JB200-T1-2 総合日本語	岡崎
II 10:30 ～ 12:00			JB300-T2-1 総合日本語	半田	JC600/700 アカデミック コミュニケーション	山田		村岡	JB300-T2-2 総合日本語	遠藤
		畑中	IJ200	山崎	チュートリアル	TA 横川		寺尾	IJ200	竹内
	JK202/302 漢字と語彙 (漢字系)	TF 李	JB200-T2-1 総合日本語	浦木		菅	BJ500/600/700 ビジネス日本語 コミュニケーション	韓	JB200-T2-2 総合日本語	矢部
			JB100-T2-1 総合日本語	岡田	JC400/500-T1 アカデミック コミュニケーション	韓			JB100-T2-2 総合日本語	尹
III 13:30 ～ 15:00			IJ100	中俣	チュートリアル	TA 茶園 (漢字と語彙)				
		畑中	IJ200	山崎		花井		小原	IJ200	竹内
		西村	IJ300	半田		山田		寺尾	チュートリアル IJ300	TF 李
IV 15:10 ～ 16:40		蔭山	IJ100	小原		菅		蔭山		
							JW600/700 アカデミック ライティング	中俣		
V 16:50 ～ 18:20										
		蔭山	IJ300	半田		花井		小原	IJ200	浦木
	JW400/500-T1 アカデミック ライティング	畑中	IJ100	小原	JC400/500-T2 アカデミック コミュニケーション	菅		蔭山		
					学際融合 アカデミック コミュニケーション	瀬井	学際融合	韓		
	JR600/700・ 学際融合	西村	学際融合 アカデミック ライティング	村岡					IJ100	浦木

秋～冬学期 国際交流科目 (JA, JGU) & 全学共通教育科目 & 学際融合教育科目 & 日本語自律学習支援

科目種別： 国際交流科目 (日本語：JA, JGU) 全学共通教育科目 学際融合教育科目 日本語自律学習支援

時間帯	月		火		水		木		金	
	授	業	授	業	授	業	授	業	授	業
I 8:50 ～ 10:20		担当		担当		担当		担当		担当
	JA100-T1/T2	総合日本語 (講義)	難波		JA100-T1	総合日本語	岡田	JA100-T1	総合日本語	蔭山
	JA200-T1/T2	総合日本語 (講義)	大谷		JA100-T2	総合日本語	花井	JA100-T2	総合日本語	花井
	JA300-T1	総合日本語	住吉		JA100-T3	総合日本語	住吉	JA100-T3	総合日本語	住吉
	JA300-T2	総合日本語	上田		JA200-T1	総合日本語	上仲	JA200-T1	総合日本語	矢部
	JA400-T1	総合日本語	宮崎		JA200-T2	総合日本語	半田	JA200-T2	総合日本語	半田
	JA400-T2	総合日本語	矢部		JA300-T1/T2	総合日本語 (講義)	中俣	JA300-T1	総合日本語	上田
	JGU500a	グローバル理解演習	韓		JA400-T1	総合日本語	岡崎	JA300-T2	総合日本語	岡崎
II 10:30 ～ 12:00	JGU600a	グローバル理解演習	岡崎		JA400-T2	総合日本語	矢部	JA400-T1/T2	総合日本語 (講義)	義永
					JGU500b	グローバル理解演習	藤澤	JGU500c	グローバル理解演習	中俣
					JGU600b	グローバル理解演習	大谷	JGU600c	グローバル理解演習	小原
	JA100-T3	総合日本語 (講義)	難波		JA100-T4	総合日本語	住吉	JA100-T4	総合日本語	住吉
III 13:30 ～ 15:00	学際融合	言語学習 アドバンスング入門	義永							
IV 15:10 ～ 16:40		日本語 自律学習支援	瀬井							
V 16:50 ～ 18:20	専門日本語	義永	専門日本語	難波	専門日本語	村岡	総合日本語	福良		
	多文化コミュニケーション	岡本	多文化コミュニケーション	西村	多文化コミュニケーション	大谷				

資料 2 2022 年度 留学生日本語プログラム（選択コース） 履修登録者数（実人数）一覧

2-1 春～夏学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研究科／学部	総 計	身分別内訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*1}	研究生 ^{*2}	特 別 研究学生 ^{*3}	特 別 聴講学生 ^{*3}
文学研究科／文学部	6	3	3	0	0	0
人間科学研究科／人間科学部	14	4	9	0	0	1
法学研究科／法学部	10	4	3	1	0	2
経済学研究科／経済学部	10	1	9	0	0	0
理学研究科／理学部	16	1	14	0	1	0
医学系研究科／医学部	10	2	6	2	0	0
歯学研究科／歯学部	1	0	0	1	0	0
薬学研究科／薬学部	2	0	2	0	0	0
工学研究科／工学部	39	6	30	3	0	0
基礎工学研究科／基礎工学部	15	2	13	0	0	0
言語文化研究科	3	0	3	0	0	0
人文学研究科	8	0	3	5	0	0
国際公共政策研究科	9	0	3	6	0	0
情報科学研究科	8	0	5	3	0	0
生命機能研究科	4	0	4	0	0	0
接合科学研究所	0	0	0	0	0	0
蛋白質研究所	0	0	0	0	0	0
微生物病研究所	0	0	0	0	0	0
産業科学研究所	4	0	0	3	1	0
レーザー科学研究所	0	0	0	0	0	0
国際教育交流センター	3	0	0	3	0	0
計 ^{*4}	162	23	107	27	2	3

【特記事項】

- * 1. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。
- * 2. 研 究 生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。
- * 3. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。
- * 4. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。
また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
（未習）100	21	0	18	2	1	0
200	38	0	25	13	0	0
300	32	0	19	12	1	0
400	6	3	1	1	0	1
500	13	6	5	1	0	1
600	11	6	1	3	0	1
（超上級レベル）700 [*]	41	2	38	1	0	0
計	162	17	107	33	2	3

*：「（超上級レベル）700」には院生向けの「学際融合教育科目」を含む。

2-2 秋～冬学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*1}	研究生 ^{*2}	特 別 研究学生 ^{*3}	特 別 聴講学生 ^{*3}
文学研究科／文学部	1	1	0	0	0	0
人間科学研究科／人間科学部	10	4	5	0	0	1
法学研究科／法学部	5	3	2	0	0	0
経済学研究科／経済学部	4	2	2	0	0	0
理学研究科／理学部	8	0	8	0	0	0
医学系研究科／医学部	16	2	8	6	0	0
歯学系研究科／歯学部	4	0	2	2	0	0
薬学研究科／薬学部	4	3	1	0	0	0
工学研究科／工学部	59	2	48	5	1	3
基礎工学研究科／基礎工学部	8	0	8	0	0	0
人文学研究科	9	0	0	8	1	0
国際公共政策研究科	10	0	3	7	0	0
情報科学研究科	11	0	5	5	0	1
生命機能研究科	4	0	3	1	0	0
連合小児発達学研究科	1	0	1	0	0	0
接合科学研究所	2	0	0	1	1	0
蛋白質研究所	1	0	0	1	0	0
微生物病研究所	1	0	0	1	0	0
産業科学研究所	1	0	0	1	0	0
サイバーメディアセンター	1	0	0	1	0	0
日本語日本文化教育センター	2	0	0	2	0	0
免疫学フロンティア研究センター	2	0	0	2	0	0
国際教育交流センター	4	0	0	3	0	1
計 ^{*4}	168	17	96	46	3	6

【特記事項】

- *1. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。
- *2. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。
- *3. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。
- *4. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。
また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	34	0	22	7	2	3
200	35	1	21	11	0	2
300	18	2	8	8	0	0
400	22	2	15	4	1	0
500	19	5	3	11	0	0
600	9	4	2	3	0	0
(超上級レベル) 700*	31	2	25	3	0	1
計	168	16	96	47	3	6

*：「(超上級レベル) 700」には院生向けの「学際融合教育科目」を含む。

資料 3-1 国際交流科目授業時間割（令和4年春・夏学期）

時 限	時間	月		火	水		木	金			
		豊中／吹田キャンパス		豊中キャンパス	豊中／吹田キャンパス		豊中キャンパス	吹田／豊中／箕面キャンパス			
I	8:50 10:20			総合日本語JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 日本語・グローバル理解演習JGU500d, 日本語・グローバル理解演習JGU600d) 《国際教育交流センター》	総合日本語JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 日本語・グローバル理解演習JGU500e, 日本語・グローバル理解演習JGU600e) 《国際教育交流センター》		総合日本語JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 日本語・グローバル理解演習JGU500f, 日本語・グローバル理解演習JGU600f) 《国際教育交流センター》		※UC Frontier Science I 《大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室》		
				100 : 難波 康治 200 : 大谷 晋也 300-1 : 住吉 秀紀 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 宮崎 さとみ 400-2 : 小原 俊彦 JGU500d : 韓 喜善 JGU600d : 矢部 正人	100-1 : 岡田 亜矢子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 矢部 正人 200-2 : 半田 佳奈子 300 : 中俣 尚己 400-1 : 岡崎 洋三 400-2 : 小原 俊彦 JGU500e : 藤澤 好恵 JGU600e : 大谷 晋也		100-1 : 藤山 拓 100-2 : 花井 理香 200-1 : 矢部 正人 200-2 : 半田 佳奈子 300-1 : 上田 安希子 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 義永 美央子 JGU500f : 中俣 尚己 JGU600f : 伊藤 創		John Hampton INO		
				100 : 全学教育 B306 200 : 全学教育 C205 300-1 : 全学教育 A305 300-2 : 全学教育 C405 400-1 : 全学教育 C403 400-2 : 全学教育 C104 JGU500d : 全学教育 C107 JGU600d : 全学教育 C407	100-1 : 全学教育 A315 100-2 : 全学教育 C304 200-1 : 全学教育 B306 200-2 : 全学教育 B316 300 : 全学教育 C408 400-1 : 全学教育 A304 400-2 : 全学教育 C405 JGU500e : 全学教育 A305 JGU600e : 全学教育 C101		100-1 : 全学教育 B206 100-2 : 全学教育 A204 200-1 : 文法経本館 464 講義室 200-2 : 全学教育 C405 300-1 : 全学教育 A203 300-2 : 全学教育 A103 400 : 全学教育 A001 JGU500f : 全学教育 A315 JGU600f : 文法経本館 461 講義室		オンライン		
II	10:30 12:00	我が国の保健サービスと医療ケア 《医学研究科》	ジェンダー論 《人間科学部G30》	身の回りの高分子 《理学研究科》				近代日本文学における大阪 《人文学研究科》	※UC Frontier Science I 《大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室》	多文化共生論 《人間科学部G30》	※UC Frontier Science I 《大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室》
		松本 博志	Paola Cavaliere	山口 浩靖、他				村上スミス・アンドリュース	John Hampton INO	Kim Mawer	John Hampton INO
		オンライン	全学教育 SCセミナー室B	理学研究科E201				全学教育 SCセミナー室C	オンライン	人間科学研究科 本館31 講義室	オンライン
III	13:30 15:00	シティズンシップと多文化共生 《人間科学部G30》		日本の社会とイデオロギー 《国際教育交流センター》	知覚と認知の心理学 《人間科学部G30》	イスラーム家族法 《法学研究科》	日本における大学の国際化 《国際教育交流センター》	科学英語入門 《国際教育交流センター》			
		北山 夕華		近藤 佐知彦	森川 和則	Elbalti Beligh	石倉 佑季子	岡本 紗知			
		人間科学研究科／本館12 講義室		全学教育 SCセミナー室C	人間科学研究科 東館106 講義室	オンライン	文理融合棟共通講義室1,2	オンライン			
IV	15:10 16:40	異文化コミュニケーションとパフォーマンス 《国際教育交流センター》		文化人類学入門 《人間科学部G30》	オンライン・リソースを活用したL2学習 《国際教育交流センター》	イノベーションの管理と変遷 《国際教育交流センター》		日本芸術瞥見 《人文学研究科》		異文化理解演習 《外国語学部》	
		中野 遼子		Mohacsi Gergely	魚崎 典子	近藤 佐知彦／三森 八重子		岡田 裕成		波多野 吉徳	
		ICホール 講義室5・6		全学教育 SCセミナー室B	サイバーメディアセンター CALL教室第1B教室	全学教育 A212		オンライン		外国語学部 632 講義室	
V	16:50 18:20			日本法入門 《法学研究科》	比較法入門 《法学研究科》						環境・エネルギー問題に対する工学的アプローチ 《工学研究科》
				Elbalti Beligh	Elbalti Beligh				大石 佑治		
		オンライン		オンライン				工学研究科 M3-211			

※ 4-8 月第 1 週目の木 2、金 1、金 2 開講

資料 3-2 国際交流科目授業時間割（令和4年秋・冬学期）

時 限	時 間	月		火		水			木			金	
		豊中／吹田キャンパス		豊中／吹田キャンパス		豊中／吹田キャンパス			豊中／吹田キャンパス			豊中／箕面キャンパス	
I	8:50 10:20			総合日本語JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 日本語・グローバル理解演習JGU500a 日本語・グローバル理解演習JGU600a) 《国際教育交流センター》		総合日本語JA (100-1, 100-2, 100-3, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 日本語・グローバル理解演習JGU500b, 日本語・グローバル理解演習JGU600b) 《国際教育交流センター》			総合日本語JA (100-1, 100-2, 100-3, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 日本語・グローバル理解演習JGU500c, 日本語・グローバル理解演習JGU600c) 《国際教育交流センター》			※UC Frontier Science II《大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室》	
				100 : 難波 康治 200 : 大谷 晋也 300-1 : 住吉 秀紀 300-2 : 上田 安希子 400-1 : 宮崎 さとみ 400-2 : 矢部 正人 JGU500a : 韓 喜善 JGU600a : 岡崎 洋三		100-1 : 岡田 亜矢子 100-2 : 花井 理香 100-3 : 住吉 秀紀 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田 佳奈子 300 : 中俣 尚己 400-1 : 岡崎 洋三 400-2 : 矢部 正人 JGU500b : 藤澤 好恵 JGU600b : 大谷 晋也			100-1 : 藤山 拓 100-2 : 花井 理香 100-3 : 住吉 秀紀 200-1 : 矢部 正人 200-2 : 半田 佳奈子 300-1 : 上田 安希子 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 義永 美央子 JGU500c : 中俣 尚己 JGU600c : 小原 俊彦			John Hampton INO	
				100 : 全学教育 C206 200 : 全学教育 A203 300-1 : 全学教育 C104 300-2 : 全学教育 C107 400-1 : 全学教育 C303 400-2 : 全学教育 C407 JGU500d : 全学教育 C408 JGU600d : 全学教育 C409		100-1 : 全学教育 C201 100-2 : 全学教育 C205 100-3 : 全学教育 C304 200-1 : 全学教育 C307 200-2 : 全学教育 C403 300 : 全学教育 C406 400-1 : 全学教育 C404 400-2 : 全学教育 A101 JGU500e : 全学教育 C405 JGU600e : 全学教育 C303			100-1 : 全学教育 C205 100-2 : 全学教育 C308 100-3 : 全学教育 A305 200-1 : 全学教育 A315 200-2 : 全学教育 C204 300-1 : 全学教育 C408 300-2 : 全学教育 C401 400 : 全学教育 C403 JGU500f : 全学教育 C301 JGU600f : 全学教育 A103			オンライン	
II	10:30 12:00	社会学 (人間科学部G30)	応用理工学入門 《工学研究科》	総合日本語JA100 (国際教育交流センター)	日本と中国の文学と言語 《人文学研究科》	※UC Frontier Science II (大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室)	総合日本語JA100 (国際教育交流センター)	ケーススタディ(アジア企業) 《経済学研究科》	移動の社会学 (人間科学部G30)	総合日本語JA100 (国際教育交流センター)	近代・現代日本文学 《人文学研究科》	日本における多様性と人権 (人間科学部G30)	※UC Frontier Science II (大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室)
		Christian Etzrodt	大須賀 公一	難波 康治	渡邊 英理	John Ino	住吉 秀紀	許 衛東	Kim Mawer	住吉 秀紀	村上スミス・アンドリュース	北山 夕華	John Hampton INO
		人間科学研究科 31 講義室	オンライン	全学教育 SCセミナー室B	オンライン	オンライン	全学教育 C306	法経研究棟 509	人間科学研究科 東 316 講義室	全学教育 C404	全学教育 SCセミナー室B	人間科学研究科 本館 32 講義室	オンライン
III	13:30 15:00	国際理解入門 《工学研究科》		日本のサル学 《人間科学部G30》	日本の言語政策と多言語社会 (国際教育交流センター)		特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題) 《法学研究科》		日本のメディアとコミュニケーション (国際教育交流センター)		科学と社会 《国際教育交流センター》		量子情報エレクトロニクスの最前線 《工学研究科》
		藤田 清士		James Anderson	林 貴哉	Leonardo Ciano	近藤 佐知彦		岡本 紗知		廣瀬 哲也		
		工学研究科 C1-111		人間科学研究科 東 316 教室	全学教育 SCセミナー室B	文法経講義棟 法 22 講義室	全学教育 C406		全学教育 C305		工学研究科 E1-216		
IV	15:10 16:40	多変量統計科学 《人間科学部G30》		コンピュータを活用した語学学習 《国際教育交流センター》		異文化コミュニケーション入門 《国際教育交流センター》		ソーシャルイノベーションとソーシャルデザイン 《国際教育交流センター》		文化：その理解へのアプローチ 《国際教育交流センター》			
		足立 浩平		魚崎 典子		石倉 佑季子		近藤 佐知彦／三森 八重子		有川 友子			
		オンライン		オンライン		全学教育 C307		全学教育 A212		全学教育 A002			
V	16:50 18:20	中東の法と社会 《法学研究科》		宇宙地球科学への招待 《理学研究科》	私法の諸問題 《法学研究科》	コモンロー入門 《法学研究科》	情報科学入門 《情報科学研究科》						
		Elbalti Beligh		波多野 恭弘	Elbalti Beligh	Elbalti Beligh	土屋 達弘						
		文法経講義棟 法 42 講義室		理学研究科 F202	文法経講義棟 法 42 講義室	文法経講義棟 法 42 講義室	IC ホール 講義室 5・6						

※ 10-2 月第2週目の火・金1・金2開講

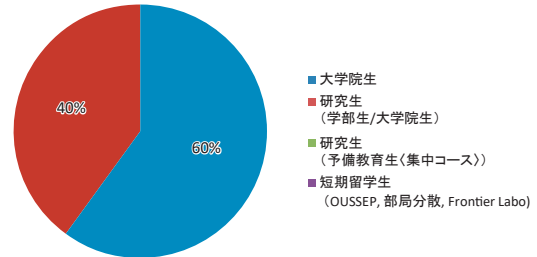
資料 4 日本語授業についてのアンケート

2022 年度 春～夏学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分 回答者のみ

(1) 大学院生	36
(2) 研究生（学部生/大学院生）	24
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	0
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	0
計	60



* 延総受講者数 101 名のうち、アンケート回答者数 37 名（全体の約 37%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.2	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.2	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	3.1	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	2.6	
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.0	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	3.6	

B. 授業への感想

授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------

(1) この授業は体系的に構成されていた。

4.1

(2) 教師は十分な準備をしていた。

4.4

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

4.3

(4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。

4.5

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

4.1

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

4.2

(7) 宿題の量は適切だった。

4.1

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

4.2

(9) この授業を受講してよかったと思う。

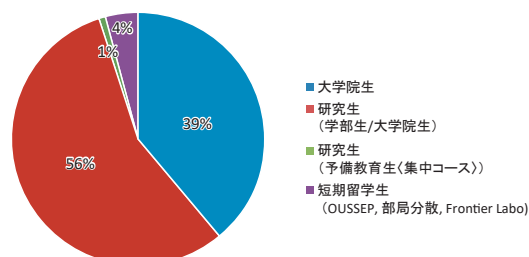
4.2

2022 年度 秋～冬学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分 回答者のみ

(1) 大学院生	29
(2) 研究生（学部生/大学院生）	42
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	1
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	3
計	75



* 延総受講者数 192 名のうち、アンケート回答者数 75 名（全体の約 39%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.2	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.1	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	2.9	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	2.7	
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.0	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	4.1	

B. 授業への感想

業への感想					(5：高評価)
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	
この授業は体系的に構成されていた。					4.7
教師は十分な準備をしていた。					4.8
教師の説明はわかりやすかった。					4.7
教師は質問に丁寧に答えてくれた。					4.8
練習やアクティビティは役に立った。					4.5
クイズや課題・テストなどは適切だった。					4.4
宿題の量は適切だった。					4.3
指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。					4.4
この授業を受講してよかったと思う。					4.6

資料 5 国際交流科目 授業評価アンケート（質問票）

アンケート作成/回答入力

タイトル	End of Semester Evaluation Questionnaire (International Exchange Subjects)
概要	*Note: The main purpose of this survey is to evaluate and enhance the educational benefits and teaching quality of the instructors. This information may be used by the instructor, coordinator(s), and/or staff of the program as a reference for educational and improvement purposes in an anonymous form. Your answers to the questions will have no effect on your grade. You have 10 minutes to answer the questions. Please take your time completing the survey.
開講科目名	哲学的思考と日本の伝統

1:Your gender 【1つ選択してください。】 (回答必須)

I. ☐ Male
 II. ☐ Female
 III. ☐ Other

2:Your age 【記述式 50文字以内】 (回答必須)

3:Your home country 【1つ選択してください。】 (回答必須)

4:Please write your home country if you chose "others" for question 3. 【記述式 100文字以内】

5:Your native language 【1つ選択してください。】 (回答必須)

6:Please write your native language if you chose "others" for question 5. 【記述式 100文字以内】

7: Your program 【1つ選択してください。】 (回答必須)

I. ☐ OUSSEP
 II. ☐ iExpo (Regular exchange student)
 III. ☐ FrontierLab@Osaka
 IV. ☐ Maple
 V. ☐ International-College(G30)CBCMP
 VI. ☐ International-College(G30)HUS
 VII. ☐ Faculty-level exchange student
 VIII. ☐ Regular Student
 IX. ☐ Auditor
 X. ☐ Others

8:Please write your program if you chose "others" for question 7. 【記述式 100文字以内】

9:Your Japanese level 【1つ選択してください。】 (回答必須)

I. ☐ Native
 II. ☐ Excellent
 III. ☐ Good
 IV. ☐ Fair
 V. ☐ Poor

10:Your English level 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Native
- II. ☐ Excellent
- III. ☐ Good
- IV. ☐ Fair
- V. ☐ Poor

11:Which field is your major closest to? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Dentistry
- II. ☐ Economics
- III. ☐ Engineering
- IV. ☐ Engineering Science
- V. ☐ Foreign Studies
- VI. ☐ Human Sciences
- VII. ☐ Information Science and Technology
- VIII. ☐ International Public Policy
- IX. ☐ Language and Culture
- X. ☐ Law and Politics
- XI. ☐ Letters
- XII. ☐ Medicine
- XIII. ☐ Pharmaceutical
- XIV. ☐ Sciences
- XV. ☐ Others

12:Please write your major if you chose "others" for question 11. 【記述式 100文字以内】

13:Which field is your minor closest to? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

14:Please write your minor if you chose "others" for question 13. 【記述式 1,000文字以内】

15:How often did you attend this class so far? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ All
- II. ☐ 80% ~
- III. ☐ 60% ~
- IV. ☐ 50% ~ 59%
- V. ☐ Less than half

16:Let us know the main reason for taking this class. Please write the reason. (e.g. OUSSEP completion, personal interest, others.) 【記述式 1,000文字以内】 (回答必須)

17:Are you satisfied with this class? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

18:Is the lecture understandable? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

19: Does the instructor speak English understandably? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

20: Is the class conducted in accordance with the syllabus? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

21: Does the instructor appropriately answer questions that the students have? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

22: Let us know your opinion on the amount of reading and assignments (inside and outside of class). 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Too much.
- II. ☐ Much.
- III. ☐ Adequate.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Too little.

23: Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

24: Does the instructor think out a method or way to improve the education effect? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

25: Is the lecture interactive (e.g. between instructor and students, among students)? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

26: Did you develop global awareness and learn different cultures and values through taking this class? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

27: How well does the TA/TF contribute? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ There are no TAs/TFs.

28:(Only for international students) Do you intend to transfer the credit to your home institution? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ I'll transfer the credit.
- II. ☐ I can transfer, but I don't need credits.
- III. ☐ I cannot transfer.
- IV. ☐ I'm an Osaka University student.

29:(Only for international students) To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ There are no Japanese students.
- VII. ☐ I'm a Japanese student.

30:(Only for international students) Can you recommend this class to other international students and students of your home university? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm a Japanese student.

31:(Only for Osaka University students) Do you take this class to get the credit for graduation? 卒業要件単位取得の目的で受講していますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, I'll get the credit for graduation.
- II. ☐ No, I'm an auditor.
- III. ☐ No, I'll get the credit, however the credit is not necessary for graduation.
- IV. ☐ I'm not a regular student.

32:(Only for Osaka University students) To what extent have you had opportunities to talk to international students in this class? この授業で留学生との交流はできましたか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

33:(Only for Osaka University students) Do you have more opportunities to communicate with international students outside classes through taking this class? 授業に参加することで授業以外で留学生と話す機会が増えましたか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

34:(Only for Osaka University students) Have you ever studied abroad before? あなたはこれまでに留学したことがありますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ I have studied abroad for 6 months or more.
- II. ☐ I have studied abroad for 3 months or more.
- III. ☐ I have studied abroad for less than 3 months.
- IV. ☐ I haven't studied abroad, however I'm thinking about it in the future.
- V. ☐ I haven't studied abroad, and don't plan to do so in the future.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

35:(Only for Osaka University students) Did you become interested in studying abroad through taking this class? 授業に参加することであなたは海外留学に興味を持ちましたか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I have already studied abroad before.
- VII. ☐ I'm not a regular student.

36:(Only for Osaka University students) Is this class helpful in preparing for studying abroad? 海外留学のための準備としてこの授業に参加することは、役に立つと思いますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

37:(Only for Osaka University students) Can you recommend this class to other students? 後輩や他の学生にこの授業を受講することを勧められますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

38:Do you think that the class should keep being conducted online? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

39:Let us know what good points in this online class? 【記述式 1,000文字以内】 (回答必須)

40:Let us know what difficulties you have in this online class? 【記述式 1,000文字以内】 (回答必須)

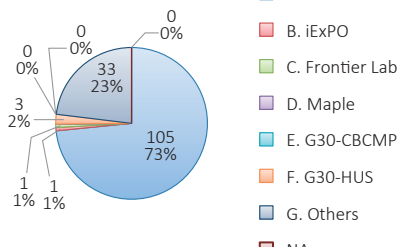
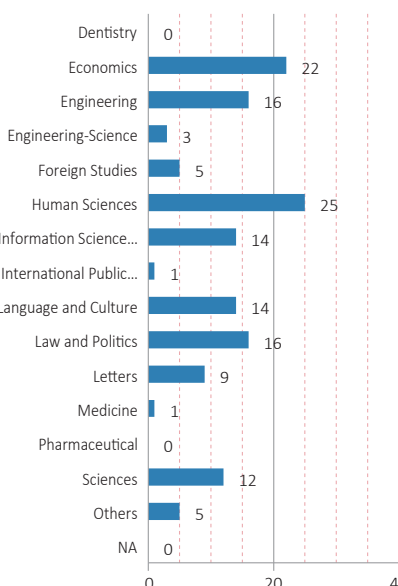
41:Let us know if there are any favorable methods of teaching or class organization that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. audio-visual material, field trip, discussions, quizzes, etc.) 【記述式 1,000文字以内】

42:Let us know if you have any suggestions or advice to improve the class. 【記述式 1,000文字以内】

43:Please freely write any other comments and opinions. 【記述式 1,000文字以内】

[回答確認](#) [一時保存](#) [クリア](#) [一覧に戻る](#)

資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果）

End of Semester Evaluation Questionnaire (International Exchange Subjects) for 2022 Spring and Summer term				
Exchange international students (English)				
1	Which is your program?	Answer	Num.	
		A. OUSSEP	105	
		B. iExPO	1	
		C. Frontier Lab	1	
		D. Maple	0	
		E. G30-CBCMP	0	
		F. G30-HUS	3	
		G. Others	33	
		NA	0	
		Total Num.	143	
2	Subject	All the International Exchange Subjects (a number of subjects included)		
4	Your Major	Answer	Num.	
		Dentistry	0	
		Economics	22	
		Engineering	16	
		Engineering-Science	3	
		Foreign Studies	5	
		Human Sciences	25	
		Information Science and Technology	14	
		International Public Policy	1	
		Language and Culture	14	
		Law and Politics	16	
		Letters	9	
		Medicine	1	
		Pharmaceutical	0	
		Sciences	12	
		Others	5	
		NA	0	
		Total Num.	143	
		5	How often did you attend this class so far?	
A:all	69			
B:80%~	65			
C:60%~	4			
D:50~59%	0			
E:less than half	4			
NA	1			
Total Num.	143			
6 (a)	Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?			Answer
		A. Yes	80	
		B. No	63	
		NA	0	
		Total Num.	143	

6 (b)	If "No", please choose the reason.		- A: I'm an Osaka University's student - B: I can transfer, But I don't need credits. - C: I cannot transfer. - D: Other - NA	
	Answer	Num.		
	A: I'm an Osaka University's student	10		
	B: I can transfer, But I don't need credits.	26		
	C: I cannot transfer.	27		
	D: Other	0		
	NA	0		
Total Num.		63		
7	Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.			
	Own interest. OUSSEP completion, Knowledge, Credits. In order to convalidate my home university classes.			
	I took this class because the exchange students from my school in France who came before took it and told me it was very nice. I am personally very interested in theater and communication and I thought it would be a great experience (it was).			
	I have to choose 7 classes according to my inter-faculty student exchange program, and in April I cannot went to Japan to take offline class, so I have to choose an online class.			
	I wanted to interact with other international and Japanese students in Osaka University and find out more about their home countries.			
8	Are you satisfied with this class?	Answer	Num.	- A: yes, very much - B: almost always - C: to some extent - D: a little - E: not at all - NA
		A: yes, very much	64	
		B: almost always	39	
		C: to some extent	25	
		D: a little	8	
		E: not at all	7	
		NA	0	
Total Num.		143		
9	To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?	Answer	Num.	- A: yes, very much - B: to some extent - C: a little - D: not at all - E: There are no Japanese students
		A: yes, very much	18	
		B: to some extent	20	
		C: a little	16	
		D: not at all	47	
		E: There are no Japanese students	35	
		F: I'm a Japanese student	6	
Total Num.		142		
10	Is the lecture understandable?	Answer	Num.	- A: yes, very much - B: almost always - C: to some extent - D: not so much - E: not at all - NA
		A: yes, very much	75	
		B: almost always	36	
		C: to some extent	20	
		D: not so much	8	
		E: not at all	4	
		NA	0	
Total Num.		143		
11	Does the instructor speak English understandably?	Answer	Num.	- A: yes, very much - B: almost always - C: to some extent - D: not so much - E: not at all - NA
		A: yes, very much	93	
		B: almost always	21	
		C: to some extent	18	
		D: not so much	8	
		E: not at all	3	
		NA	0	
Total Num.		143		

12	Is the class conducted in accordance with the syllabus?	Answer	Num.	■ A:yes,very much ■ B:almost always ■ C:to some extent ■ D:not so much ■ E:not at all ■ NA
		A:yes,very much	110	
		B:almost always	22	
		C:to some extent	6	
		D:not so much	5	
		E:not at all	0	
		NA	0	
		Total Num.	143	
13	Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?	Answer	Num.	■ A:yes,very much ■ B:almost always ■ C:to some extent ■ D:not so much ■ E:not at all ■ NA
		A:yes,very much	100	
		B:almost always	19	
		C:to some extent	19	
		D:not so much	5	
		E:not at all	0	
		NA	0	
		Total Num.	143	
14	Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.	Answer	Num.	■ A: Too much ■ B: Much ■ C: Adequate ■ D: a little ■ E: Too little
		A: Too much	7	
		B: Much	29	
		C: Adequate	101	
		D: a little	5	
		E: Too little	1	
		Total Num.	143	
15	Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?	Answer	Num.	■ A:yes,very much ■ B: Almost always ■ C: To some extent ■ D: a little
		A:yes,very much	91	
		B: Almost always	29	
		C: To some extent	12	
		D: a little	8	
		E: Not at all	3	
		Total Num.	143	
16	Is there any TA in the class?	Answer	Num.	■ A: Yes ■ B: No ■ NA
		A: Yes	105	
		B: No	38	
		NA	0	
		Total Num.	143	
	If YES, how well does the TA contribute?	Answer	Num.	■ A:yes,very much ■ B:almost always ■ C:to some extent ■ D:not so much ■ E:not at all ■ NA
		A:yes,very much	54	
		B:almost always	21	
		C:to some extent	9	
		D:not so much	13	
		E:not at all	8	
		NA	0	
		Total Num.	105	

17	Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain.
	Diversity of materials is very good.
	Group discussion was really good method to improve speaking and listening abilities and to increase confidence to communicate in English.
	Lots of experiments and hands on opportunities to interact with the polymers taught in lecture was great!
	I really enjoyed when Professor Morikawa had students participate in the topics covered in psychological experiments in class, allowing for students to experience first hand what the different changes in perception and cognition are which helped understand better and connect more with the material. I loved the many videos as well, and various ways of mixed media in terms of presenting the material to the class.
	I really enjoyed the inCircle chatting where everyone can contribute and talk and participate very easily and freely!
	The interactive classes with quizzes were very good. For more classic lecture with the professor explaining the subject, I think the on demand classes are useful.
18	Let us know your suggestion or advice to improve the class.
	For easier online learning, if any experiments were conducted in class, I believe it could be helpful to record and upload this material as well.
	I personally do not like the fully memorization based examination styles, rather preferring examination methods which allow for a sheet of paper to act as a basic memory aid and a more in depth, application based examination questions. Other than the examination style, however, I thought the class was spectacular!
	I think it would be nice to have more opportunities of interactivity, zoom polls to test students understanding during the lecture, group discussion, and questions directed at students in the class can be great ways to make the lecture more interactive and avoid passive learning (just sitting and listening to an instructor continuously speak for 90 min).
	It might be hard to implement and sad to exclude a number of students that would like to attend but of course the large size sometimes makes it difficult to get into a more deep discussion and intimate setting where everyone can contribute.
	Improve English level Handout readings before class Build in group-discussions Involve the students more than asking one question.
	Although it was interesting to know about very precise thematics, I would have liked to know more generally about Japanese arts before it, maybe as a general first lecture.
19	Please write other comments and frank opinions freely, if any.
	"This class is brilliant in concept, terrible in execution" - a classmate
	In the first class, I was afraid to speak English and couldn't talk much in discussion. However, as the time goes by, I came to talk actively and became confident to communicate in English. Thank you very much.
	I just quit the classes because they had no relation to my major and I also was having some trouble connecting with its subject.
	Really glad that I took this class this semester! Keep up the good work!
	Thank you for an awesome experience that made my stay in Japan more worthwhile.
	一学期の間本当にありがとうございました！
	This is the best course offered under the OUSSEP program. I recommend every student take it, if possible.
	This class should be offered in person and have more structure.
	Very good class! engaging and covers the subject very well
	Thank you for this semester!

2022 年度 年 報

2023 年 8 月 31 日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号

電話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

制 作：株式会社 遊 文 舎